平成２２年度業務実績報告書

平成２３年６月
独立行政法人国立美術館

目　　次

Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上
1　美術振興の中心的拠点としての多彩な活動の展開
（1）多様な鑑賞機会の提供 3
①　所蔵作品展 3
②　企画展 4
③　５館共同企画展 7
④　巡回展 7
⑤　東京国立近代美術館フィルムセンター映画上映等 8
（2）美術創造活動の活性化の推進 9
①　公募団体等への展覧会会場の提供（国立新美術館） 9
②　新しい芸術表現への取組み 10
（3）美術に関する情報の拠点としての機能の向上 12
①　情報通信技術（ＩＣＴ）を活用した展覧会情報や調査研究成果などの公表等 12
②　美術情報の収集，記録の作成・蓄積，デジタル化，レファレンス機能の充実 13
（4）国民の美的感性の育成 15
①　幅広い学習機会の提供 15
②　ボランティアや支援団体の育成等による教育普及事業 17
③　映画フィルム・資料を活用した教育普及活動 19
（5）調査研究成果の美術館活動への反映 20
①　調査研究一覧 20
②　展覧会カタログの執筆 25
③　研究紀要，館ニュース等の執筆 28
（6）快適な観覧環境の提供 32
①　高齢者，身体障害者，外国人等への対応 32
②　展示，解説の工夫と音声ガイドの導入 32
③　入場料金，開館時間等の弾力化 33
④　キャンパスメンバーズ制度の実施 34
⑤　ミュージアムショップ，レストラン等の充実 34

2　我が国の近・現代美術及び海外の美術を体系的・通史的に提示し得るナショナルコレクションの形成・継承
（1）美術作品の収集 35
（2）収蔵庫等保存施設の狭隘・老朽化への対応と適切な保存環境の整備等 37
①　収蔵庫等の狭隘・老朽化への対応 37
②　保存環境の整備等と防災対策の推進・充実 38
（3）所蔵作品の修理・修復 38
（4）美術作品の保管・修理等に関する調査研究 40

3　我が国における美術館のナショナルセンターとして美術館活動全体の活性化に寄与
（1）所蔵作品等に関する調査研究成果の発信 43
①　研究紀要，学術雑誌，展覧会刊行物，学会等での発信 43
②　所蔵作品等に関するセミナー・シンポジウムの開催 52
（2）国内外の美術館等との連携 54
①　シンポジウムの開催等による国内外の優れた研究者等との人的ネットワークの構築 54
②　我が国の作家，美術作品による展覧会開催のための海外の美術館との連携・協力 57
（3）国内外の美術館及びフィルム・アーカイブ等との保存・修復に関する情報交換 57
（4）所蔵作品の貸与等 58
（5）美術教育の一翼を担うナショナルセンターとしての活動 59
①　美術館を活用した鑑賞教育の充実のための指導者研修の実施 59
②　先駆的・実験的な教材やプログラムの開発 59
（6）美術館活動を担う中核的人材の育成 60
（7）全国の美術館等との連携・人的ネットワークの構築 60

①　企画展・上映会等の共同主催と共同研究 60
②　キュレーター研修 62
（８）我が国の映画文化振興の中核的機関としてのフィルムセンターの活動 62
①　国際フィルム・アーカイブ連盟（ＦＩＡＦ）の正会員としての活動 62
②　日本映画情報システムの運営 62
③　所蔵映画フィルム検索システムの拡充 62
④　映画関係団体等との連携 63
⑤　フィルムセンターの東京国立近代美術館からの独立の検討 63

Ⅱ　業務運営の効率化
１　業務の効率化のための取り組み 64
（１）各美術館の共通的な事務の一元化 64
（２）使用資源の削減 64
（３）美術館施設の利用推進 66
（４）民間委託の推進 67
（５）競争入札の推進 67
２　事業評価及び職員の研修等 68
３　管理情報の安全性向上 68
４　人件費の抑制，給与体系の見直し 69

Ⅲ　予算（人件費の見積もりを含む），収支計画及び資金計画
１　予算 71
２　収支計画 71
３　資金計画 73
４　貸借対照表 73
５　短期借入金 74
６　重要な財産の処分等 74
７　剰余金 74
８　人事に関する計画 74
９　施設整備に関する計画 76
10　関連公益法人 77

（別紙１）公益調達の適正化（財計第 2017 号）等に即した実施状況
（別紙２）独立行政法人国立美術館の役職員の報酬・給与等について

Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上

1　美術振興の中心的拠点としての多彩なや活動の展開

（1）多様な鑑賞機会の提供

①　所蔵作品展

館　名	開催日数	展示替回数	入館者数	目標数
東京国立近代美術館(本館)	267	5	172,795	162,000
東京国立近代美術館(工芸館)	201	4	56,418	55,000
京都国立近代美術館	223	5	127,234	104,000
国立西洋美術館	278	4	271,823	250,000
国立国際美術館	197	4	423,557	252,000
計	1,166	22	1,051,827	823,000

各館の特徴

ア　東京国立近代美術館

（本館）

所蔵作品展「近代日本の美術」では，絵画・彫刻・水彩・素描・版画・写真など，約10，000点のコレクションから，毎回170～220点の作品を選び，時代ごとに章分けした構成を施し，20世紀初頭から現代に至る近代日本美術の流れを系統的に分かりやすく概観できるように展示した。あわせて，各階の時代区分などの大枠や主要作品の出品は一定に保ちながら，会期ごとに（前年度からの継続を含め6会期）大幅な展示作品の入れ替え（日本画・版画・写真はすべて）を行った。

また 4F 特集コーナー，3F 版画コーナー・写真コーナー，2F ギャラリー4 では，「特集　長谷川利行」，所蔵作品による小企画「手探りのドローイング」，テーマで歩こう「庭－作家の小宇宙」など 13 回の小企画展・テーマ展を実施した。さらに，年間計画に既に組まれたもの以外に「盛田良子コレクション」など適宜小特集コーナーを増設した。全体として，来館者の満足度を上げる工夫を行うなど，編年順の所蔵作品展とは異なった視点を導入し，新鮮さと会期ごとの変化を印象づけるよう努めた。

（工芸館）

陶磁，ガラス，染織，漆工，木竹工，金工・ジュエリー，人形，グラフィック・デザイン等の各分野にわたるコレクションの中から，本年度は春の恒例的な企画となっている「近代工芸の名品―花―」のほか，「アール・デコ時代の工芸とデザイン」，「こども工芸館／おとな工芸館　イロ×イロ」，「現代の人形」，「近代工芸の名品」を実施した。このうち，「こども工芸館／おとな工芸館」では，本展にあわせて児童・生徒を対象の中心とした鑑賞プログラムを連動させて開催した。また，引き続き，展示会場の作品キャプションや出品目録の作家名，作品名にフリガナをふるとともに，素材や技法を標記するなど，来館者サービスの充実に努めた。

イ　京都国立近代美術館

当館の「コレクション・ギャラリー」では，本年度も継続して，コレクションの有効活用との視点から，5 回の展示替えを行うとともに，「上村松園展」に関連し，法人全体の取組によって新たに収蔵となった作品の披露も兼ねた「創る女－ハンナ・ヘッヒの世界」，「『日本画』の前衛　1938－1949」に関連し「玉村方久斗特集」，「麻生三郎展」に関連し「麻生三郎をめぐる画家たち」など，企画展に関連したコレクションによる小企画展やテーマ展示

を実施した。また，引き続き，事前に「コレクション・ギャラリー」の展示内容とともに，テーマ展示や小企画についてもその開催意図などをホームページ上で紹介した。

ウ　国立西洋美術館

所蔵作品から約 200 点の絵画・彫刻を選んでおおむね時代順に配列し，中世末期から 20 世紀までの西洋美術の流れを辿ることのできる展示を行った。この間，4 回の展示替えを行ったが，それによる休室は最小限にとどめ，絵画･彫刻コレクションの主要作品を常時公開するよう努めた。

また，版画素描展示室では，開館 50 周年記念事業の一環として，また「フランク・ブラングィン展」の関連展示として企画された「所蔵水彩・素描展―松方コレクションとその後」はじめ 5 本の小企画展を開催し，素描・版画コレクションの多様な側面を紹介した。

なお，常設展用の新しい音声映像ガイド「Touch the Museum」を本格的に稼働させたが，ダウンロード数は約 5 万件弱に及ぶもの，実際の展示室での利用者の数は少なかった。広報等を通じてさらなる周知に努めていきたい。

エ　国立国際美術館

本年度の所蔵作品展は，共催展及び企画展の開催にあわせて 4 回行った。特にコレクション 4 では当館が開館以来，開館ポスターやロゴタイプの制作を依頼し，非常につながりの深いデザイナーを特集し「早川良雄ポスター展」を開催した。また，これまで展示する機会の無かった作品や寄贈作品を積極的に活用して展示を構成するとともに，実施する機会の少なかった講演会をあわせて実施した。

全体的に，本年度は，企画展に併せて，関連の作家，作品を展示したり，あるいは，近年の収蔵品を中心に展示を構成するなど，創意，工夫を凝らした展覧会を行った。

②　企画展

企画展は，来館者のニーズに応え，以下の観点に留意して実施した。

イ　国際的視野に立ち，海外の主要美術館と連携し，確固たる評価を得ている世界の美術を紹介するとともに，我が国の作家や芸術的動向を海外に紹介する展覧会等に積極的に取り組む。

ロ　展覧会テーマの設定やその提示方法等について新しい方向性を示すことに努める。

ハ　メディアアート，アニメ，建築など我が国が世界から注目される新しい領域の芸術表現を積極的に取り上げ，最先端の現代美術への関心を促す。

ニ　過去の埋もれていた作家・作品・動向の発見や再評価に努める。

ホ　その他

館名	展覧会名	開催日数	入館者数	目標数	企画趣旨	共催者
東京国立近代美術館（本館）	①生誕 120 年　小野竹喬展	10	30,933	8,000	ロ，ニ	毎日新聞社,NHK,NHKプロモーション
	②建築はどこにあるの？　7 つのインスタレーション	88	36,705	29,000	ロ，ハ	
	③上村松園展	36	155,520	150,000	ロ	日本経済新聞社
	④麻生三郎展	36	10,303	12,000	ニ	京都国立近代美術館

	⑤鈴木清写真展　百の階梯、千の来歴	45	15,170	12,000	ニ	
	⑥『日本画』の前衛 1938―1949	32	10,406	8,000	ニ	京都国立近代美術館
	⑦ 生誕 100 年 岡本太郎展 【※1】	16	26,896	34,400	ロ	川崎市岡本太郎美術館，ＮＨＫ，ＮＨＫプロモーション
	計	263	285,933	253,400		
東京国立近代美術館（工芸館）	①現代工芸への視点―茶事をめぐって	60	12,692	11,000	ロ	
	②栄木正敏のセラミック・デザイン―リズム＆ウェーブ	32	8,623	8,000	ホ	
	③ ガ ラ ス ★ 高 橋 禎 彦 展 【※2】	22	4,449	5,000	ロ	
	計	114	25,764	24,000		
京都国立近代美術館	①マイ・フェイバリット―とある美術の検索目録／所蔵作品から	31	14,018	8,000	ロ，ニ	
	②稲垣仲静・稔次郎兄弟展	36	11,247	13,000	ニ	京都新聞社
	③ローマ追想―19 世紀写真と旅	34	7,232	14,000	イ，ニ	国立グラフィック研究所（ローマ），ジュゼッペ・パニーニ写真美術館（モデナ），モデナ貯蓄銀行基金
	④京都市立芸術大学創立 130 周年記念事業協賛　Trouble in Paradise/生存のエシックス	39	10,009	10,000	ロ，ハ	
	⑤『日本画』の前衛　1938―1949	39	8,504	13,000	ロ	東京国立近代美術館
	⑥上村松園展	36	126,979	100,000	ホ	日本経済新聞社，京都新聞社
	⑦麻生三郎展	41	9,558	10,000	ニ	東京国立近代美術館
	⑧パウル・クレー―おわらないアトリエ	17	14,149	17,000	イ，ロ	日本経済新聞社，京都新聞社
	計	273	201,696	185,000		
国立西洋美術館	①フランク・ブラングィン展	53	66,198	50,000	イ，ロ，ニ	読売新聞社
	②ナポリ・宮廷と美―カポディモンテ美術館展　ルネサンスからバロックまで	81	152,747	250,000	イ，ニ	イタリア文化財省・カポディモンテ美術館，TBSテレビ，東京新聞

	③アルブレヒト・デューラー版画・素描展　宗教／肖像／自然	67	69,599	30,000	イ，ロ	朝日新聞社，メルボルン国立ヴィクトリア美術館
	④レンブラント　光の探求/闇の誘惑【※3】	5	12,533	40,000	イ	日本テレビ放送網，読売新聞社
	計	206	301,077	370,000		
国立国際美術館	①国立国際美術館新築移転 5 周年記念絵画の庭―ゼロ年代日本の地平から	4	6,980	1,000	ロ	朝日新聞社，朝日放送
	②ルノワール－伝統と革新	63	321,024	131,000	イ，ニ	読売新聞社，読売テレビ
	③死なないための葬送－荒川修作初期作品展	63	325,412	133,000	ニ	
	④束芋：断面の世代	56	47,609	25,000	ハ	読売新聞社
	⑤横尾忠則全ポスター	54	37,259	24,000	ロ，ハ，ニ	日本経済新聞社
	⑥マン・レイ展	42	26,413	20,000	ロ	日本経済新聞社
	⑦ウフィツィ美術館　自画像コレクション　巨匠たちの「秘めた素顔」1664-2010	67	60,589	90,000	イ	朝日新聞社
	⑧風穴　もうひとつのコンセプチュアリズム、アジアから	21	4,015	5,000	ロ	
	計	370	829,301	429,000		
国立新美術館	①ルノワール－伝統と革新	5	35,317	20,000	イ	読売新聞社，日本テレビ放送網
	②アーティスト・ファイル 2010 ―現代の作家たち	31	17,766	15,000	ホ	
	③ルーシー・リー展	48	113,584	48,000	ニ	東京国立近代美術館，日本経済新聞社
	④オルセー美術館展 2010 「ポスト印象派」	72	777,551	280,000	イ，ロ	オルセー美術館，日本経済新聞社
	⑤マン・レイ展	54	75,124	81,000	ロ，ニ	日本経済新聞社
	⑥陰影礼讃－国立美術館コレクションによる	36	29,143	18,000	イ	
	⑦没後 120 年　ゴッホ展	70	595,346	270,000	イ	東京新聞，TBS
	⑧未来を担う美術家たち　DOMANI　明日展 2010　文化庁芸術家在外研修の成果	26	15,881	13,000	ホ	文化庁、読売新聞社
	⑨平成 22 年度［第 14 回］文化庁メディア芸術祭	11	63,490	45,000	ハ	文化庁メディア芸術祭実行委員会（文化庁，ＣＧ

						－ＡＲＴＳ協会）
	⑩シュルレアリスム展　－パリ、ポンピドゥセンター所蔵作品による－【※4】	36	82,316	132,000	イ	ポンピドゥセンター, 読売新聞社, 日本テレビ放送網
	⑪アーティスト・ファイル 2011　－現代の作家たち【※5】	8	1,632	13,000	ハ	
	計	397	1,807,150	935,000		
合　計		1,623	3,450,921	2,196,400		

備考：【※1，2】東日本大震災の影響により臨時休館 6 日間，開館時間を短縮した。
【※3】東日本大震災の影響により臨時休館 12 日間，開館時間を短縮した。
【※4，5】東日本大震災の影響により臨時休館 8 日間（⑪は 6 日間），開館時間を短縮した。

③　国立美術館 5 館合同企画展

国立美術館全体の所蔵作品を最大限に活かした 5 館合同企画による「陰影礼讃」展については，「影」をテーマにした独立行政法人国立美術館のコレクションの充実をものがたる好企画として，話題となった。

展覧会名：「陰影礼讃－国立美術館コレクションによる」
会　　期：平成 22 年 9 月 8 日（水）～10 月 18 日（月）（36 日間）
会　　場：国立新美術館
出 点 数：170 点
入館者数：29,143 人

④　巡回展

企画館	展覧会名	開催館	開催日数	入館者数
国立国際美術館	新しい美術の系譜　国立国際美術館の名作	宮城県美術館	52	8,290
	セザンヌ、ピカソから現代まで展 国立国際美術館の名作	都城市立美術館	44	7,038
東京国立近代美術館（工芸館）	東京国立近代美術館工芸館所蔵名品展「耀くわざと美―日本工芸のいま」	香川県立ミュージアム	51	5,351
		愛媛県美術館	38	6,783
	東京国立近代美術館工芸館名品展―四季の花を愛でる―	和光ホール（和光本館６階）	15	3,205
計			200	30,667

企画館	タイトル	会場数	開催日数	入館者数
東京国立近代美術館（ﾌｨﾙﾑｾﾝﾀｰ）	平成 22 年度優秀映画鑑賞推進事業	１９５会場	443（延べ日数）	90,331

	「生誕百年　映画監督　山中貞雄」巡回事業	3会場	16	1,143
	フィルムセンターの至宝―アニメの源へ：日本のアニメーション映画（１９２４～１９５２年）	1会場	4	187
	ポルデノーネ無声映画祭２０１０　松竹の三巨匠―島津保次郎, 清水宏, 牛原虚彦	1会場	8	8,000
	第１回中之島映像劇場　美術と映像：戦前から戦後へ ―東京国立近代美術館フィルムセンター所蔵作品による上映会―	1会場	2	340
計		201会場	473	100,001

⑤　東京国立近代美術館フィルムセンター映画上映等

【上映会】

タイトル	会場	上映回数	日数	入館者数	目標数	企画趣旨	共催者
①映画の中の日本文学 Part3	大ホール	90	30	13,584	12,000	ロ	
②フィルムセンター開館 40 周年記念①　発掘された映画たち 2010	大ホール	30	15	3,217	4,000	ロ・ニ	
③EU フィルムデーズ 2010	大ホール	44	21	9,602	7,500	ホ	
④フィルムセンター開館 40 周年記念②　フィルム・コレクションに見る NFC の 40 年	大ホール	98	49	10,909	10,000	ホ	
⑤第 32 回ぴあフィルムフェスティバル	大ホール	40	14	5,283	5,500	ロ・ニ	PFFパートナーズ（ぴあ, TBS）, 財団法人日本映像国際振興協会
⑥日本ポルトガル修好通商条約 150 周年　ポルトガル映画祭 2010 マノエル・ド・オリヴェイラとポルトガル映画の巨匠たち	大ホール	37	15	7,613	4,000	ニ	コミュニティシネマセンター, ポルトガル大使館
⑦映画監督五十年　吉田喜重	大ホール	48	24	7,395	7,000	ニ	
⑧生誕百年　映画監督　黒澤明	大ホール	123	42	21,483	26,500	ニ	
⑨フィルムセンター開館 40 周年記念③　よみがえる日本映画―映画保存のための特別事業費による	大ホール	44	18	7,971	8,500	ニ	

【※】							
⑩映画の教室2010［京橋映画小劇場 No.18］	小ホール	18	9	1,988	2,000	ホ	
⑪日本インディペンデント映画史シリーズ③　ぴあフィルムフェスティバルの軌跡 vol.3	小ホール	34	17	647	1,000	ロ・ニ	ぴあ株式会社
⑫アニメーションの先駆者　大藤信郎　［京橋映画小劇場 No. 19］	小ホール	18	9	1,544	1,500	ニ	
⑬アンコール特集：2009 年度上映作品より[京橋映画小劇場 No. 20]	小ホール	18	9	1,616	2,000	ホ	
⑭日本―南アフリカ交流 100 周年記念　シネマアフリカ 2010	小ホール	26	11	1,597	2,500	ホ	シネマアフリカ２０１０実行委員会
⑮現代フランス映画の肖像　ユニフランス寄贈フィルム・コレクションより	小ホール	135	45	14,649	11,500	ニ	
計		803	328	109,098	105,500		

備考：【※】東日本大震災の影響で会期を 24 日から実質 18 日となり，上映回数も 72 回から実質 44 回となり，実施できた上映回数は予定 60%にとどまった。

【展覧会】

展覧会名	日数	入館者数	目標数	企画趣旨
①映画資料でみる 映画の中の日本文学 Part3	66	2,783	3,000	ロ・ニ
②アニメーションの先駆者　大藤信郎	63	3,397	2,500	ロ・ハ・ニ
③生誕百年　映画監督　黒澤明	81	5,970	4,000	ロ
④フィルムセンター設立40周年企画　展示室リニューアル記念　NFC 映画展覧会の 15 年　1995-2010　【※】	36	1,402	1,500	ロ
計	246	13,552	11,000	

備考：【※】東日本大震災の影響で会期を 42 日から実質 36 日と短縮となった。

（２）美術創造活動の活性化の推進

①　公募団体等への展覧会会場の提供（国立新美術館）

公募展団体数：69 団体

年間利用室数：延べ 3,500 室／年

稼働率：100%

入館者数：1,266,989 人

1　公募団体等から寄せられた意見・要望も参考としつつ，公募展の効率的な開催準備と円滑な運営を図るため，以下のような取組みを行った。

・作品搬入出時の車両の入退館時間の指定や駐車場の割振りを団体ごとに実施。
・作品用エレベータの使用時間割振りや使用備品の事前配置等の徹底。
・審査，展示等に必要な備品の充実。
・展示作品の素材や陳列方法等について，施設の管理運営上問題の生じる可能性のある公募団体等との事前協議の徹底。
・公募展運営サポートセンターにおいて，使用公募団体等に関する電話（国立新美術館公募展案内ダイヤル）への問い合わせ対応の実施。
・公募展のポスター掲示や公募展開催案内チラシの作成及び配布による広報の実施。
・館ホームページの公募展紹介ページに，文字情報に加えポスター等の画像情報を掲載することにより広報を充実。
・国立新美術館ニュースへ公募団体からの寄稿を掲載することにより，広報の支援を実施。
・公募展と企画展の観覧料の相互割引について，実施団体の情報を館内で周知。

2　公募団体等が行う教育普及活動

館を使用する公募団体等が実施する教育普及活動に対し，講堂及び研修室の提供や運営管理上必要な助言を行った。

3　平成 24 年度展示室（公募展用）使用団体の募集について

平成 24 年度に展示室（公募展用）を使用する 70 団体（野外展示場のみ使用を含む。）を決定した。

②　新しい芸術表現への取組

【東京国立近代美術館本館】

展覧会名	日数	ジャンル	入館者数	目標数	共催者
建築はどこにあるの？　７つのインスタレーション	88	建築	36,705	29,000	－

・上記のほか, 平成 22 年度科学研究費補助金（基盤研究（B））「1960～70 年代のビデオ・アート：作品の所在調査とデータ・ベース構築」を得て，調査と資料収集を実施した。

【東京国立近代美術館フィルムセンター】

展覧会名	日数	ジャンル	入館者数	目標数	共催者
フィルムセンターの至宝―アニメの源へ：日本のアニメーション映画（１９２４～１９５２年）	4	アニメーション	187	－	韓国映像資料院

【京都国立近代美術館】

展覧会名	日数	ジャンル	入館者数	目標数	共催者
京都市立芸術大学創立130 周年記念事業協賛 Trouble in Paradise /生存のエシックス	39	医療，科学，現代芸術から総合的に構成	10,009	10,000	

・京都市立芸術大学，京都大学大学院医学研究科等と連携し，これまでの現代芸術の領域でも展覧会として取り上げられなかった医療や科学などの領域を横断的にとらえ，将来登場するであろう芸術表現に，美術館がいかにかかわってゆくかという問題への最初の試みとした。

【国立西洋美術館】

・国立西洋美術館の世界遺産登録推薦に関する改修履歴調査及び建物維持方策策定のための調査

ル・コルビュジエ作品としての建築的特色を保持している当館は，世界遺産登録に向けて，保存と復元並びに美術館としての機能の維持・向上を図るために必要な計画を策定することが求められており，特に今回重要である改修履歴調査及び建築維持方策策定のための調査を中心に，「空気調和設備調査」「光環境調査」「躯体性能調査」「コンクリート材料調査」「構法・改修履歴調査」の各調査を社団法人日本建築学会へ依頼し，調査を実施した。

また，当該調査結果を受けて，国立西洋美術館としての機能を維持しつつ，将来に向けて文化財としての復元，保存及び保全の措置，並びに敷地全体の景観等の今後の在り方を検討するため，学識経験等を有する外部委員及び内部委員で構成する「国立西洋美術館修理検討委員会」を設置した。

・国立西洋美術館本館見学会等の実施

地域住民等の来館者を対象とした国立西洋美術館本館見学会について，開館日の第2・第4日曜日に本館建物ツアーを実施した。さらに，本年度は台東区の区民講座の「まちづくり大学」（10月16日）の見学会の中で，世界遺産登録に向けた当館の取り組みについての学習に協力し，建築ツアーを実施した。

【国立国際美術館】

展覧会名	日数	ジャンル	入館者数	目標数	共催者
束芋：断面の世代	56	映像インスタレーション	47,609人	25,000人	読売新聞社

・　束芋は，アニメーションを用いた映像作品で，現在，日本国内外で精力的な活動をしている若手作家であり，2011年に行われる第54回ヴェネツィア・ビエンナーレ国際美術展の日本館代表作家として，国際的な現代美術展に出品することが決定している。

本展覧会では，束芋の世界観を表現するため，展示室全体を暗闇とすることで，一体感のある会場構成を行った。また，展覧会関連イベントとして，今回の展覧会テーマである「断面の世代」のきっかけとなった劇団ワンダリング・パーティーによる演劇「トータル・エクリプス」を上演し，作家，作品への理解を深めてもらうよう心がけた。

【国立新美術館】

展覧会名	日数	ジャンル	入館者数	目標数	共催者
アーティスト・ファイル2010―現代の作家たち	31	ヴィデオ・インスタレーション，アニメーション	17,766	15,000	
未来を担う美術家たち　ＤＯＭＡＮＩ・明日展2010　文化庁芸術家在外研修の成果	26	ヴィデオ・インスタレーション	15,881	13,000	
平成22年度［第14回］文化庁メディア芸術祭	11	ヴィデオ・アート，アニメーション，マンガ，ゲーム，インタラクティヴ・アート	63,490	45,000	
アーティスト・ファイル2011―現代の作家たち	8	ヴィデオ・インスタレーション	1,632	13,000	
計	76		98,769	86,000	

・　アニメーション表現などの新しい視覚表現を紹介するための試みとして，(A)「館内映像設備による映像作品上映」，(B)「インターカレッジアニメーションフェスティバル(ICAF)2010(文化庁 平成22年度メディア芸術人材育成支援事業)への特別協力」を行い，(C)「TOKYO ANIMA!2011への共催」を企画した。ICAF2010では国内の大学などの学生によるアニメーション作品128点に加え，韓国とヨーロッパの映像作品を4日間に渡り講堂にて上映したほか，人形美術家・アニメーション作家の川本喜八郎を追悼するシンポジウムを開催し，日本のアニメーション表現のこれからの可能性を紹介した。4日間の会期中，来場者は1128名であった。また(A)として，ICAF2010

の開催期間中，従前の上映場所に加え，研修室でも上映を行なった。「TOKYO ANIMA!2011」は六本木アートナイト 2011 のイベントのひとつとして企画され，30 名の若手映像作家の近作・新作を中心に 2 日間に渡り上映する予定であったが，東日本大震災のため，六本木アートナイト 2011 が中止となり，「TOKYO ANIMA!2011」も開催を延期することとなった。

（3）美術に関する情報の拠点としての機能の向上

① 情報通信技術（ICT）を活用した展覧会情報や調査研究成果などの公表等

ア　ホームページアクセス件数

館名	アクセス件数	目標数（第 1 期平均）
本部	11,523,314	74,434
東京国立近代美術館（本館・工芸館・ﾌｨﾙﾑｾﾝﾀｰ含む）	11,645,025	4,341,163
京都国立近代美術館	2,412,796	222,502
国立西洋美術館	7,789,085	720,126
国立国際美術館	4,085,283	366,054
国立新美術館	11,754,976	－
計	49,210,479	5,724,279

注　国立新美術館は，第 2 期中期計画の平成 18 年度から設置のため，目標数を設定していない。

イ　各館の ICT 活用の特徴

（ア）本部

法人ホームページにおいて，引き続き国立美術館 5 館の開催展覧会および各種催事等トピックスの一覧を掲出するとともに，国立美術館キャンパスメンバーズについてメンバー校の一覧を整備するなど広報に努めた。

（イ）東京国立近代美術館

平成 19 年度より稼働のコンテンツ・マネジメント・システム（CMS）を用いて，ホームページ・コンテンツの追加更新を迅速化するとともに，「建築はどこにあるの？　7 つのインスタレーション」などにおいては特設サイトを設けて広報につとめた。

独立行政法人国立美術館所蔵作品総合目録検索システムに新収蔵作品の文字画像データを追加するとともに，同システムへの著作権のある作品画像掲載を進めるため，許諾を得た版画作品 1,308 点について画像を新規登録した。また，写真についての著作権者情報を整備するとともに，著作権許諾申請手続を開始した。

フィルムセンターでは，図書閲覧室にある検索用端末で，FIAF データベース(世界の映画雑誌やアーカイブのコレクションに関する情報を収録)と JSTOR(米国非営利公益法人の提供による学術雑誌アーカイブ)という 2 つの電子ジャーナルを公開した。

（ウ）京都国立近代美術館

展覧会情報や講演会，教育普及等のイベント情報に加え，コレクション・ギャラリーの展示替えごとに，出品目録および企画する小企画やテーマ展示に関する開催意図を掲載し，情報発信の充実に努めた。さらに，美術館ニュースや研究論集など，刊行物の発行に際して掲載内容を更新した。

（エ）国立西洋美術館

ホームページ上で公開している収蔵作品データベースでは，作品の基礎データだけではなく，より専門的な来歴・展覧会歴・文献歴等の情報も日英 2 ヶ国語で入力し，国際化，情報化の要求に応えるよう努めた。本年度，米国の主要な美術専門誌『Master Drawings』（vol.48，no.3，2010）収録のオンライン・リソース集で，アジアから唯一，美術館収蔵

作品データベースとして掲載されたことは，こうした取り組みが国際的に認められつつあることを示しているといえる。なお，英文項目を含むデータの遡及入力作業については，本年度も科学研究費補助金により実施することができた。

また，同データベースの画像の表示機能を改良し，作品の全図の拡大表示を行えるようにし，これをきっかけにホームページのサイトポリシーを見直し，専ら教育目的で利用する場合に限り（学校の授業，美術館の講演会など），画像を許諾なく利用できるようルールを改善した。それに伴い申請が不要になった事により，実態を統計的に把握することは難しくなったが，当館に寄せられた米ボストン美術館の講演会での使用事例などからは，ねらい通り教育普及活動支援に結びついていることが窺える。

（オ）国立国際美術館

本年度は，ホームページのリニューアルを行い，来館者への展覧会情報，関連イベント情報，施設利用案内の充実を図った。

また，展覧会ごとに英語版ホームページを引き続き作成し，海外への情報発信，外国人来館者への情報提供に努めた。

（カ）国立新美術館

パソコンや携帯電話から閲覧可能なホームページで館の活動に関する情報を伝えるほか，「アーティスト・ファイル 2011」について視覚的な効果を多用して同展への興味や関心を持ってもらうことを目的とした特設ウェブサイトを公開した。

当館が所蔵する安齊重男氏撮影の写真資料群に関する書誌的情報の検索システム「ANZAI フォトアーカイブ」及び中島理嘉氏監修の『日本の美術展覧会開催実績 1945-2005』を基とした検索システム「日本の美術展覧会記録 1945-2005」を公開した。

展覧会情報収集提供事業（アートコモンズ）では，収集した展覧会情報と関連する美術情報（国立美術館の所蔵する作品情報や図書情報）と結びつけるため，国立情報学研究所の協力の下，本部事業として進められた「国立美術館版 想―IMAGINE」に平成 21 年度に引き続いて，国内で開催された展覧会情報を提供した。

また，当館の活動を携帯電話等でも手軽に閲覧できることを目指して，メールマガジンを平成 21 年 12 月より月 1 回継続発行している。さらに臨時休館の告知等の広報媒体としても使用し，現在約 2,300 名(平成 23 年 3 月 31 日現在)の受信登録がなされ，昨年よりおよそ 1，000 名強の登録の増加となった。

② 美術情報の収集，記録の作成・蓄積，デジタル化，レファレンス機能の充実

ア　図書資料等の収集

館名		収集件数	累計件数	利用者数	目標数（第1期平均）
東京国立近代美術館	本館	3,823	114,734	2,707	1,853
	工芸館	1,659	20,693	291	317
	ﾌｨﾙﾑｾﾝﾀｰ	3,619	33,451	3,347	3,085
京都国立近代美術館		1,025	19,437	－	－
国立西洋美術館		170	44,620	509	119
国立国際美術館		1,244	34,617	－	－
国立新美術館		10,272	107,568	35,190	－
計		21,812	375,120	42,044	5,374

注１　京都国立近代美術館は４階，国立西洋美術館は１階，国立国際美術館は地下１階に図録等が閲覧できる情報コーナーを設け，入館者が自由に閲覧できるようにしており，その場所については，利用者数の把握はしていない。
注２　国立新美術館は，第２期中期計画の平成 18 年度から設置のため，目標数を設定していない。

イ　特記事項

（ア）東京国立近代美術館

本館では，本年度において，平成 18 年度開催の藤田嗣治展の後，19 年度に寄贈された藤田家旧蔵書 836 点の登録を完了し，公開した。また，平成 24 年度の 60 周年事業の一環である年史編集のため，ミュージアム・アーカイブの整備に着手した。工芸館では，近代工芸及びデザインの資料を体系的に収集している数少ない施設であるという使命を認識し，図書資料の収集・提供に努めた。

フィルムセンターでは，平成 20・21 年度に続いて，ゆまに書房の刊行により，戦前期の重要な映画雑誌である「キネマ週報」を復刻し，すべての刊行が完了した。今回復刻される 259 冊のうち本年度内には第 6 回と補遺篇の配本として 224 号から 345 号までのうち 46 冊の原本提供を行った。また，図書室内の映画雑誌のリスト化を着実に進めているほか，リスト化の終了した映画パンフレットについてはデータベースへの登録を開始した。

（イ）京都国立近代美術館

前年度から継続して採択されている科学研究費補助金によって，研究内容に関連した高額の図書を購入・収集するとともに，ハンナ・ヘッヒの「絵本」（1945 年）や現代美術に関する雑誌，『富本憲吉模様集』（1923-27 年），『富本憲吉陶器集』（1933 年）などの貴重図書を収集した。

（ウ）国立西洋美術館

図書・資料に関する情報提供サービスを継続的に運用するため，インターネットで公開している蔵書検索システムのハードウェア・ソフトウェアを一新し，あわせて新旧システム間のデータ移行作業を行った。

また，これらインフラ整備と並んで，作家研究のスタンダード・レファレンスで収集対象としても重要なカタログ・レゾネ（作品総目録）を発見しやすくするため，キーワード（件名）記述作業を集中的に行った。なお，新たに生じた件名データ遡及入力の課題については，通常業務従事者への負担増を回避するとともに，インターン生に西洋美術情報の拠点として相応しい職場体験の機会を提供するため，インターンシップ・プログラムの一部として実施した。

（エ）国立国際美術館

国内外の現代美術に関連する図書資料等を中心に収集を継続して行った。

特に，企画展や所蔵作家関連の文献に加え，国際展に関する文献なども積極的に収集を行った。

（オ）国立新美術館

前年度より引き続き，日本の展覧会カタログを中心に網羅的，遡及的収集に努めた。国内約 300，国外約 60 の美術館・博物館と展覧会カタログの相互寄贈関係を構築したほか，複数の個人から展覧会カタログの大口寄贈を受けた。また，安齊重男氏撮影の日本の現代美術の記録写真資料について，これまで未収蔵だった 2007 年～2009 年分 395 枚を新たに収集し，さらなる充実を図った。

ウ　所蔵作品データ等のデジタル化

館　　名		画像データ				テキストデータ			
		ﾃﾞｼﾞﾀﾙ化件数	ﾃﾞｼﾞﾀﾙ化累計	公開件数	目標公開件数	ﾃﾞｼﾞﾀﾙ化件数	ﾃﾞｼﾞﾀﾙ化累計	公開件数	目標公開件数
東京国立近代美術館	本館	200	10,258	5,458	1,394	170	10,612	9,985	9,144
	工芸館	320	3,368	368	23	40	3,748	3,009	2,516
	ﾌｨﾙﾑｾﾝﾀｰ（映画関連資料）	－	－	－	－	5,048	114,505	－	－
京都国立近代美術館		41	6,462	1,582	517	438	10,249	8,687	5,612
国立西洋美術館		63	5,128	202	202	20	4,573	4,389	4,058
国立国際美術館		129	6,248	2,881	2,356	104	7,110	6,206	5,101
計		753	31,464	10,491	4,492	5,820	150,797	32,276	26,431

注　「公開件数」は，所蔵作品総合目録における画像及びテキストデータの公開件数である。なお，国立西洋美術館は「国立西洋美術館所蔵作品データベース」で画像データ 4,322 点を公開している。フィルムセンターについては，映画フィルムを除いた映画の関連資料についての件数を掲載している。

エ　インフォメーションデータセンター（IDC）の確立

国立美術館 5 館全体で採用している VPN（Virtual Private Network : 暗号化された通信網）を用いて情報ネットワークの安定かつ高速化を実現するとともに，VPN を用いたグループウェアおよびテレビ会議システムを稼働させた。

国立美術館所蔵作品総合目録検索システムは引き続きデータの追加更新を行うとともに，画像掲載の増加を図るため，前年度許諾を得た版画作品 2,914 点の画像を掲載するとともに，写真についての著作権許諾の手続きを開始した。

また，国会図書館ならびに関係機関作成のデジタルアーカイブとの横断検索を可能としいる「国会図書館デジタルアーカイブポータル(PORTA)」に登録している国立美術館所蔵作品総合目録検索システムのデータの新規登録分を更新するとともに，国立情報学研究所と共同開発した国立美術館版「想-IMAGINE」のデータ等を更新して国立美術館の所蔵作品，図書，展覧会に関わる情報資源の連携検索システムを公開した。

独立行政法人国立美術館の情報資産の安全な運用に努めるため，「国立美術館情報資産安全対策基本方針」「国立美術館情報資産安全管理規則」を策定した。

（4）国民の美的感性の育成

①　幅広い学習機会の提供（講演会，ギャラリートーク，アーティスト・トーク等）

館　　名		実施回数	参加者数	目標数
東京国立近代美術館	本館	118	7,198	2,718
	工芸館	41	1,527	1,285
	ﾌｨﾙﾑｾﾝﾀｰ	168	12,027	1,470
京都国立近代美術館		89	4,161	1,590
国立西洋美術館		113	4,358	5,582
国立国際美術館		59	3,587	2,662
国立新美術館		79	8,325	－
計		667	41,183	15,307

ア　各館の特徴

（ア）東京国立近代美術館

（本館）

幅広い層への解説プログラム（所蔵品ガイド，ハイライトツアー，キュレータートーク，アーティストトーク，音声ガイド，子ども用セルフガイドやイベント等）や来館者サービス（ライブラリ，ショップ，レストラン，休憩室，バリアフリー情報，夜間開館，無料観覧日，MOMAT パスポート等）を一覧できるリーフレット「活用ガイド」を制作している。また，特集展示などにあわせてキュレータートークを増やすなど，所蔵作品の解説プログラムを充実させたほか，特別展「建築はどこにあるの」ではダンスパフォーマンスに多くの観客を集めた。

教職員研究会の協力としては，都図研（小学校）・都中美（中学校）の二つの公的な研究団体との合同研修を，初めて共催で開催した。先生のための鑑賞講座は，2 回目として「岡本太郎展」で 3 月 11 日に予定し 140 名の申し込みを得ていたが，当日起こった地震により中止となった（代わりに 4 月 1 日～3 日に「先生のための特別鑑賞日」を設定し，69 名の参加があった）。

（工芸館）

「現代工芸への視点―茶事をめぐって」，「栄木正敏のセラミックデザイン」及び「ガラス★高橋禎彦展」の各開催中にギャラリートーク及び作家による講演会を実施した。

また，「現代工芸への視点―茶事をめぐって」の開催では，作家等から構成される茶事研究のグループとの共同開催によって茶会を実施し，企画主旨に基づいた新しい鑑賞のスタイルを提言する事ができた。

（フィルムセンター）

大ホールの 5 企画，小ホールの 3 企画（うち一つはトーク・イベントの回を大ホールで開催），展示室の 3 企画で，計 79 回のトーク・イベントを行った。上映作品にゆかりのある映画人や研究者，評論家を招いてのトークも開催したが，特に「発掘された映画たち 2010」では，国内各地のフィルム・アーカイブ機関・団体の担当者による解説を行い，映画保存業務の重要性についてアピールを試みた。また「EU フィルムデーズ 2010」では来日ゲストのトークや Q&A に加え，昨年に続きゲスト全員を集めてのシンポジウムも開催した。

教育普及を目的とする上映イベントでは，小中学生を対象とする「こども映画館」と若い観客層の開拓を目的とした「カルト・ブランシュ～期待の映画人・文化人が選ぶ日本映画～」を開催した。

（イ）京都国立近代美術館

来館者が展覧会を自らの力で理解し観察しようとする意欲を育成することを目的として，活動を継続している。京都市立芸術大学創立 130 年記念事業である「 Trouble in Paradise/生存のエシックス」で行われたワークショップでは，10 名程の少人数制で行うことで，参加者と美術館職員・作家との間に密接なコミュニケーションが生まれ，ワークショップへの参加を機会に他の活動への興味を生みだす役割を果たした。

平成 18 年から 5 年間行われ，本年度で最後となる京都教育大学・石川誠教授による科学研究費補助金による研究プロジェクトにおいては，「『日本画』の前衛　1938-1949」会場で，ノートルダム学院小学校の美術クラブの児童達を対象に鑑賞教室を行い，製作活動なども部活動におりまぜることで，学校教育と美術館を効果的に繋げる方法論を模索した。さらにこれを美術家教育学会，鑑賞教育研究プロジェクトと共に主催する「2010 美術科教育学会地区研究会＜フォーラム in 京都＞美術鑑賞の問題－みる・つくる，そして状況－」

で発表し、鑑賞とは何か，これからの鑑賞教育（美術教育）は何を目指すのかを考察する機会とした。

本年度から隔月で行われるようになった「MoMAK　Films ＠ home」では，フィルムセンターの所蔵作品の中から 28 作品を上映した。

なお，本年度だけで 10 回以上実施したバックヤードツアーは，美術館の施設機能を紹介するもので，建築を専攻する学生を初めとする多くの参加者が興味を示している。

（ウ）国立西洋美術館

本年度は予算の関係から，恒例の「FUN DAY」，「Fun with Collection」など実施できなかったプログラムもあったが，一方で三菱商事株式会社との連携で開催している「障がい者のための鑑賞プログラム」は好評で，本年度は回数を増やして実施した。また，法人全体で作成した「アートカード」は学校教員へ周知され，貸し出しの件数も増加した。

さらに，台東区と連携して区内の小学校を対象に，ル・コルビュジエによって設計された本館や前庭についての見学会も実施した。

（エ）国立国際美術館

企画展ごとに講演会，対談，ギャラリートークなどを実施するとともに，シンポジウム「オーストラリアのメディアアート」と，「ウフィツィ美術館 自画像コレクション　巨匠たちの「秘めた素顔」1664-2010」に関連したシンポジウム「自画像の美術史ールネサンスから現代まで」を開催した。

「自画像の美術史ールネサンスから現代まで」では，関係者による基調講演が行われ，ルネサンス期から近代，現代までの自画像の美術史を振り返るとともに討議を行い，126 名の参加者を得ることとなった。

また，上記のほか，以下の教育プログラムを実施した。

・鑑賞支援教材制作に関連した「ジュニア・セルフガイド」の発行（コレクション 2，3，4 で配布）
・大学の課外授業及びスクーリングによる団体鑑賞の受入れ（9 校を受入れ）
・小・中・高等学校団体鑑賞の受入れ（151 校を受入れ）
・教員研修の実施（4 回）

（オ）国立新美術館

「森から始まるリレートーク―暮らし，環境，デザイン，そしてアートと「木」」では，「木」と「森」をテーマに，建築家やプロダクトデザイナー，美術家のほか，文化財保護の専門家や林業経営者，植物生態学者など各方面で活躍する専門家の講演とパネル・ディスカッションを行なうとともに，家具モデラーが製作した木製椅子を通して 200 近い樹種を紹介した。身近なテーマを幅広い分野から考察することにより，アートやデザインを環境や暮らしといった視点から捉えることを試みる，ユニークなプロジェクトであった。

毎年複数回開催しているアーティスト・ワークショップは，美術以外の分野からもアーティストを招き，アーティストと実際に触れ合いながら創作やレクチャーを行なうものである。企画に時間を要し，また開催場所や内容により参加人数も限られるが，参加者の満足度は極めて高く，教育普及事業の一つの柱となっている。また、その成果を録画し館内で上映するなど、ワークショップをより多くの人に知ってもらうための試みも行っている。

②　ボランティアや支援団体の育成等による教育普及事業

ア　ボランティアによる教育普及事業

館　　名	ボランティア 登録者数	ボランティア 参加者数	事業参加者数

東京国立近代美術館	本館	33	453	4,955
	工芸館	28	213	706
京都国立近代美術館		34	244	－
国立西洋美術館		33	537	4,116
国立国際美術館		35	86	－
国立新美術館		77	223	－
計		240	1,756	9,777

イ　各館の特徴

（ア）東京国立近代美術館

本館では，ガイドスタッフ 4 期生を募集し（10 月～12 月），10 名の研修生への養成研修を実施していた。しかしながら，震災による所蔵品ギャラリー閉鎖により，3 月 12 日以降はガイド活動を休止した。

工芸館では，前年度の研修を受けた 4 期ボランティアの参加により，本年度の登録人数は 24 人から 28 人に増員した。増員の目的は学校等の団体受入れに対しより柔軟な対応を可能とするためである。「現代の人形」展開催時には，2 時間で 250 人のトーク受入れを行い，今後の学校との連携の可能性を広げることができた。

（イ）京都国立近代美術館

各企画展・共催展ごとに，ボランティアスタッフによるアンケート調査回収・集計を行った。また，10 のプロジェクトチームにより実施された「Trouble in Paradise/生存のエシックス」では，「水のゆくえ」プロジェクトで制作ボランティアを募った。事前に募集・登録したボランティアだけでなく，来館者の自発的参加もあり，会期中の完成に至るまで制作が進められた。

（ウ）国立西洋美術館

開始から 2 年目を迎えた「美術トーク」と「建築ツアー」は，毎回一定の参加者人数を保つようになり，プログラム自体が定着してきたようだ。特に「美術トーク」は，実施時間や方法を改善したところ，参加者が大幅に増えた。リピーターもいて人気が出てきているプログラムであると言える。クリスマスには，本年度で 3 回目と恒例になりつつある一般向け 10 分トークに加え，家族向けの「クリスマス物語」でもボランティア・スタッフが活躍した。申込が増えているスクール・ギャラリートークも含め，常設展を利用した幅広いプログラムがボランティア・スタッフによって支えられた。

（エ）国立国際美術館

学生ボランティアを広く募り，教育普及事業の実施補助，広報資料の発送，図書資料等の整理などの美術館運営の補助業務を実施することを通じて，美術館活動に接する機会を提供した。

なお，本年度は，「横尾忠則全ポスター」を開催するにあたり，ボランティアに協力を依頼し，額装作業の補助業務などを行い，美術館における展示活動についての理解を深める機会を提供した。

（オ）国立新美術館

ワークショップや講演会の運営補助のほか，図書資料の整理や保全作業など，幅広い分野でサポート・スタッフが活動を行なった。

ウ　支援団体等の育成と相互協力による事業

（ア）コンサート等の実施

東京藝術大学，東京・春・音楽祭実行委員会，東京都，読売新聞，朝日新聞，大阪クラッシック実行委員会，ダイキン工業現代美術振興財団，新国立劇場との協力による各館におけるコンサートの実施及び館企画・主宰ロビーコンサートを開催した（17 回）。

（イ）ぐるっとパスへの参加

東京の美術館・博物館等 70 館が実施する共通入館券事業「東京・ミュージアムぐるっとパス 2010」及び関西の美術館・博物館等 67 館が実施する「ミュージアムぐるっとパス・関西 2010」に参加（京近美を除く）し，所蔵作品展観覧料の無料化や企画展観覧料の割引などを実施した。

（ウ）NPO 法人との連携

東京国立近代美術館において，平成 23 年 1 月 2 日（日）NPO 法人美術ファンクラブとの連携により，本館所蔵作品展「近代日本の美術」，工芸館所蔵作品展「現代の人形　珠玉の人形コレクション」の無料観覧。また，本館及び工芸館の来館者には図録及びオリジナルグッズのプレゼントを実施。（本館には 1，585 人，工芸館には 1，912 人の来場。）

（エ）企業との連携

国立西洋美術館では，三菱商事株式会社と共同で行っている障がい者のための鑑賞プログラムが毎回好評であり，参加希望者も多いことから，本年度は実施回数を 2 回に増やして，より多くの参加者を受け入れることとした。本プログラムはレギュラーのプログラムとして，定着しつつある。

国立国際美術館では，企業とのタイアップによる前売券の発券，企業等が発行する印刷物・ホームページへの展覧会情報の掲載等，企業との連携を進めた。

①朝日新聞グループ 朝日友の会，㈱阪急阪神カード，㈱京阪カード及び大阪市交通局の情報誌・ホームページに展覧会情報を掲載するとともに割引を実施した。

②近隣ホテルと連携し，広報誌への情報掲載及びホームページのリンク等を実施した。

③「0saka メセナカード」と連携し，カードの普及広報を行った。

④水辺のまちづくり企画推進委員会に協力するとともに，同委員会の構成団体である京阪電鉄の広報誌において，展覧会及びイベントの広報を行った。

（オ）その他

フィルムセンターにおいては，中央区及び中央区文化・国際交流振興協会が実施する「中央区まるごとミュージアム」に協力し，平成 22 年 10 月 31 日（日）を展覧会の無料観覧日とし，146 人の入館者があった。

③　映画フィルム・資料を活用した教育普及活動

平成22年度で4年目となるフィルムセンターと京都国立近代美術館との共同開催による映画の上映会については，本年度は「NFC 所蔵作品選集 MoMAK　Films@home」の名称で，会場を前年度のドイツ文化センター（京都）から京都国立近代美術館の講堂に移し，国や地域，ジャンル別に計 5 回（28 本）の上映を行った。

・「NFC 所蔵作品選集　MoMAK　Films@home」　（10 回）　638 名

9 回目を迎えた「こども映画館」では，本年度も映画上映に施設見学や弁士・伴奏付きの無声映画上映などを組み合わせるスタイルを踏襲しつつ，子どもたちが日常のテレビや DVD などでは接する機会を持ちにくい映画遺産に触れる機会を作るとともに，写真画像や手作りの動画，アニメーションなどの投影も行いながらわかりやすい解説を行うよう心がけた。

・「こども映画館　2010 年の夏休み」　（4 回）　322 名

（５）調査研究成果の美術館活動への反映

①　調査研究一覧

ア　東京国立近代美術館

調査研究テーマ	美術館活動への反映	連携機関
現代日本の建築に関する研究	「建築はどこにあるの？」を開催しカタログを編集発行	
上村松園に関する研究	「上村松園展」を開催しカタログを編集発行	京都国立近代美術館
麻生三郎に関する研究	「麻生三郎展」を開催しカタログを編集発行	京都国立近代美術館，愛知県美術館
鈴木清に関する研究	「鈴木清展」　を開催しカタログを編集発行	ノルデルリヒト・フォト・ギャラリー（オランダ，フローニンゲン）
岡本太郎に関する研究	「岡本太郎展」を開催しカタログを編集発行	川崎市立岡本太郎美術館
パウル･クレーに関する研究	「パウル･クレー展」を開催しカタログを編集発行	パウル・クレー・センター（スイス），京都国立近代美術館
鑑賞教育に関する美術館と学校の連携や,学校の授業と美術館お鑑賞の連続性に関する調査研究	教育団体との合同研修の開催,「岡本太郎展セルフガイド」の発行・送付など	東京都図画工作研究会 東京都中学美術教育研究会
国立美術版「想－IMAGINE」の収録コンテンツの拡充とユーザーインターフェイスの改良についての調査研究	美術館情報資源の多角的公開	国立情報学研究所
国立美術館の情報資源およびWebcatPlus，文化遺産オンライン等文化情報資源の「想－IMAGINE」における連携検索システムの公開に関する調査研究	美術館情報資源の多角的公開	国立情報学研究所
「1960～70年代のビデオ･アート：作品の所在調査とデータ･ベース構築」（科学研究費補助金）３年目	今後の収蔵作品候補に関する情報収集	京都国立近代美術館，国立新美術館
プロダクト･デザイナーの栄木正敏を主としたセラミック･デザインの展開に関する調査研究	特別展「栄木正敏のセラミックデザイン―リズム＆ウェーブ」企画開催	瀬戸市美術館
現代の茶の工芸に関する調査研究	特別展「現代工芸への視点―茶事をめぐって」	
国際フィルム･アーカイブ連盟（ＦＩＡＦ）会員，その他同種機関，現像所等からの情報に基づく,未発見の日本映画フィルムの所在調査	・『ドレミハ先生』（1951年）『海に生きる人々』（1959年頃）の復元及び上映 ･戦前から戦後直後の日本アニメーション映画について，未所蔵作品本の収集 ・映画同人シネ・アソシエ，村野鐵太郎氏等からのフィルム寄贈	福岡市総合図書館 神戸映画資料館 株式会社IMAGICA
文化庁との共同事業による「近代歴史資料調査」の結果に基づき，新たに残存が確認された映画フィルムの詳細調査		
映画フィルムの登録･長期保管･保存,アナログ及びデジタル技術を活用した復元,及び映写に関する調査研究（ＦＩＡＦ会員，国内外の同種機関，映画研究教育機関，美術館・博物館，映像機器メーカー，現像所等との共同研究）	・『長恨』（1927年）『忠次旅日記』（1929年）のデジタル復元および再染色 ・『さらば青春』（1919年）のデジタル復元テスト ・KEM製16mm編集台への画像取り込みシステムの付設	株式会社IMAGICA，株式会社IMAGICAウェスト チネテカ・ディ・ボローニャ 株式会社ナックイメージテクノロジー
全国の映画関連資料の所蔵機関を対象としたコレクション等の状況		

調査		
日本映画の歴史的な美術資料に関する調査研究		日本映画・テレビ美術監督協会
3D 映画の歴史と技術に関する調査研究	ユネスコ「世界視聴覚文化遺産の日」記念特別イベント「講演と上映 ３Ｄ映画の歴史」の開催	
フランスにおける映画保存機関の国内外での連携･役割分担に関する研究（科学研究費補助金）	京都国立近代美術館との共同主催企画上映「MoMAK Films@home」	※科学研究費・若手研究(B)「フランスにおける映画保存機関の国内外での連携・役割分担に関する研究」（研究代表者・赤﨑陽子，課題番号：21720063。平成21-22年度）として実施
昭和期戦後の日本文学と日本映画の関係に関する調査研究	上映会「映画の中の日本文学 Part３」及び展覧会「映画資料でみる 映画の中の日本文学Part３」の開催	
新たに発掘,復元された映画とその作者,技術フォーマットや時代背景に関する調査研究	上映会「フィルムセンター開館40周年記念① 発掘された映画たち2010」の開催	京都府京都文化博物館，広島市映像文化ライブラリー，川崎市市民ミュージアム，福岡市総合図書館，立命館大学アート・リサーチセンター，映画保存協会，大阪芸術大学玩具映画プロジェクト
現代欧州映画に関する研究	上映会「ＥＵフィルムデーズ2010」の開催	駐日欧州連合代表部，ＥＵ加盟国大使館・文化機関
フィルムセンターの歩みとコレクションの歴史に関する調査研究	上映会「フィルムセンター開館40周年記念②フィルム・コレクションに見るNFCの40年」	
映画産業の枠外で制作された日本映画･インディペンデント映画等の歴史に関する調査研究	上映会「日本インディペンデント映画史シリーズ③ ぴあフィルムフェスティバルの軌跡Ｖｏｌ.３」の開催	
吉田喜重監督に関する調査研究	上映会「映画監督五十年 吉田喜重」の開催	
黒澤明監督に関する調査研究	上映会「生誕百年 映画監督 黒澤明」及び展覧会「生誕百年 映画監督 黒澤明」の開催	
現代フランス映画に関する調査研究	上映会「現代フランス映画の肖像ユニフランス寄贈フィルム・コレクションより」の開催	
映画保存のための特別事業費により購入した新規収蔵作品とその作者や時代背景に関する調査研究	上映会「フィルムセンター開館40周年記念③ よみがえる日本映画 ー映画保存のための特別事業費による」の開催	
アニメーション作家･大藤信郎に関する調査研究	上映会「アニメーションの先駆者 大藤信郎」及び展覧会「アニメーションの先駆者 大藤信郎」」の開催	
アフリカ映画の歴史と現在に関する調査研究	上映会「日本―南アフリカ交流100周年記念 シネマアフリカ2010」の開催	シネマアフリカ実行委員会，南アフリカ共和国大使館
ポルトガル映画に関する調査研究	上映会「日本ポルトガル修好通商条約150周年 ポルトガル映画祭2010 マノエル・ド・オリヴェイラとポルトガル映画の巨匠たち」の開催	コミュニティシネマセンター，ポルトガル大使館

イ　京都国立近代美術館

調査研究テーマ	美術館活動への反映	連携機関
京都国立近代美術館所蔵の現代美	・「マイ・フェイバリット―とある美術の検索	

術作品についての包括的研究	目録／所蔵作品から」展を開催。 ・「マイ・フェイバリット」展の図録を「所蔵作品目録Ⅷ」として刊行。	
日本画家・稲垣仲静及び染織家・稲垣稔次郎に関する調査研究	「稲垣仲静・稔次郎兄弟展」を開催し、同展の図録を刊行。	練馬区立美術館 笠岡市立竹喬美術館
19世紀イタリアの写真に関する調査研究	「ローマ追想―19世紀写真と旅」展を開催し、同展の図録を刊行。	ジュゼッペ・パニーニ写真美術館（イタリア・モデナ）
現代美術の先鋭的な部分と最新の科学技術，医療技術が重なり合う領域に関する調査研究	「京都市立芸術大学創立130周年記念事業協賛Trouble in Paradise/生存のエシックス」展を開催し、同展の図録を刊行。	京都市立芸術大学 京都大学医学研究科
戦後の日本画前衛運動の母体となった諸運動に関する調査研究	「『日本画』の前衛　1938-1949」展を開催し、同展の図録を刊行。	東京国立近代美術館
日本画家・上村松園に関する調査研究	「上村松園展」を開催し、同展の図録を刊行。	東京国立近代美術館
麻生三郎に関する調査研究	「麻生三郎展」を開催し、同展の図録を刊行。	東京国立近代美術館 愛知県美術館
パウル・クレーに関する調査研究	「パウル・クレー―おわらないアトリエ」展を開催し、同展の図録を刊行。	パウル・クレー・センター（スイス） チューリヒ大学美術史研究所 東京国立近代美術館
美術館教育に関する研究	「2010美術科教育学会　地区研究会＜フォーラム in 京都＞」シンポジウムを開催。	美術科教育学会
大学他諸機関との教育普及を目的とした展示についての調査研究	京都教育大学石川誠教授が研究代表者となる科学研究費補助金による研究「美術･博物館の知的財産活用による生涯学習を見通した鑑賞学習システムの構築」にて実施。	京都教育大学大学院
1960～70年代のビデオ・アート：作品の所在調査とデータ・ベース構築（科学研究費補助金）3年目	研究成果を基に戦後の映像表現を含む展覧会を平成25年度に開催する予定。	東京国立近代美術館
染め型紙のジャポニスムへの影響に関する研究（科学研究費補助金）3年目	研究成果を基に展覧会「型紙スタイルーもうひとつのジャポニスム（仮称）」を平成24年度に開催予定。	日本女子大学 共立女子大学 文化女子大学 三菱一号館美術館 三重県立美術館
東西文化の磁場―日本近代建築・デザイン・工芸の脱―，超―領域的作用史の基盤研究（科学研究費補助金）2年目	国際シンポジウム「「東西文化の磁場」《Orient / Occident ： une attraction mutuelle》」を実施。	
イディッシュ語文化圏における芸術活動の調査研究（科学研究費補助金）2年目	研究成果の一部を平成24年度に実施予定の展覧会「型紙スタイルーもうひとつのジャポニスム（仮称）」で発表予定。	大阪大学
オーラルヒストリーによる1960年代前衛美術研究の再構築（科学研究費補助金）1年目	開館50周年記念事業の準備に向け，過去当館で行われた主要な講演会の映像記録をデータ化した。	広島市立大学

ウ　国立西洋美術館

調査研究テーマ	美術館活動への反映	連携機関
ナポリ宮廷におけるイタリア，ルネサンス及びバロック期の美術に関する調査研究	「ナポリ・宮廷と美―カポディモンテ美術館展　ルネサンスからバロックまで」を開催。同展の図録を刊行，新聞等への掲載，講演会等による発表を実施。	カポディモンテ美術館，京都府京都文化博物館
アルブレヒト・デューラーの版画芸術に関する調査研究	「アルブレヒト・デューラー版画・素描展　宗教／肖像／自然」を開催。同展の図録を刊行，新聞等への掲載，講演会等による発表を実施。	メルボルン・ナショナル・ギャラリー・オブ・ヴィクトリア，アルベルティーナ版画素描館
ギリシャ美術研究	「大英博物館　古代ギリシャ展 究極の身体，完全なる美」（平成23年開催予定	大英博物館，神戸市立博物館

	)	
旧松方コレクションを含む松方コレクション全体に関する調査研究	収集，作品・文献調査，常設展・企画展，刊行物，講演発表，解説等。	
中世末期から20世紀初頭の西洋美術に関する調査研究	収集，作品・文献調査，常設展・企画展，刊行物，講演発表，解説等	
所蔵版画作品に関する調査研究	収集，作品・文献調査，常設展・企画展，刊行物，講演発表，解説等	
美術館教育に関する調査研究	教育普及プログラムを実施。ワークシート等制作，インターンシップ，ボランティア指導，解説（企画展作品解説パネル制作等）	
「「国立西洋美術館所蔵作品データベース」に関する研究」（科学研究費補助金）	国立西洋美術館所蔵作品データベース	
「レンブラント及びレンブラント派における和紙による版画素描作品の研究」（科学研究費補助金）3年目	「レンブラント　光の探求/闇の誘惑」展を開催。同展の図録を刊行，新聞等への掲載，講演会等による発表を実施。	
「アメリカのミュージアムにおける教育プログラムの公共性と民間資金に関する基礎的研究」（科学研究費補助金）2年目	教育普及事業	
「美術館の機関アーカイブズに関する調査研究」2年目	美術資料の提供事業	
「ル・コルビュジエによる国立西洋美術館本館の設計に関する調査研究」（科学研究費補助金）	刊行物，講演発表，解説，広報記事等。世界遺産登録に向けた基礎資料。	ル・コルビュジエ財団（パリ），東京理科大学，日本大学，京都工芸繊維大学
「カーレル・ファン・マンデル『北方画家列伝』の成立と影響に関する比較芸術論的研究」（科学研究費補助金）2年目	常設展・企画展，刊行物，講演発表，解説等	東北大学
「西洋近世版画史の一次資料調査」１年目（科学研究費補助金）1年目	収集，作品・文献調査，常設展・企画展，刊行物，講演発表，解説等。	
「クロスセクション上でのメディウムの染色法の改善」１年目	所蔵作品の保存のための基礎資料。	
「美術館ライブラリー＆アーカイブズ部門における，美術館アーカイブズ活動視察・業務体験」（科学研究費補助金）１年目	美術資料の提供事業	カナダ国立美術館

エ　国立国際美術館

調査研究テーマ	美術館活動への反映	連携機関
荒川修作に関する調査研究	「死なないための葬送　荒川修作初期作品展」を開催。同展の図録を刊行，新聞等への掲載，講演会等による発表を実施。	
横尾忠則に関する調査研究	「横尾忠則全ポスター」を開催。同展の図録を刊行，新聞等への掲載，講演会等による発表を実施。	富山県立近代美術館，福島県立美術館
マン・レイに関する調査研究	「マン・レイ展」を開催。同展の図録を刊行，新聞等への掲載，講演会等による発表を実施。	国立新美術館
ウフィツィ美術館所蔵作品に関する調査研究	「ウフィツィ美術館　自画像コレクション　巨匠たちの「秘めた」素顔1664-2010」を開催。同展の図録を刊行，新聞等への掲載，講演会等による発表を実施。	損保ジャパン東郷青児美術館
森山大道に関する調査研究	「オン・ザ・ロード　森山大道写真展」（平成23年度開催）	
現代のコンセプチュアル・アートに関	「風穴　もうひとつのコンセプチュアリズム，アジアか	

する調査研究	ら」を開催。同展の図録を刊行，新聞等への掲載，講演会等による発表を実施。	
メディアアートに関する調査研究	「束芋:断面の世代」を開催。同展の図録を刊行，新聞等への掲載，講演会等による発表を実施。	横浜美術館
ルノワールの技法と芸術に関する調査研究	「ルノワール－伝統と革新」を開催。同展の図録を刊行，新聞等への掲載，講演会等による発表を実施。	ポーラ美術館，国立新美術館
美術館教育に関する調査研究	美術館，展覧会運営 （ジュニア・セルフガイド作成，びじゅつあー／なつやすみびじゅつあー／びじゅつあーすぺしゃる／ワークショップの企画）	
アジアの現代美術並びに美術館運営に関する調査研究	美術館，展覧会運営	アジア次世代キュレーター会議
展示における所蔵作品の活用方法についての調査研究	美術館，展覧会運営	大阪市立近代美術館建設準備室
ライアン・ガンダーの調査・研究	展覧会の企画構成	
高松次郎の調査・研究	展覧会の企画構成	
影をめぐる作品の調査・研究	「陰影礼讃－国立美術館コレクションによる」	東京国立近代美術館 京都国立近代美術館 国立西洋美術館 国立新美術館

オ　国立新美術館

調査研究テーマ	美術館活動への反映	連携機関
日本の現代美術の動向に関する調査研究	「アーティスト・ファイル」展を開催，同展の図録を刊行。	
海外の現代美術の動向に関する調査研究	「アーティスト・ファイル」展を開催，同展の図録を刊行。	
ルーシー・リーとヨーロッパの２０世紀工芸に関する調査研究（東京国立近代美術館工芸館との共同研究）	「ルーシー・リー展」を開催，同展の図録を刊行。	東京国立近代美術館
ポスト印象派とその影響についての調査研究（オルセー美術館，オーストラリア国立美術館との共同研究）	「オルセー美術館展2010「ポスト印象派」」を開催，同展の図録を刊行。	オルセー美術館，オーストラリア国立美術館
マン・レイの芸術と生涯に関する調査研究（マン・レイ財団，国立国際美術館との共同研究）	「マン・レイ展」を開催，同展の図録を刊行。	マン・レイ財団，国立国際美術館
近代及び現代の美術を中心とした影の表現，意味，機能等についての調査研究（東京国立近代美術館，京都国立近代美術館，国立西洋美術館，国立国際美術館との共同研究）	「陰影礼賛展」を開催，同展の図録を刊行。	東京国立近代美術館，京都国立近代美術館，国立西洋美術館，国立国際美術館
ゴッホの芸術と生涯に関する調査研究（国立ゴッホ美術館，クレラー＝ミュラー美術館，名古屋市美術館との共同研究）	「没後120年　ゴッホ展」を開催，同展の図録を刊行。	国立ゴッホ美術館，クレラー＝ミュラー美術館，名古屋市美術館
シュルレアリスムの起源とその展開についての調査研究（ポンピドゥーセンターとの共同研究）	「シュルレアリスム展」を開催，同展の図録を刊行。	ポンピドゥーセンター
美術館の教育普及事業（ワークショップ，鑑賞ガイド等）に関する調査研究	教育普及事業	
日本の近現代美術資料に関する調査研究	美術資料の収集・提供事業	
戦後の日本の美術館における展覧会データの収集及び公開に関する	美術情報の収集・提供事業	

調査研究		
美術情報の収集・提供システムに関する調査研究	美術情報の収集・提供事業	
美術館におけるデジタル・アーカイブの構築に関する調査研究	美術情報の収集・提供事業	

② 展覧会カタログの執筆

ア 東京国立近代美術館

タイトル	執筆者職名・氏名	展覧会名
エッセイ「建築はどこにあるの？」	研究員・保坂健二朗	建築はどこにあるの？ 7つのインスタレーション
「いみありげなしみ」展ブローシャ	美術課長・蔵屋美香	いみありげなしみ
「上村松園，その画業に託されたもの」	研究員・中村麗子	上村松園展
「祖母松園を語る（インタビュー）」	日本芸術院会員，画家・上村淳之	上村松園展
作品目録	研究員・中村麗子	上村松園展
章解説	研究員・中村麗子	上村松園展
作品解説	研究員・中村麗子	上村松園展
作品解説	主任研究員・鶴見香織	上村松園展
「手探りのドローイング」展ブローシャ	研究員・保坂健二朗	手探りのドローイング
麻生三郎の絵画	主任研究員・大谷省吾	麻生三郎展
麻生三郎のリアリズム絵画	副館長・松本透	麻生三郎展
文献目録	主任研究員・都築千重子　編	麻生三郎展
出品目録	主任研究員・大谷省吾 主任研究員・都築千重子　　編	麻生三郎展
章解説	主任研究員・大谷省吾	麻生三郎展
写真集への旅	主任研究員・増田玲	鈴木清写真展　百の階梯、千の来歴
アシンメトリーな蜘蛛の巣	写真家・マヒル・ボットマン	鈴木清写真展　百の階梯、千の来歴
解説	客員研究員・小林美香	鈴木清写真展　百の階梯、千の来歴
解説	主任研究員・増田玲	鈴木清写真展　百の階梯、千の来歴
「空虚の形態学」展ブローシャ	主任研究員・鈴木勝雄	空虚の形態学
岡本太郎なんて，ケトバシてやれ！	主任研究員・大谷省吾	生誕100年 岡本太郎展
章解説	主任研究員・大谷省吾	生誕100年 岡本太郎展

作品解説	主任研究員・大谷省吾 副館長・松本透	生誕 100 年 岡本太郎展
岡本太郎略年譜	主任研究員・大谷省吾編	生誕 100 年 岡本太郎展
主要文献目録	主任研究員・大谷省吾編	生誕 100 年 岡本太郎展
隠崎隆一，福本潮子，和田的	工芸課主任研究員・今井陽子	現代工芸への視点―茶事をめぐって
ガラスの冒険	工芸課主任研究員・今井陽子	ガラス★高橋禎彦展
略歴，用語解説，目録	工芸課客員研究員・内藤裕子，工芸課研究補佐員・齊藤佳代	ガラス★高橋禎彦展
参考文献	工芸課研究補佐員・齊藤佳代，工芸課インターン・伊藤昌代，稲葉麻里子，星野立子，三石恵莉	ガラス★高橋禎彦展
栄木正敏―量産陶磁器のオリジナリティ	工芸課主任研究員・諸山正則	栄木正敏のセラミック・デザイン―リズム＆ウェーブ
池田巖，川瀬忍，長野烈，畠山耕治	工芸課主任研究員・諸山正則	現代工芸への視点―茶事をめぐって
作家略歴（伊勢崎晃一朗，今泉毅，村瀬治兵衛）	工芸課主任研究員・北村仁美	現代工芸への視点―茶事をめぐって
年譜，参考文献，目録	工芸課主任研究員・北村仁美	栄木正敏のセラミック・デザイン―リズム＆ウェーブ
茶の湯の器にみる現在性	工芸課長・唐澤昌宏	現代工芸への視点―茶事をめぐって
作家解説（江田蕙，金重有邦，林邦佳，若尾経，渡邊明）	工芸課長・唐澤昌宏	現代工芸への視点―茶事をめぐって

イ　京都国立近代美術館

タイトル	執筆者職名・氏名	展覧会名
とある種別の検索目録，あるいは【その他】への誘い……京都国立近代美術館・所蔵作品目録Ⅷ	特任研究員・河本信治	マイ・フェイバリット―とある美術の検索目録／所蔵作品から
稲垣稔次郎の軌跡	主任研究員・松原龍一	稲垣仲静・稔次郎兄弟展
稲垣仲静　年譜・参考文献	主任研究員・小倉実子	稲垣仲静・稔次郎兄弟展
稲垣稔次郎　略年譜・主要参考文献	主任研究員・松原龍一	稲垣仲静・稔次郎兄弟展
参考資料案内	研究補佐員・池澤茉莉	ローマ追想―19 世紀写真と旅
『日本画』の前衛　1938-1949	学芸課長・山野英嗣	「日本画」の前衛　1938-1949
出品作家紹介	学芸課長・山野英嗣	「日本画」の前衛　1938-1949

『日本画』の前衛　1938-1949　関連年表	学芸課長・山野英嗣 研究補佐員・川井遊木	「日本画」の前衛　1938-1949
松園の「序の舞」	主任研究員・小倉実子	上村松園展
展覧会への序章	ヴォルフガング・ケルステン（チューリヒ大学教授） 池田祐子・主任研究員 三輪健仁（東京国立近代美術館・研究員）	パウル・クレー―おわらないアトリエ
アトリエ絵画	主任研究員・池田祐子	パウル・クレー―おわらないアトリエ
ミュンヘンのアトリエ写真	主任研究員・池田祐子	パウル・クレー―おわらないアトリエ
油彩転写素描	主任研究員・池田祐子	パウル・クレー―おわらないアトリエ
切断という創造的行為	主任研究員・池田祐子	パウル・クレー―おわらないアトリエ
年譜	主任研究員・池田祐子 三輪健仁（東京国立近代美術館・研究員）	パウル・クレー―おわらないアトリエ
作品リスト	主任研究員・池田祐子	パウル・クレー―おわらないアトリエ

ウ　国立西洋美術館

タイトル	執筆者職名・氏名	展覧会名
ローマにおけるファルネーゼ家の美術パトロネージ	主任研究員・渡辺晋輔	ナポリ・宮廷と美―カポディモンテ美術館展　ルネサンスからバロックまで
作家解説（編）	主任研究員・渡辺晋輔	ナポリ・宮廷と美―カポディモンテ美術館展　ルネサンスからバロックまで
「宗教」デューラーの受難（パッション）＝情熱	研究員・新藤　淳	アルブレヒト・デューラー版画・素描展　宗教／肖像／自然
アルブレヒト・デューラー年譜	研究員・新藤　淳	アルブレヒト・デューラー版画・素描展　宗教／肖像／自然
「淡い色の紙」―レンブラントの和紙刷り版画	上席主任研究員・幸福　輝	レンブラント　光の探求／闇の誘惑

エ　国立国際美術館

タイトル	執筆者職名・氏名	展覧会名
ルノワールと日本人画家たち　言葉でたどる巨匠の面影	主任研究員・安來正博	ルノワール－伝統と革新
フェティッシュを越えて	館長・建畠哲	死なないための葬送　荒川修作初期作品展
荒川修作の初期作品について	客員研究員・平芳幸浩	死なないための葬送　荒川修作初期作品展
異教の王	館長・建畠哲	横尾忠則全ポスター
フェティッシュとしての横尾忠則ポスター	主任研究員・安來正博	横尾忠則全ポスター

束芋　外と内の往還	主任研究員･植松由佳	束芋:断面の世代
マン･レイ　年譜翻訳	主任研究員　植松由佳	マン･レイ展
作品解説	主任研究員･中井康之	ウフィツィ美術館　自画像コレクション　巨匠たちの「秘めた」素顔 1664-2010
風穴	研究員･橋本　梓	風穴　もうひとつのコンセプチュアリズム, アジアから

オ　国立新美術館

タイトル	執筆者職名・氏名	展覧会名
中井川由季の 10 年，その後	副館長・福永治	アーティスト・ファイル 2011―現代の作家たち
マン・レイとマルセル・デュシャン―出品作品についてのノート	学芸課長･南雄介	マン・レイ展
マルセル・デュシャンとシュルレアリスム	学芸課長･南雄介	シュルレアリスム展―パリ、ポンピドゥセンター所蔵作品による
岩熊力也の絵画について	学芸課長･南雄介	アーティスト・ファイル 2011―現代の作家たち
抽象絵画の創設と 1900 年前後のフランス絵画―ヴァシリー・カンディンスキーの視点から	主任研究員・長屋光枝	オルセー美術館展 2010「ポスト印象派」
鬼頭健吾―どこまでいっても表面しかありえない世界	主任研究員・長屋光枝	アーティスト・ファイル 2011―現代の作家たち
ビョルン・メルフス	主任研究員・長屋光枝	アーティスト・ファイル 2011―現代の作家たち
西洋絵画の影と光	主任研究員・宮島綾子	陰影礼讃―国立美術館コレクションによる
風景画の影と光	主任研究員・宮島綾子	陰影礼讃―国立美術館コレクションによる
絵画の力	主任研究員・宮島綾子	シュルレアリスム展―パリ，ポンピドゥセンター所蔵作品による
タラ・ドノヴァン	主任研究員・西野華子	アーティスト・ファイル 2011―現代の作家たち
松江泰治	主任研究員・本橋弥生	アーティスト・ファイル 2011―現代の作家たち
バードヘッドと今回の出品作品について	主任研究員・平井章一	アーティスト・ファイル 2011―現代の作家たち

③　研究紀要，館ニュース等の執筆

ア　東京国立近代美術館

タイトル	執筆者職名・氏名	掲載誌名	発行年月日
いみありげなしみ	美術課長・蔵屋美香	『現代の眼』581 号（2010 年 4-5 月号）	平成 22 年 4 月 1 日
実験の場としての庭―「庭―作家の小宇宙」にちなんで	研究員・中村麗子	『現代の眼』581 号（2010 年 4-5 月号）	平成 22 年 4 月 1 日
菱田春草《賢首菩薩》―朦朧体の次にあるもの	主任研究員・鶴見香織	『現代の眼』581 号（2010 年 4-5 月号）	平成 22 年 4 月 1 日
平成 21 年度の新収蔵作品（美術作品）について	美術課長・蔵屋美香 主任研究員・増田玲	『現代の眼』582 号（2010 年 6-7 月号）	平成 22 年 6 月 1 日
手探りのドローイング　たとえば	研究員・保坂健二朗	『現代の眼』583 号（2010 年	平成 22 年 8 月 1 日

照明を暗くしてみる―美術館での共感覚的体験を目指して		8-9 月号)	
榎倉康二のしみ―「いみありげなしみ」展覚え書き	美術課長・蔵屋美香	『現代の眼』583 号（2010 年 8-9 月号）	平成 22 年 8 月 1 日
「石膏原型のオリジナリティー」　塑像という迷宮	主任研究員・鈴木勝雄	『現代の眼』584 号（2010 年 10-11 月号）	平成 22 年 10 月 1 日
長谷川利行《カフェ・パウリスタ》収蔵の経緯と修復・分析の報告	研究員・保坂健二朗	『現代の眼』584 号（2010 年 10-11 月号）	平成 22 年 10 月 1 日
教育普及リポート　KIDS★MOMAT 2010 報告　夏休みの教育普及活動	主任研究員・一條彰子	『現代の眼』585 号（2010 年 12-2011 年 1 月号）	平成 22 年 12 月 1 日
「建築はどこにあるの？7 つのインスタレーション」イベント ダンスパフォーマンス アフタートークから	研究員・保坂健二朗 研究補佐員・柴原聡子	『現代の眼』585 号（2010 年 12-2011 年 1 月号）	平成 22 年 12 月 1 日
コレクションを中心とした小企画「空虚の形態学」　「造形の凹み・穴・空洞」	主任研究員・鈴木勝雄	『現代の眼』586 号（2011 年 2-3 月号）	平成 23 年 2 月 1 日
マチエール(画肌)の魅力－画面の多様なる表皮	主任研究員・ 都築千重子	『現代の眼』586 号（2011 年 2-3 月号）	平成 23 年 2 月 1 日
作品解説	主任研究員・一條彰子	『国立美術館アートカード・ガイド』（独立行政法人国立美術館	平成 23 年 3 月 31 日
鑑賞の位相―美術出版社刊『日本の彫刻』をめぐって	主任研究員・増田玲	『東京国立近代美術館研究紀要』第 15 号	平成 23 年 3 月 31 日
長谷川利行作《カフェ・パウリスタ》の調査報告　来歴，「価格」，主題，修復，成分分析，X 線透過写真について	研究員・保坂健二朗	『東京国立近代美術館研究紀要』第 15 号	平成 23 年 3 月 31 日
高橋禎彦展	工芸課主任研究員・ 今井陽子	現代の眼　585 号（2010 年 12-2011 年 1 月号）	平成 22 年 12 月- 平成 23 年 1 月
高橋禎彦，私の仕事	工芸課主任研究員・ 今井陽子	現代の眼　586 号(2011 年 2-3 月号)	平成 23 年 2-3 月
「伝統工芸」と倣作：草創期の日本伝統工芸展の模索	工芸課主任研究員・ 木田拓也	東京国立近代美術館研究紀要第 15 号	平成 23 年 3 月 31 日
栄木正敏のセラミック・デザイン	工芸課主任研究員・ 北村仁美	現代の眼　584 号（2010 年 10-11 月号）	平成 22 年 10-11 月
所蔵作品展「現代の人形」によせて	工芸課主任研究員・ 北村仁美	現代の眼　585 号（2010 年 12-2011 年 1 月号）	平成 22 年 12 月- 平成 23 年 1 月
平成 21 年度の新収蔵作品（工芸作品）について	工芸課長・唐澤昌宏	現代の眼　582 号(2010 年 6-7 月号)	平成 22 年 6-7 月
現代工芸への視点―茶事をめぐって	工芸課長・唐澤昌宏	現代の眼　582 号(2010 年 6-7 月号)	平成 22 年 6-7 月
アーティスト・トークから　伊勢崎晃一朗，川瀬忍	工芸課長・唐澤昌宏	現代の眼　586 号(2011 年 2-3 月号)	平成 23 年 2-3 月

（フィルムセンター）

タイトル	執筆者職名・氏名	掲載誌名	発行年月日
フィルムセンターにおける復元の新たな展開―アマチュア映画の取り組み	主任研究員・板倉史明	NFC ニューズレター　第 90 号	平成 22 年 4 月 1 日
「史劇　楠公訣別」重要文化財指定へ	主任研究員・板倉史明	NFC ニューズレター　第 90 号	平成 22 年 4 月 1 日
パリ市立フランソワ・トリュフォー映画図書館を訪ねて	情報資料室長・岡田秀則	NFC ニューズレター　第 91 号	平成 22 年 6 月 1 日
デジタル・コンテンツの長期保存―問題の整理と更新に向けて	主幹・岡島尚志	NFC ニューズレター　第 92 号	平成 22 年 8 月 1 日
「コレクションにする」ことから「コレクションになる」ことへ	映画室長・栩木章（筆名：とちぎあきら）	NFC ニューズレター　第 92 号	平成 22 年 8 月 1 日
途方もない拡がりを見渡す―黒澤	情報資料室長・岡田秀則	NFC ニューズレター　第 93 号	平成 22 年 10 月 1 日

明の“映画遺産”			
FIAF オスロ会議報告 A Report on the 66th FIAF Congress in Osio JTS2010 におけるデジタル保存・管理の新提案	主任研究員・板倉史明	NFC ニューズレター　第 93 号	平成 22 年 10 月 1 日
アキラ・クロサワを崇める人々―いくつかの点景	主幹・岡島尚志	NFC ニューズレター　第 94 号	平成 22 年 12 月 1 日
第 29 回ポルデノーネ無声映画祭報告	情報資料室長・岡田秀則	NFC ニューズレター　第 94 号	平成 22 年 12 月 1 日
第 29 回ポルデノーネ無声映画祭前日談	映画室長・栩木章（筆名：とちぎあきら）	NFC ニューズレター　第 94 号	平成 22 年 12 月 1 日
黙して，語れ―新しい常設展「日本映画の歴史」の射程	情報資料室長・岡田秀則	NFC ニューズレター　第 95 号	平成 23 年 2 月 1 日
松本俊夫監督，『銀輪』（1956 年）のデジタル復元を語る	映画室長・栩木章（筆名：とちぎあきら）	東京国立近代美術館　研究紀要　第 15 号	平成 23 年 3 月 31 日
日本映画におけるトーキー初期の画面比率	主任研究員・板倉史明	東京国立近代美術館　研究紀要　第 15 号	平成 23 年 3 月 31 日

イ　京都国立近代美術館

タイトル	執筆者職名・氏名	掲載誌名	発行年月日
「十九世紀末京都」への一視点―田村宗立，伊東忠太を中心に―	学芸課長・山野英嗣	京都国立近代美術館ニュース　視る　442 号	平成 22 年 10 月 15 日
ゴットフリート・ワグネルと京都	主任研究員・松原龍一	京都国立近代美術館ニュース　視る　442 号	平成 22 年 10 月 15 日
資料紹介　稲垣仲静『夏休日誌』	主任研究員・小倉実子	京都国立近代美術館ニュース　視る　448 号	平成 22 年 12 月 25 日
「『日本画』の前衛」に出品された初公開作品について	学芸課長・山野英嗣	京都国立近代美術館ニュース　視る　450 号	平成 23 年 1 月 31 日
クリスチャン・マークレイ試論―見ることによって聴く	客員研究員・中川克志	京都国立近代美術館研究論集　CROSS　SECTIONS　―VOL.3	平成 22 年 12 月 15 日
上野伊三郎，日本インターナショナル建築会とバウハウス	学芸課長・山野英嗣	京都国立近代美術館研究論集　CROSS　SECTIONS　―VOL.3	平成 22 年 12 月 15 日
海外所蔵の日本の染型紙の調査研究―チェコとハンガリー	主任研究員・池田祐子	京都国立近代美術館研究論集　CROSS　SECTIONS　―VOL.3	平成 22 年 12 月 15 日
ゴットフリート・ワグネルと京都	主任研究員・松原龍一	京都国立近代美術館研究論集　CROSS　SECTIONS　―VOL.3	平成 22 年 12 月 15 日

ウ　国立西洋美術館

タイトル	執筆者職名・氏名	掲載誌名	発行年月日
ラファエル前派：ヴィクトリア朝と近代（ティム・バリンジャー著）	学芸課主任研究員 大屋　美那（翻訳）	国立西洋美術館研究紀要 No. 15	平成 23 年 3 月 31 日
屋内彫刻の展示と地震対策	学芸課主任研究員 河口　公夫	国立西洋美術館研究紀要 No. 15	平成 23 年 3 月 31 日
国立西洋美術館所蔵タピスリー《シャンボール城：九月》の色と素材	学芸課研究補佐員 高嶋　美穂	国立西洋美術館研究紀要 No. 15	平成 23 年 3 月 31 日
ナポリ・宮廷と美― カポディモンテ美術館展 ルネサンスからバロックまで	学芸課主任研究員 渡辺　晋輔	ZEPHYROS43 号	平成 22 年 5 月 20 日
2009 年度新収蔵作品 ジョルジュ・ブラック《静物》	学芸課長 村上　博哉	ZEPHYROS43 号	平成 22 年 5 月 20 日

アルブレヒト・デューラー版画・素描展　宗教／肖像／自然	学芸課主任研究員 佐藤　直樹	ZEPHYROS44 号	平成 22 年 8 月 20 日
保存修復の仕事	学芸課研究補佐員 内田　香里	ZEPHYROS44 号	平成 22 年 8 月 20 日
常設展のための新しい鑑賞ガイド Touch the Museum	学芸課研究員 新藤　淳	ZEPHYROS44 号	平成 22 年 8 月 20 日
アルブレヒト・デューラー版画・素描展　宗教／肖像／自然	学芸課研究員 新藤　淳	ZEPHYROS45 号	平成 22 年 11 月 20 日
松方コレクションをめぐるエピソード：セガンティーニ	学芸課主任研究員 大屋　美那	ZEPHYROS45 号	平成 22 年 11 月 20 日
小企画展「アウトサイダーズ」	学芸課主任研究員 渡辺　晋輔	ZEPHYROS45 号	平成 22 年 11 月 20 日
専門家のために美術図書館ができること	学芸課主任研究員 川口　雅子	ZEPHYROS46 号	平成 23 年 2 月 20 日

・陳岡めぐみ(国立西洋美術館学芸課研究員)著『市場のための紙上美術館』(2009 年)が，2010 年度渋沢クローデル賞ルイ・ヴィトン・ジャパン特別賞を受賞。

エ　国立国際美術館

タイトル	執筆者職名・氏名	掲載誌名	発行年月日
館蔵品紹介《抗生物質と子音にはさまれたアインシュタイン》荒川修作	客員研究員・平芳幸浩	国立国際美術館ニュース　第 177 号	平成 22 年 4 月 1 日
束芋：断面の世代	主任研究員・植松由佳	国立国際美術館ニュース　第 178 号	平成 22 年 6 月 1 日
歴史の中のルノワール「ルノワール－伝統と革新」展に寄せて	主任研究員・安來正博	国立国際美術館ニュース　第 178 号	平成 22 年 6 月 1 日
館蔵品紹介《空間のポエム No.1「ことばのイヴェント」》	研究員・橋本　梓	国立国際美術館ニュース　第 178 号	平成 22 年 6 月 1 日
美術と映像	客員研究員・森下明彦	国立国際美術館ニュース　第 179 号	平成 22 年 8 月 1 日
ワークショップ報告	研究員・藤吉祐子	国立国際美術館ニュース　第 179 号	平成 22 年 8 月 1 日
農民はヘリコプターの夢を見るか？蔡國強とディン・Q・レー	研究員・橋本　梓	国立国際美術館ニュース　第 180 号	平成 22 年 10 月 1 日
館蔵品紹介　《The Smoke of the Incense》館勝生	主任研究員・安來正博	国立国際美術館ニュース　第 180 号	平成 22 年 10 月 1 日
展覧会出品作品紹介　エリザベート・シャプランーフィレンツェのフランス人画家ー	主任研究員・中井康之	国立国際美術館ニュース　第 181 号	平成 22 年 12 月 1 日
館蔵品紹介　《無題》エルヴィン・ヴルム	主任研究員・中西博之	国立国際美術館ニュース　第 181 号	平成 22 年 12 月 1 日
大阪から東京へ　早川良雄の第一歩「早川良雄ポスター展」に寄せて	主任研究員・安來正博	国立国際美術館ニュース　第 182 号	平成 23 年 2 月 1 日
館蔵品紹介　《彼女の独身者たちによって裸にされた花嫁さえも(グリーン・ボックス)》マルセル・デュシャン	客員研究員・平芳幸浩	国立国際美術館ニュース　第 182 号	平成 23 年 2 月 1 日

オ　国立新美術館

タイトル	執筆者職名・氏名	掲載誌名	発行年月日
研究員レポート 「アーティスト・ファイル」という構想	副館長・福永治	「国立新美術館ニュース」No.14（4月）	平成22年4月
“横軸”の存在意義「アーティスト・ファイル」雑感	主任研究員・平井章一	「国立新美術館ニュース」No.14（4月）	平成22年4月
アートのとびら　国立新美術館ガイドブックVol.5	主任研究員・西野華子	「アートのとびら　国立新美術館ガイドブックVol.5」	平成22年9月
研究員レポート　マローティ・ゲーザ：20 世紀初頭にハンガリーがみた夢―ヴェネツィア・ビエンナーレのハンガリー館	主任研究員・本橋弥生	「国立新美術館ニュース」No.17（1月）	平成23年1月

（６）快適な観覧環境の提供

①　高齢者，身体障害者，外国人等への対応

平成21年度に引き続き，各館とも次のような対応を実施している。

・多目的（身体障害者用）トイレ，エレベータ（エスカレーター），スロープ（手摺り）の設置
・車椅子，ベビーカーの貸出
・自動体外式除細動器（AED）の設置
・盲導犬，介助犬の同伴による観覧
・多言語による館案内表示
・多言語による館内リーフレット，ミュージアムカレンダー等の配布
・国土交通省の実施する「YOKOSO! JAPAN WEEKS 2011」に参加し，外国人旅行者の所蔵作品展観覧料の割引等を実施
・観覧者の休憩のための椅子を展示室に配置
・オストメイト（人工肛門，人工膀胱保有者）用の設備を設置
・キャプションに英語表記を併記
・英語版ホームページの公開
・東京国立近代美術館，国立西洋美術館，国立新美術館においては，東京都が実施する「ウェルカムカード」に参加し，外国人来館者の所蔵作品展観覧料を割引
・東京国立近代美術館本館においては，所蔵作品展のための英語版音声ガイドを作成した（運用は平成23年度から）。
・国立西洋美術館においては，観光庁が実施する訪日外国人旅行者の受入環境整備事業の一環として，外国人旅行者の受入環境の現状を把握・分析するための重点地域調査に協力した。（①基礎調査：平成22年10月　②外国人モニター調査：平成22年12月）
・国立国際美術館においては，貸出用拡大鏡（16個）を常備した。また，授乳室及び安全仕様のキッズルームを地下1階に設置し，幼児向け絵本400冊を常設した。
・国立新美術館においては，文字を大きくし，見易くしたフロアガイド「大きな文字の利用案内」の館内配布を行った。

②　展示，解説の工夫と音声ガイドの導入

各館とも次のような対応を実施している。

・共催展における音声ガイドの導入
・館内リーフレット，フロアプラン，ミュージアムカレンダー等の配布

その他，東京国立近代美術館本館では所蔵作品展において，「重要文化財」のキャプション表示の追加やホームページに重要文化財作品の特設解説ページを引き続き設置するとともに,新たに所蔵作品展のための英語版音声ガイド作成（運用は，平成 23 年度から）等を行っている。工芸館では，キャプションのサイズ拡大，作品名のふりがな及び素材・技法を記載した。

フィルムセンターでは，展覧会の開催に際し，展示作品の出品目録の配布（4 回）とともに，新しい常設展「NFC コレクションでみる 日本映画の歴史」において，児童・生徒向けの「ジュニア・セルフガイド」を配布した。

国立西洋美術館においては，共催展・自主企画展において「作品リスト（日本語，英語）」及び「ジュニア・パスポート」，常設展作品リスト，国立西洋美術館本館の建築探検マップ（日・英・仏・韓・中）の無料配布を引き続き行った。また，既に常設展ガイドとして、無料で配信している iPhone 専用アプリ「Touch the Museum」の多言語化に向けた修正・拡張を行い，英語版の制作に着手した。新たに版画展開催の際,版画の技法を説明した小冊子を展示室内に配置した。

国立新美術館においては，「陰影礼讃展」鑑賞ガイドブック『アートのとびら vol.5』（日英併記），「アーティスト・ファイル 2011」鑑賞用パンフレット『ちいさなアーティスト・ファイル 2011』を作成配布した。

③ 入場料金，開館時間等の弾力化

文化の日（11 月 3 日）及び国際博物館の日（5 月 18 日，京都国立近代美術館を除く，国立国際美術館は 5 月 17 日に実施）の観覧料を無料（国立新美術館を除く。）にするとともに，夜間開館の実施，年始やゴールデンウイーク等休館日の臨時開館を実施した。また，所蔵作品展及び自主企画展の高校生以下及び 18 歳未満の者の観覧料の無料化についての周知に努めた。

その他平成 22 年度の各館の取組は以下のとおりである。

（ア） 東京国立近代美術館

・本館では，年始は1月2日（「美術館へ行こう ～ A Day in the Museum」の実施）から開館し，図録やオリジナルグッズをプレゼント

・本館では，東京地下鉄株式会社主催のウォーキングイベント「東京まちさんぽ」（11 月 20 日）に参加し，ウォーキングマップ持参者には所蔵作品展及び「麻生三郎展」の一般観覧料金を割引

・フィルムセンターでは，「中央区まるごとミュージアム」へ協力し，10 月 31 日の観覧料の無料化を実施

（イ）京都国立近代美術館

・関西文化の日（11 月 20 日，11 月 21 日）の所蔵作品展観覧料の無料化

・京都市駐車場公社と連携による駐車場料金の割引

・「美術館へ行こう　A Day in the Museum」（4 月 4 日）の全館無料化

（ウ）国立西洋美術館

・「東京・春・音楽祭」（主催：音楽祭実行委員会）に協力し，講堂で無料イベント「レクチャー＆コンサート」（4 月 8 日）を開催

・「国際博物館の日」では，上野地区の諸機関や商業施設等と連携し，スタンプラリーや半券提示によるサービス提供などの事業に参加するとともに，来館者には絵はがきをプレゼント

・「夏休み子ども音楽会 2010《上野の森文化探検》」（主催：東京文化会館（東京都歴史文化財団）ほか）に協力し，参加者については常設展の観覧料金を無料（8 月 4 日）

・「Museum X'mas in 国立西洋美術館《美術館でクリスマス》」において，「10 分トーク」「クリスマスキャロルコンサート」などの各種イベントやクリスマスツリーの設置（期間：平成 22 年 12 月 14 日（火）～ 平成 22 年 12 月 19 日（日）※クリスマスツリーは 12 月 26 日（日）まで設置）

（エ）国立国際美術館

・毎月第一土曜日に所蔵作品展観覧料の無料化

・関西文化の日（11 月 20 日，11 月 21 日）に所蔵作品展観覧料の無料化

（オ）国立新美術館

・「平成 22 年度［第 14 回］文化庁メディア芸術祭」の観覧料の無料化

・六本木アート・トライアングル参加館との観覧料の相互割引及び共通マップの作成・配布

・公募団体展と企画展の観覧料の相互割引

・東京メトロ，都営地下鉄ワンデーパスによる観覧料割引

・共催展で，高校生無料観覧日の設定を推進

④ キャンパスメンバーズ制度の実施

平成 18 年 12 月に規則を制定し，国立美術館全体の事業として発足した，大学，短期大学，高等専門学校及び専修学校等を対象とした会員制度「国立美術館キャンパスメンバーズ」については，平成 22 年度においてメンバー校は新規 8 校を加え 64 校，各館利用者数は 72,356 名となった。また， キャンパスメンバーズ入会校向けのサイトを作成し，公開した。あわせて，サイトを周知するための学内用ポスター及びチラシを作成した。

⑤ ミュージアムショップ，レストラン等の充実

ミュージアムショップについては，所蔵作品の図版を使用したポストカードや図柄を活用したオリジナルグッズの開発に努め，ホームページにおいて展覧会図録やグッズの情報を紹介するなど広報宣伝を行った。

京都国立近代美術館では，多様な商品を展開するよう取り組むと共に「稲垣仲静・稔次郎兄弟展」に関連し，仲静の作品の絵柄の入ったＴシャツや稔次郎の作品の図柄を使ったスタンプなどのオリジナルグッズを開発し，販売を行った。

国立西洋美術館では，販売品の充実のため例年に引き続きオリジナルグッズ新商品の開発を行った。

平成 22 年度の主な新商品

・絵はがきトレシー（メガネふき）4 種類

・《考える人》T シャツ

・トレシーカレンダー

・絵はがき（新図案：ブーグロー《少女》，セガンティーニ《羊の剪毛》）

・プリントオンデマンド グリーティングカード「マイ・ミュージアムカード」

国立国際美術館では，オリジナルグッズの充実のほか，企画展に合わせた出展作家に関連した書籍販売等来館者のニーズに合わせた運営を行った。

レストランについては，東京国立近代美術館，国立西洋美術館，国立国際美術館及び国立新美術館で，企画展に関連した料理をメニューに取り入れ，ホームページにおいて，メニュー，サービスの紹介や店内の写真を掲載するなどの広報を行った。また，京都国立近代美術館では，京都らしさを意識し，旬のものをおいしく提供できるように春夏と秋冬でメニューを入れ替えるとともに，企画展に合わせたテーマランチやテーマデザートの提供を行った。

2　我が国の近・現代美術及び海外の美術を体系的・通史的に提示し得るナショナルコレクションの形成・継承

（１）美術作品の収集

館　　名		購入点数	購入金額（千円）	寄贈点数	年度末所蔵作品数	年度末寄託品数
東京国立近代美術館	本館	122	758,826	128	10,295	242
	工芸館	9	47,027	31	2,961	117
京都国立近代美術館		64	261,606	63	9,806	822
国立西洋美術館		34	167,478	25	4,659	37
国立国際美術館		57	141,025	139	6,305	118
計		286	1,375,962	386	34,026	1,336

館　　名	購入本数	購入金額（千円）	寄贈本数	年度末所蔵本数	年度末寄託品本数
東京国立近代美術館(ﾌｨﾙﾑｾﾝﾀｰ)	413	348,086	852	63,747	8,018

ア　収集作品の特徴

（ア）東京国立近代美術館

（本館）

近代日本美術の体系的コレクションの構築を引き続き図りつつ，近代日本美術に影響を与えた欧米作家作品の収集も積極的に行い，①特に日本人作家に多大な影響を与えた 1900－1940 年代の欧米作家作品，②1970 年代以降の日本人作家の作品の収集に努めた。

購入作品については，盛田良子氏旧蔵コレクションより，ジョルジュ・ブラック《女のトルソ》，パウル・クレー《山への衝動》，ニコラ・ド・スタール《コンポジション（湿った土）》の計 3 点を購入した。いずれも現在では市場に出回ることのきわめて稀な大型のミュージアム・ピースであり，日本近代美術に与えた影響の大きさを考えても，収蔵の意義は大きい。

また，下村観山の六曲屏風《唐茄子畑》は，やはり現在では収蔵の難しい大型の新出作品である。

寄贈作品については，上記盛田良子氏旧蔵コレクションのうち，ジャン・デュビュッフェ《土星の風景》の寄贈を受けた。また，昨年に引き続き収蔵を進めている写真家，奈良原一高のマスター・プリントにつき，株式会社ニコンの支援により，代表的シリーズ「王国」より全87点の寄贈を受けた。

（工芸館）

平成 22 年度においては，①日本工芸の近代化を示す作品の補完，②戦後から現代にいたる伝統工芸やクラフト，造形的な表現の重要作品の収集，③近代の茶の湯の工芸を代表する作品の収集，④近・現代ヨーロッパの工芸及びデザインの収集に努めた。

購入作品では，近現代工芸を牽引した松田権六の《鴛鴦蒔絵棗》と，現代に活躍する伝統工芸の石田亘（ガラス）や真栄城興茂，松枝哲哉（染織）の作品，日展の並木恒延（漆芸）のパネル作品，そして陶造形の結城美栄子の作品を収蔵した。ヨーロッパの工芸ではイタリアの国際的な陶芸家カルロ・ザウリの器物作品 2 点を，デザインではバウハウスのマリアンネ・ブラントの《ティーセット》を収蔵した。

寄贈作品については，重要無形文化財保持者（人間国宝）の市橋とし子（人形）の作品を初めて収蔵した。同じく保持者の荒川豊蔵，三代徳田八十吉，加藤孝造（陶芸），松田権六

（漆芸）らとともに，戦後の造形を代表する小川待子，十二代三輪休雪（龍作，陶芸）や麻田脩二（染織），天野可淡（人形）らの重要な作品を収蔵した。

（フィルムセンター）

映画フィルムの購入作品については，上映企画に合わせ，『さらば夏の光』（1968 年）など吉田喜重監督作品８作品，黒澤明脚本による作品 2 作品，次年度の上映企画に合わせ，『戦火の果て』（1950 年）など吉村公三郎監督作品 15 作品，また共催事業となったポルデノーネ無声映画祭の企画「松竹の三巨匠」に合わせ，島津保次郎『愛よ人類と共にあれ』（1931 年）等を購入した。ビネガーシンドロームや褪色の危険性が高い 1950 年代後半から 60 年代にかけての作品については，1954 年に製作を再開した日活の初期作品，沢島忠，本多猪四郎監督作品等を重点的に収集した。また，散逸・劣化の危険性が著しい非商業映画については，門田龍太郎『チェチェメニ号の冒険』（1976 年），鈴木志郎康『草の影を刈る』（1977 年）等 1970 年代以降の日本文化・記録映画の作品に焦点を当て収集を行った。その他として，日本アニメーション映画については，大藤信郎『春の唄』（1931 年），村田安司『ジラフの首はなぜ長い』（1929 年）等戦前から戦後直後にかけての作品 18 作品を購入するとともに，戦後日本アニメーション映画を代表する学研の人形アニメーション映画について 37 作品 51 本の購入を行い，アニメーション映画のコレクションの充実を図った。

寄贈作品については，高林陽一監督作品の原版及びプリント 48 本，文化記録映画の監督キャメラマン高岩仁氏が関わった作品の原版及びプリント 156 本を初め，羽田澄子監督より『歌舞伎の魅力　菅丞相　片岡仁左衛門―義太夫狂言の演技―』（1982 年）等のプリント，村野鐵太郎監督より『遠野物語』（1982 年）等の原版及びプリント等の寄贈を受け入れた。また，国際的に知名度の高いアニメーション作家・山村浩二の『頭山　Mt.HEAD』（2002 年）等のプリントとともに，本年度も継続して，大峠プロダクション等の作品を継承された山内隆一氏から，362 本の原版の寄贈を受けた。

（イ）京都国立近代美術館

我が国の近・現代における絵画や版画，工芸，建築，デザイン，写真等で，主として絵画・工芸について，近代日本美術史の骨格を形成する代表作及び各時期において重要な位置を占める記念的作品，並びに将来美術史に組み込まれていくであろう現代美術の秀作を積極的に収集するとともに，優れた写真作品についても収集に努めた。特にダダ等ヨーロッパの前衛作品の収集を行った。

購入作品については，本部留保金を活用し，わが国にはほとんど収蔵されていないダダの女性作家ハンナ・ヘッヒの代表作《「Angst（不安）」》他を収蔵するとともに，継続して収蔵をすすめている川西英旧蔵コレクションのなかから，竹久夢二の未公開肉筆画《ショールの女（ふらんすの）》他を購入した。さらに浅井忠《干網》をはじめ水彩画の秀作をまとめて購入した。

寄贈作品については，工芸分野の重要作家でありながら，これまで収蔵の機会を逃してきた平石碧外の《黄楊浄香座》ほか木工作品をまとめて，さらには《偶－Ｂ》ほか麻田脩二の染織作品を多数，作家本人より寄贈を受けた。

（ウ）国立西洋美術館

本年度においては，①15 世紀～20 世紀初頭のヨーロッパ絵画の収集，②ドイツ・フランドル・イタリア・フランスを中心にヨーロッパ版画のコレクションの充実とともに，③旧松方コレクション作品の情報収集を継続して行った。

購入作品については，18世紀イタリアの画家ジョヴァンニ・パオロ・パニーニ《古代建築と彫刻のカプリッチョ》を購入した。また，ファンタン=ラトゥール《自画像》，16世紀ボロ

ーニャ派《聖母子と洗礼者聖ヨハネ》はじめ旧松方コレクションの絵画8点・素描9点・版画（詩画集）1点を一括購入した。

寄贈作品については，アンリ・ファンタン＝ラトゥール《トリトンに追われるナイアス》ほか旧松方コレクションの素描8点・参考作品（作者不詳の作品）12点の寄贈を受けた。

（エ）国立国際美術館

日本美術の発展と世界の美術との関連を明らかにするため，① 1945 年以降の日本の現代美術の系統的収集（日本の戦後美術を跡づける主要作）②国際的に注目される国内外の同時代の美術の収集を行った。

購入作品については，ベルギーを代表する現代作家ミヒャエル・ボレマンス《Automat(3)》やアメリカを代表する現代作家マイク・ケリーの近作彫刻《City 3(4 oh 5)(From serise Kandors)》をはじめ，現代日本の若手画家，町田久美，杉戸洋など，現代日本の新しい絵画同行を反映した作家とともに，大阪出身で現代日本を代表する写真家 森山大道の大阪を主題にした写真の連作を収蔵することができた。

寄贈作品については，戦後の抽象絵画を代表するオノサト・トシノブ《１つの丸・朱》他絵画作品 13 点及び京都を拠点に活躍した井田照一の絵画，版画，彫刻など 12 点の寄贈を受けた。また，寄贈作品を多数所蔵している横尾忠則のポスター102 点を受贈し，横尾作品の更なる充実を図ることができた。

（２）収蔵庫等保存施設の狭隘・老朽化への対応と適切な保存環境の整備等

①　収蔵庫等の狭隘・老朽化への対応

ア　東京国立近代美術館

本館では，これまで新収蔵庫に収められていた写真用及び版画・素描用の汎用額全てを，旧収蔵庫前室に棚を新設することで集密化した。これにより，新収蔵庫内の作品保管状況は改善されたものの，平成22年度において新収蔵作品250点の増加により，結果として収納率に大きな変化はなしとなった。

工芸館では，平成22年度は購入・寄贈40点を収蔵した。パネル状の染織作品５点と漆芸作品２点とは各々に立てかけて収納したが，陶芸の大型作品１点は積み上げて収納した。いずれの収蔵庫も床面積の狭小化が進んでいる。

フィルムセンターでは，平成22年度末にフィルムセンター相模原分館の増築棟が完成し，映画フィルム保存庫が増床され，併せて映画関連資料庫も新設されたため，保存庫の狭隘は解消されることとなった。さらに，フィルム缶収納棚受皿の形状を改良し，1000フィート，1500フィート，2000フィート缶のどのタイプにも対応可能な，缶の形状にとらわれない効率的な収納ができることとなった。

イ　京都国立近代美術館

空気調和設備改修計画に則り，空冷ヒートポンプチラー等の更新を実施した。これにより収蔵庫内の保存環境が改善された。また，展示室を含む美術館全体の空気調和設備に関しては，設計図面が完成した。

ウ　国立西洋美術館

新館空気調和機更新工事の竣工にともない，空調設備の安定化及び収蔵庫内の躯体劣化の修繕が行われ，収蔵庫内の環境が改善されたが，常設展示室の一部閉室等に伴って多数の作品を収蔵庫へ収める場合には，絵画ラックの面積不足が常時問題となっている。一方，本年度にいたり，ラックそのものの不具合が発生したことから，収納率が大きく減少し，現在その修繕を試みているところではあるが，大規模な作品移動が実施できる状況にはないため，限定的な対処に留まらざるを得なかった。

エ　国立国際美術館

既に収納率が実質100%以上となっているが，積み重ねられる作品をまとめて収納したり，ラックの隙間を可能な限り小さくしたりして，適切な保存環境を維持するよう努めた。

オ　その他

東京国立近代美術館を含め，国立美術館の収蔵庫について，既に限界に達しており各館限りでの対応では限度がある。このため，東京国立近代美術館フィルムセンター相模原分館に隣接する「キャンプ淵野辺留保地」の利用について，相模原市が設置する検討委員会に参画するととに，利用計画の素案をとりまとめ，その中で，留保地の一部については，国立美術館の要望も踏まえつつ今後更に検討することとなったところである。引き続き，地元等関係機関との協議を進める。

②　保存環境の整備等と防災対策の推進・充実

ア　東京国立近代美術館

（本館・工芸館）

地震対策として，新収蔵庫の木製棚をビスと金具で連結した。

麹町消防署の査察に従い，適正な防火管理に努め，平成23年1月24日に，麹町消防署と合同で東京国立近代美術館自衛消防訓練を実施した。

収蔵庫エリアへのアクセスに関する徹底した制限，可燃物の管理等を行った。

（フィルムセンター）

消防用設備，自家発電設備など定期点検を実施し，点検により判明した不活性ガス消火設備，蓄電池設備などの老朽箇所の修理を行った。また，消防訓練を行い，非常時における来館者誘導方法等の確認を行った。

イ　京都国立近代美術館

平成22年9月13日に消防署指導のもとで避難誘導訓練・消火訓練を実施した。

ウ　国立西洋美術館

大型彫刻の免震台座への設置と，耐震強度の高い絵画展示用ワイヤーの使用により，展示室内の地震対策を継続している。

エ　国立国際美術館

地震に伴う火災発生，津波発生時の適切な避難誘導，初期消火にあたるため，職員，警備員，看視員等による全館避難訓練を近隣の大阪市立科学館と共同で実施した。

（3）所蔵作品の修理・修復

①　東京国立近代美術館

絵画22件，版画2件，彫刻1件，工芸25件，デザイン10件，資料その他1件，映画フィルムデジタル復元10本，ノイズリダクション等59本，不燃化作業33本

（本館）

使用頻度の高い作品のうち，全面にしみが発生していた菊池芳文《小雨降る吉野》や，裏打ち紙が固く強い折れが発生していた跡見玉枝《桜花図巻》など，大規模な解体修理を行った。また主として表具の仕立て直しによって，鏑木清方《晩涼》や小茂田青樹《松江風景》などの保存状態を改善した。重要文化財の新海竹太郎の《ゆあみ》の台座については，修復家，文化庁と相談のうえ，劣化をこれ以上進行させない最低限の修復を施し，石膏原型とオリジナルの台座をあわせた特集展示「石膏原型のオリジナリティー」を実現した。加えて小倉遊亀，東山魁夷，杉山寧など20点を越える日本画額作品のアクリルを低反射アクリルに交換し，鑑賞環境の飛躍的な向上を実現した。

（工芸館）

継続して行ってきている漆芸で松田権六や田口善国らの汚れやすり傷，漆劣化の養生等の保存修復と，染織の志村ふくみや木村雨山，森口華弘らのシミやカビの除去と変色等の保存修復を実施した。また，懸案であった金工の内藤四郎や増田三男の錆びや変色等，杉浦非水のポスターや富本憲吉の書額面作品のシミやカビ，虫食い等の保存修復を行った。

（フィルムセンター）

伊藤大輔監督の代表作『長恨』（1927 年），『忠次旅日記』（1929 年）のデジタル復元において，最適なスキャニング素材を得るためのテストを行うとともに，元素材に施された染色をできるかぎり忠実に復元するために，修復後のデータを白黒フィルムにレコーディングし，再染色を試みた。

チネテカ・デル・フリウリ（イタリア・ＦＩＡＦ加盟機関）との共催による「ポルデノーネ無声映画祭 2010　松竹の三巨匠―島津保次郎，清水宏，牛原虚彦」において，提供した 14 本中，13 本について新たに英語字幕付の 35 ㎜プリントを作成するとともに，『麗人』（島津保次郎監督，1930 年）など必要に応じて，16 ㎜からのブローアップやネガの作成等を行った。

鈴木志郎康監督の『草の影を刈る』（1976 年）と『15 日間』（1980 年）について，16 ㎜反転プリントと磁気トラックから，35　㎜へのブローアップによる画ネガ，デジタル処理による音ネガ及び上映用プリントの作成を行った。

白井更生『ヒロシマ 1966』（1966 年）について，所蔵する 35 ㎜プリントと 16 ㎜プリントから，画郭調整，画調調整等を綿密に行ったうえで，最長版ネガとプリントの作成を行った。

また，映画関連資料については，以下の作業を行った。

・劣化・損傷が著しい単行本・雑誌 205 冊について，修復作業を行った。
・酸性紙の酸化が著しい雑誌 255 冊について脱酸化作業を行った。
・修復が必要と認められるソビエト映画ポスターのうち 4 点について，紙修復の専門家による修復作業を行った。

② 京都国立近代美術館

絵画 7 件，水彩 5 件

藤田嗣治《タピスリーの裸婦》への低反射ガラスの装着を行うとともに，これまでに収蔵してきた水彩画作品の一部の額装および，寄贈を受けた須田国太郎洋画作品の修復・額装の見積り，優先順位の検討を行った。

また，「『日本画』の前衛」展に出品の船田玉樹の新収蔵作品についても，屏風装をあらためるとともに，次年度開催予定の「川西英旧蔵コレクション展」に含まれる竹久夢二の肉筆画４点についても，画面洗浄をし，表具装を新調した。

③ 国立西洋美術館

絵画 22 件，版画 83 件

2011 年にアメリカで開催される「ピサロ展」への貸出が予定されているピサロ《収穫》の修復を行い，あわせて同作品の技法に関する科学調査を実施した。また，当館の常設展・小企画展および国立美術館５館共同展への出品と，公私立美術館からの貸出依頼に対応して，修復処置や額縁の製作を行った。

また，ポール・ゲッティ研究所での材料分析の共同調査を行った。

④ 国立国際美術館

絵画 2 件，版画 16 件，デザイン 7 件

本年度は，外部の絵画に関する修復家と連携し，当館所蔵作品のコンディションチェックを行い，修復の緊急性が高いと判断した「ヴォルス《構成》1947 年」について，作品裏面清掃，作

品側面に付着したコルクの除去，剥落止め，カンバスの補修，欠損部の充填・整形，補彩を行うとともに，「中原浩大《海の絵》1987 年」の剥落止めなどの修復を行った。

（４）美術作品の保管・修理等に関する調査研究

各館における調査研究の実施状況は，以下のとおりである。

ア　東京国立近代美術館

（本館）

（ア）所蔵作品に関する調査研究

本年度修復を行った山元春挙《塩原の奥》，川合玉堂《彩雨》について，解体修理の過程で技法や当初の表装に関する新知見が明らかになった。油彩では靉光《眼のある風景》につき，東京文化財研究所と赤外線写真撮影による調査を行い，描き直しの痕跡など制作のプロセスを示す新発見を得た。同様に岡田三郎助《婦人半身像》でも，これまで不明であった特殊な技法が修理によって明らかになった。これらの知見は今後作品解説や特集展示のなかで生かされる予定である。

（イ）保管・修理に関する調査研究

藤田嗣治《五人の裸婦》について，過去の修復箇所を特定すると同時に，今後の修復方針を検討すべく東京芸術大学と協力して詳細な調査を行った。また，岸田劉生資料のうち，経年劣化が著しい書籍数冊に関して，修復家とともに修理・保存方法の研究を行った。次年度以降具体的な修理作業を開始する予定である。

（ウ）所蔵作品や関連する館外の美術品及び保管・修理に関する調査研究成果の美術館活動への反映

平成 21 年度修復の長谷川利行《カフェ・パウリスタ》に関して，修復家の協力のもと，修復研究所 21 にエックス線撮影及び資料調査を依頼した。修復のプロセスと，この分析によって明らかになった利行の描法について，所蔵作品展「近代日本の美術」内の特集展示「長谷川利行」，および館ニュース『現代の眼』，『東京国立近代美術館　研究紀要』第 15 号において，詳細な報告を行った。

（工芸館）

（ア）所蔵作品に関する調査研究

工芸館所蔵作品巡回展を香川県ミュージアムと愛媛県立美術館で，東京・銀座和光ホールにて名品展を開催するため，作品の状態等の調査を実施した。。

（イ）保管・修理に関する調査研究

松田権六，田口善国の漆芸作品や木村雨山，志村ふくみの染織作品，杉浦非水のグラフィックデザイン作品など展示等活用頻度の高い作品と，平成 22 年度に寄贈を受け 23 年度に企画展が予定された増田三男の金工作品等の現状保存修復が実施した。各々の専門的な修復者と修復について調査・検討を行い，計画的な修復と大きな成果があった。

（ウ）所蔵作品や関連する館外の美術品及び保管・修理に関する調査研究成果の美術館活動への反映

巡回展「東京国立近代美術館工芸館名品展―輝くわざと美―」を香川県ミュージアム及び愛媛県立美術館で開催し，また東京・銀座和光ホールと連携した所蔵作品による「工芸館名品展―四季の花を愛でる―」を実施し，近代工芸への普及と当館事業への理解が得られた。

（フィルムセンター）

（ア）所蔵作品に関する調査研究

・アメリカからの返還映画を主にした戦前日本ニュース映画の詳細な内容調査を継続した。

・映画保存のための特別事業費により前年度収集したフィルムについて，データの採取，静止画像の取り込み，データベースへの登録を行うなかで，文献資料等による調査を行った。
・平成 5 年度に寄贈を受け入れた，戦後アメリカ，イギリスで製作された教材映画である外国文化・記録映画 1,579 本について，全巻の遡及調査を行うとともに，データベースへの登録を行った。
・昭和期戦後の日本文学と日本映画の関係に関する調査研究
・新たに発掘，復元された映画とその作者，技術フォーマットや時代背景に関する調査研究
・フィルムセンターの歩みとコレクションの歴史に関する調査研究
・吉田喜重監督に関する調査研究
・映画監督黒澤明に関する調査研究
・現代フランス映画に関する調査研究
・アニメーション作家大藤信郎に関する調査研究
・映画保存のための特別事業費により購入した新収蔵作品とその作者や時代背景に関する調査研究
・新しい常設展「NFC コレクションでみる 日本映画の歴史」のオープンを前提とした，未整理分を含めた日本映画史関連資料の調査研究
・過去にフィルムセンターで実施した展覧会に関する調査
・写し絵資料に関する調査研究

（イ）保管・修理に関する調査研究

＜映画フィルムの保管に関する調査研究＞
・所蔵フィルムの運用前後における検査やクリーニングに関する研究
・フィルム検査において必要な画像取り込みシステムに関する研究
・小型映画フィルムの検査に関する研究
・フィルム保存庫の設備，保管環境，運用等に関する研究

＜映画フィルムの修理に関する調査研究＞
・デジタル復元における最適な複製元素材の作成に関する研究
・三色分解素材からのデジタル復元に関する研究
・再染色作業に関する研究
・フォーマットや画郭の異なる素材からの復元に関する研究

＜映画関連資料に関する調査研究＞

長期的な視野に立って，酸性紙を用いた図書の脱酸化や劣化したポスターの修復など，紙資料の保存法に関する調査研究を行った。また，2008 年度に開始されたプレス資料のリスト化を進めたほか，映画パンフレットや映画関連カレンダーといった，過去に寄贈されながらも未整理であった分野の資料のリスト化に取り組んだ。とりわけパンフレットについてはデータベース登録作業を開始するに至っている。アニメーション作家の大藤信郎など映画人の個人資料のカタロギングも終了し，俳優志村喬の旧蔵資料など，正式な寄贈手続を終えたものもある。

（ウ）所蔵作品や関連する館外の美術品及び保管・修理に関する調査研究成果の美術館活動への反映

＜映画フィルムの保管における反映＞
・フィルム検査の体制について，京橋，相模原分館との間における役割分担を明確にし，検査工程の整理をすることに反映された。
・16 ㎜フィルム用の KEM 社製編集台への画像取り込みシステムの付設に反映された。

・寄贈受入予定の小型映画フィルムの検査に反映された。
・相模原分館の映画フィルム保存庫における保管環境，設備，導線等の検証に反映された。

＜映画フィルムの修理における反映＞

・『長恨』（1927 年），『忠次旅日記』（1929 年）のデジタル復元，『さらば青春』（1919 年）の復元テストに反映された。
・『地獄門』（1953 年）のデジタル復元に反映された。
・『長恨』（1927 年），『忠次旅日記』（1929 年）の復元された白黒ポジフィルムの再染色作業に反映された。
・『ヒロシマ 1966』（1966 年）の最長版作成に反映された。

イ　京都国立近代美術館

（ア）所蔵作品に関する調査研究

「『日本画』の前衛　1938-1949」展では，出品作 87 点のうち 20 点が所蔵作品であったが，これはここ 10 年間に収蔵してきた作品の収集成果の発表の場であるとともに，これまで近代美術史上においても，まったく触れられてこなかった動向を紹介するものであり，調査研究の成果を広く公開する意味においても，意義深いものであった。

さらに，これまで収集をすすめてきた「川西英旧蔵コレクション」に含まれた一部の作品（竹久夢二の肉筆画 4 点）について，次年度展覧会として紹介するに際し，画面洗浄を行うとともに，表具装も新調し，公開に備える体勢を整えた。

（イ）所蔵作品や関連する館外の美術品及び保管・修理に関する調査研究成果の美術館活動への反映

平成 23 年度に開催する川西英旧蔵コレクション展に向け，あらためて作品調査と写真撮影を行った。さらには，展覧会の開催に向け，コレクションカタログの作成に着手した。

ウ　国立西洋美術館

（ア）所蔵作品に関する調査研究

・旧松方コレクションを含む松方コレクション全体に関する調査研究を実施した。
・中世末期から 20 世紀初頭の西洋美術に関する調査研究を実施した。
・所蔵版画作品に関する調査研究を実施した。
・ル・コルビュジエによる国立西洋美術館本館の設計に関する調査研究を実施した。
・デューラー版画に関する調査研究を実施した。
・レンブラント版画および和紙に関する調査研究を実施した。
・ピサロ《収穫》の材料および技法に関する調査研究を実施した。
・「国立西洋美術館所蔵作品データベース」に関する研究を実施した。

（イ）保存・修復に関する調査研究

所蔵作品の絵画技法調査の参考とするため，古典的な色彩のサンプルを古典絵画技法に従って作成した。

LED 照明導入に向けた調査のための色彩見本及びチャートを作成し，色温度の違いによる発色効果を検証した。

修復処置過程での紫外線，赤外線等の調査を実施し，絵画作品の状態及び制作過程を検証する調査を実施した。作品によっては周辺部の絵具層を分析し，その材質を明らかにした。

（ウ）所蔵作品や関連する館外の美術品及び保存・修復に関する調査研究成果の美術館活動への反映

・イタリア，ルネサンス・バロック美術調査研究は，平成 22 年度開催の「ナポリ・宮廷と美―カポディモンテ美術館展　ルネサンスからバロックまで」とそのカタログに反映された。

・アルブレヒト・デューラーの版画調査研究は，平成 22 年度開催の「アルブレヒト・デューラー版画・素描展　宗教／肖像／自然」点を実施し，その成果はカタログに反映された。

・レンブラントの和紙版画に関する調査研究は，平成 23 年度開催予定の「レンブラント：光の探求／闇の誘惑」展とそのカタログに反映される。

エ　国立国際美術館

（ア）所蔵作品に関する調査研究

所蔵作品のうち，マルセル・デュシャン，塩見允枝子，横尾忠則，館勝生，エルヴィン・ヴルム，早川良雄，イサム・ノグチの作品を取り上げて調査研究を行い，館広報物（国立国際美術館ニュース）において作品説明を行った。

（イ）保管・修理に関する調査研究

絵画修復の専門家と共同で，ピカソやセザンヌ，カンディンスキー，エルンスト，佐伯祐三,国吉康雄など,当館が所蔵する名作絵画のコンディションチェックを行い，今後の処置について検討を行った。

（ウ）所蔵作品や関連する館外の美術品及び保管・修理に関する調査研究成果の美術館活動への反映

長年，収集をしてきた横尾忠則の全ポスター作品をまとめて展示する機会を得たとともに，出版社と共同で，大部の出版物を刊行することができた。

また，コレクション４の特集展示で，当館と関わりの深いデザイナーである早川良雄のポスター作品を一堂に展示することにより，早川良雄のデザイン世界を検証することができた。なお，早川良雄のポスターを展示するにあたり，紙に関する専門家と共同で，当館所蔵の早川良雄のポスターについてのコンディションチェックを行い，破れなど修復した方がよいものを調査した。

３　我が国における美術館のナショナルセンターとして美術館活動全体の活性化に寄与

（１）所蔵作品等に関する調査研究成果の発信

①　研究紀要，学術雑誌，展覧会刊行物，学会等での発信

ア　館の刊行物による研究成果の発信

各館において，展覧会図録（計 36 冊），研究紀要（計 3 冊），館ニュース（計 6 種，36 冊発行）等の刊行物により，研究成果を発信した。

館　　名		展覧会図録	研究紀要	館ニュース	所蔵品目録	パンフレット・ガイド等	その他
東京国立近代美術館	本館	5	1	6	0	3	4
	工芸館	4			0	2	0
	ﾌｨﾙﾑｾﾝﾀｰ	0		6	0	1	0
京都国立近代美術館		8	1	6	1	0	1
国立西洋美術館		3	1	4	0	3	2
国立国際美術館		7	0	10	0	7	1
国立新美術館		9	0	4	-	2	1
計		36	3	36	1	18	9

注１　京都国立近代美術館の展覧会図録には「マイ・フェイバリット」展，巡回展を含み，所蔵品目録には「マイ・フェイバリット」展の図録を「所蔵作品目録Ⅷ」として刊行した。

注2　「パンフレット・ガイド等」には，小企画展の内容や所蔵作品の解説を掲載したパンフレット，子ども向けの鑑賞ガイド等が含まれる。

注3　「その他」には，「東京国立近代美術館のスクール・プログラム」「岡本太郎展こどもセルフガイド」「MOMAT コレクションこどもセルフガイド」，「平成20-21年度 独立行政法人国立美術館 東京国立近代美術館活動報告」（東京国立近代美術館），「京都国立近代美術館 活動報告 MoMAK Report 2009」（京都国立近代美術館），「国立西洋美術館報 No.44」「平成22年 独立行政法人国立美術館 国立西洋美術館概要」（国立西洋美術館），「平成21年度 国立新美術館活動報告」（国立新美術館），「平成21年度 国立国際美術館活動報告」（国立国際美術館）が含まれる。

イ　館外の学術雑誌，学会等における調査研究成果の発信

（ア）東京国立近代美術館

［学会等発表］（本館・工芸館）

タイトル	学会等名	発表者職名・氏名	日付	場所	聴講者数
ルーブル美術館における教育普及体制とクラス・ルーブル	第49回大学美術教育学会	主任研究員・一條彰子	平成22年9月19日	武蔵野美術大学	約80名
国立美術館のとりくみ―5年間の鑑賞教育研修を振り返って	平成22年度美術館等運営研究協議会	主任研究員・一條彰子	平成23年2月1日	学術総合センター	140名
パネリスト「CCA キュレーター・ミーティング 2010」	CCA 北九州	研究員・保坂健二朗	平成22年10月1日～3日	現代美術センターCCA 北九州	20名
日本のアール・ブリュットについて	Halle St Pierre, Paris	研究員・保坂健二朗	平成22年10月17日	Halle St Pierre, Paris	60名
シンポジウム｜なにかいってくれ いま さがす―半影のモンタージュ	港区アート・アーカイヴ＝地域芸術資源採掘プロジェクト MARM	研究員・三輪健仁	平成23年1月30日	慶應義塾大学三田キャンパス	100名
美術ワーキンググループヒアリング（アーカイブ関係）	文化審議会第8期文化政策部会美術ワーキンググループ第3回	主任研究員・水谷長志	平成22年5月7日	文化庁	20名
極私的アート・アーカイヴ小史	アート・ドキュメンテーション学会	主任研究員・水谷長志	平成22年6月13日	慶應義塾大学	120名

総論　美術情報・資料の活用法―提供と利用のはざまにおいて」 「第Ⅲ講　今日の図書館から俯瞰する美術館の資料活動」 「第Ⅳ講　電子的リソース(二次資料)」	全国美術館会議	主任研究員・水谷長志	平成 22 年 9 月 9-10 日)	愛知芸術文化センター・アートスペース EF	20 名
AAML は (manuscript + ephemera) archives : Today's Ephemera , Tomorrow's Historical Documentation	アート・ドキュメンテーション学会ほか	主任研究員・水谷長志	平成 22 年 10 月 9 日	東京国立近代美術館講堂	100 名
ARLIS at 40－美術図書館協会(ARLIS)の活動の足跡とその出版物	アート・ドキュメンテーション学会	主任研究員・水谷長志	平成 22 年 11 月 14 日	同志社大学寒梅館	80 名
John D. Rockefeller III's Travels in Japan in the 1950s: Japanese Crafts and USA 'Soft Power' in the Cold War Era	7th Conference of the International Committee of Design History and Design Studies	主任研究員・木田拓也	平成 22 年 9 月 21 日	ベルギー王立アカデミー	30 名

［学会等発表］（フィルムセンター）

タイトル	学会等名	発表者職名・氏名	日付	場所	聴講者数
Access to Archives - Seminar	国際フィルム・アーカイブ連盟(ＦＩＡＦ)	主幹・岡島尚志	平成 22 年 5 月 5 日	ノルウェー映画協会タンクレッド・シアター	50 名
アナログとデジタル―映像環境はどこへ向うのか―「映画保存の視点から」	日本映像学会	主幹・岡島尚志	平成 22 年 5 月 29 日	日本大学芸術学部江古田校舎・大講堂	１00 名
An Idea to Build the Legal Backbone for Film Preservation: The Two Japanese Films Registered as National Treasures	東南アジア太平洋地域視聴覚アーカイブ協会（SEAPAVAA）年次会議	主幹・岡島尚志	平成 22 年 8 月 3 日	バンコク・アート＆カルチャー・センター（BACC）	50 名
"メディア芸術センター"としてのコミュニティシネマの可能性	全国コミュニティシネマ会議 2010 イン山口	主幹・岡島尚志	平成 22 年 9 月 10 日	山口情報芸術センター（YCAM）大ホール	100 名
What Film Archives Must Need Now: FIAF , NFC Japan, Digital Impact and Others	ベトナム映画協会講演会	主幹・岡島尚志	平成 22 年 10 月 8 日	ベトナム映画協会（VFI）	100 名
日本の映画遺産を守るために ―その現状と問題提起―	映団連セミナー	主幹・岡島尚志	平成 22 年 10 月 24 日	シネマート六本木　スクリーン 4	120 名
Don't Throw Film Away - Considering the Bottom Line of Film Preservation in Digital Age	東京フィルメックス"ネクスト・マスターズ"	主幹・岡島尚志	平成 22 年 11 月 26 日	有楽町朝日スクエア (有楽町マリオン)	20 名
袋一平とソビエト映画	工学院大学・朝日カレッジ	主任研究員・岡田秀則	平成 22 年 5 月 15 日	工学院大学	10 名
エクスペディション映画の世紀	国立民族学博物館	主任研究員・岡田秀則	平成 22 年 6 月 5 日	国立民族学博物館	150 名

松竹の三巨匠	ポルデノーネ無声映画祭	主任研究員・栩木章(発表者名:とちぎあきら),主任研究員・岡田秀則	平成22年10月3日	ポルデノーネ無声映画祭	40名
映像のアーカイビング	東京大学総合研究博物館	主任研究員・岡田秀則	平成22年11月8日	東京大学総合研究博物館	12名
演劇博物館所蔵映画フィルムの調査・目録整備と保存活用	早稲田大学演劇博物館演劇映像学連携研究拠点での成果報告	主任研究員・入江良郎	平成23年3月5日	早稲田大学早稲田キャンパス6号館3階レクチャールーム	35名
The Digital Restoration of Akira Kurosawa's Rashomon (1950)/The Given Conditions of Film Archiving in Japan	香港電影資料館による映画復元のシンポジウム	主任研究員・栩木章(発表者名:とちぎあきら)	平成23年4月3日	香港電影資料館劇場	40名
About Early Japanese Animation	韓国映像資料院	主任研究員・栩木章(発表者名:とちぎあきら)	平成23年6月5日	韓国映像資料院劇場	50名
名画座フォーラム―日本映画クラシック作品の上映環境を考える	全国コミュニティシネマ会議2010イン山口	主任研究員・栩木章(発表者名:とちぎあきら)	平成23年9月11日	山口情報芸術センター・スタジオA	100名
日本の最初期トーキー映画のアーカイビング	第24回近代の文化遺産の保存修復に関する研究会「映像・音声記録媒体の保存と利用について」	主任研究員・栩木章(発表者名:とちぎあきら)	平成23年1月14日	独立行政法人国立文化財機構　東京文化財研究所　地下セミナー室	40名
研究員が語る　甦れ名作！デジタルシネマ	平成22年度講座「知りたい！シネマを支える人々」	主任研究員・栩木章(発表者名:とちぎあきら)	平成23年2月19日	江東区古石場文化センター	50名
仙台発！車座で語ろう「メディア芸術」ってよくわからないぞ	第5回メディア芸術オープントーク	主任研究員・栩木章(発表者名:とちぎあきら)	平成23年2月26日	せんだいメディアテークスタジオシアター	40名
カラーフィルムのデジタル復元と三色分解による長期保存の可能性――映画『銀輪』(松本俊夫監督 1955年)の場合	2010年度　(社)日本写真学会年次大会	研究員・板倉史明	平成22年5月27日	キャンパス・イノベーションセンター東京	40名
日本無声映画期における染色・調色の歴史と復元	日本映像学会第36回全国大会	研究員・板倉史明	平成22年5月30日	日本大学芸術学部	50名
映画フィルムの重要文化財指定に付いて	第5回映画の復元と保存に関するワークショップ	研究員・板倉史明	平成22年8月29日	京都府京都文化博物館	80名
座談会「海外最新事情――関連諸団体の動向について」	第5回映画の復元と保存に関するワークショップ	研究員・板倉史明	平成22年8月29日	京都府京都文化博物館	80名
映画フィルム復元の方法論と,デジタル復元における三色分解を用いた映像の長期保存―― 映画『銀輪』(松本俊夫／1955年)の場合	平成22年度 画像保存セミナー	主任研究員・板倉史明,三浦和己(株式会社IMAGICA)	平成22年11月5日	東京都写真美術館	150名

［雑誌等論文掲載］（本館・工芸館）

タイトル	執筆者職名・氏名	掲載誌名（発行者）	発行年月日
森口多里の生涯と仕事	主任研究員・ 大谷省吾	『美術批評家著作選集　第４巻　森口多里』（ゆまに書房）	平成 22 年 6 月
安井曾太郎／高松次郎　『影』を見つめてデッサンをきわめる　絵画を支える『影』の存在	主任研究員・ 大谷省吾	『美術の窓』324 号（生活の友社）	平成 22 年 9 月
人と自然をつなぐもの―奥谷博の近作をめぐって	主任研究員・ 大谷省吾	『奥谷博自選展』カタログ（池田 20 世紀美術館）	平成 22 年 10 月
実験工房―メディアの交差点	主任研究員・ 大谷省吾	『ドキュメント実験工房』（東京パブリッシングハウス）	平成 22 年 11 月
外山卯三郎の生涯と仕事	主任研究員・ 大谷省吾	『美術批評家著作選集　第７巻　外山卯三郎』（ゆまに書房）	平成 23 年 1 月
「シルエットと表現」「須田国太郎と影」「影から読み解く北脇昇」「高松次郎の影－実在と不在をめぐる探究」	主任研究員・ 大谷省吾	『陰影礼讃　国立美術館コレクションによる』展カタログ（国立新美術館）	平成 22 年 9 月
日本近代美術と中村屋サロン―荻原守衛と中村彝の場合―	美術課長・ 蔵屋美香	『新宿中村屋に咲いた文化芸術』展カタログ（新宿歴史博物館）	平成 22 年 2 月
セッション３　絵画のオルタナティヴ	研究員・ 保坂健二朗	『国立国際美術館新築移転５周年記念シンポジウム　絵画の時代―ゼロ年代の地平から　記録集』（国立国際美術館）	平成 22 年 12 月
モダニズムの影，始原の影	主任研究員・ 増田玲	『陰影礼讃』展カタログ（国立新美術館）	平成 22 年 9 月
文脈をとらえ直す―1960 年代末から 1970 年代初頭の美術と写真について	主任研究員・ 増田玲	『Seeing―6 人の作家による写真表現』展カタログ（富士ゼロックスアートスペース）	平成 22 年 11 月
原口典之－物質と非物質	副館長・ 松本透	『美術フォーラム 21』 第 23 号（醍醐書房）	平成 22 年 11 月 30 日
『MLA 連携の現状・課題・将来』	主任研究員・ 水谷長志	（勉誠出版）	平成 22 年 6 月
〈動向〉専門図書館におけるアーカイブズ学の流入と展開－専門図書館協議会での言説を中心に	主任研究員・ 水谷長志	『アーカイブズ学研究』13 号 （日本アーカイブズ学会）	平成 22 年 11 月
「artlibraries.net と「美術書誌の未来(FAB: the Future of Art Bibliography)」会議（2010.10.28-30, Gulbenkian, Lisbon）参加報告」	主任研究員・ 水谷長志	『アート・ドキュメンテーション通信』88 号 （アート・ドキュメンテーション学会）	平成 23 年 1 月
鑑　文化芸術へのいざない　国立美術館の情報発信―館(やかた)の壁を越えて，ＭＬＡが連携するために	主任研究員・ 水谷長志	『文化庁月報』 （文化庁）	平成 23 年 2 月
国立美術館の情報発信－近年の展開と発信	主任研究員・ 水谷長志	『全国美術館会議　学芸員研修会報告書』 （全国美術館会議）	平成 23 年 3 月
自身を織り込む―中島晴美の陶造形―	工芸課長・ 唐澤昌宏	陶説	平成 22 年 7 月 1 日
工芸のイメージとこれからの工芸	工芸課長・ 唐澤昌宏	日展ニュース	平成 22 年 9 月 2 日

人形をめぐる幾つかの視点	工芸課主任研究員・今井陽子	美学美術史論集（成城大学文学研究科）	平成 22 年 3 月 28 日

［雑誌等論文掲載］（フィルムセンター）

パウロ・ローシャ　異郷と故郷の間で立ちつくす映画詩人	主幹・岡島尚志	『ポルトガル映画祭 2010』（コミュニティシネマセンター）	平成 22 年 9 月 17 日
映画文化財の長期保存――問題点の整理とフィルム・アーカイブの役割	主幹・岡島尚志	『書物の映像と未来－グーグル化する世界の知の課題とは－』（岩波書店）	平成 22 年 11 月 2 日
Film Archives in the Digital Age: Impact, Shift, and Dilemma	主幹・岡島尚志	『香港電影資料館十周年紀念』（香港電」影資料館）	平成 23 年 1 月 1 日
今日もノンフィルム日和	主任研究員・岡田秀則	『映画天国』2010 年 5―6 月号(韓国映像資料院)	平成 22 年 4 月 26 日
彩られた冒険－小津安二郎と木下恵介の色彩実験をめぐって	主任研究員・岡田秀則	『日本映画は生きている 第 2 巻 映画史を読み直す』(岩波書店)	平成 22 年 8 月 27 日
もう一つの戦後ロマン 産業PR映画	主任研究員・岡田秀則	『東京人』2010 年 11 月号(都市出版)	平成 22 年 11 月 3 日
ライブラリー・日本人のフランス体験 第 15 巻 映画のなかのパリ	主任研究員・岡田秀則	ライブラリー・日本人のフランス体験 第 15 巻 映画のなかのパリ(柏書房)	平成 22 年 12 月 10 日
Approaching Imamura Taihei and the Originality of His Film Theory	主任研究員・入江良郎	『城西大学国際学術文化振興センター紀要』Vol. XXII	平成 22 年 12 月
死の記録としての活動写真	主任研究員・栩木章（筆名:とちぎあきら)	『日本のドキュメンタリー3　生活・文化編』(岩波書店)	平成 22 年 6 月 10 日
人智の礎としてのアーカイブ―映画フィルムのアーカイビングという仕事―	主任研究員・栩木章（筆名:とちぎあきら)	『情報の技術と科学』Vol.60, No.11(社団法人情報科学技術協会)	平成 22 年 11 月 1 日
8つの質問	主任研究員・栩木章（筆名:とちぎあきら)	『フィルムメーカーズ―個人映画の作り方』(アーツアンドクラフツ社)	平成 23 年 3 月
映画館における観客の作法――歴史的な受容研究のための序論	研究員・板倉史明	『日本映画は生きている 第一巻』(岩波書店)	平成 22 年 7 月 29 日
「関連年表」「参考文献」	主任研究員・板倉史明	『ライブラリー・日本人のフランス体験 第 15 巻 映画のなかのパリ』(柏書房)	平成 22 年 12 月 10 日
デジタル復元における三色分解を用いた映像の長期保存――映画『銀輪』の場合	主任研究員・板倉史明，三浦和己(株式会社 IMAGICA)	『日本写真学会誌』第 74 巻第 1 号	平成 23 年 2 月 25 日
東京国立近代美術館フィルムセンター	研究員・赤﨑陽子	『日本近代文学館』第 235 号	平成 22 年 5 月 15 日
名画の指定席『砂の女』	研究員・赤﨑陽子	『東商新聞』	平成 22 年 4 月 20 日
名画の指定席『リトアニアへの旅の追憶』	研究員・赤﨑陽子	『東商新聞』	平成 22 年 5 月 20 日
名画の指定席『燈台守』	研究員・赤﨑陽子	『東商新聞』	平成 22 年 6 月 20 日
名画の指定席『アメリカの影』	研究員・赤﨑陽子	『東商新聞』	平成 22 年 7 月 20 日
名画の指定席『馬具田城の盗賊』	研究員・赤﨑陽子	『東商新聞』	平成 22 年 8 月 20 日
名画の指定席『七人の侍』	研究員・赤﨑陽子	『東商新聞』	平成 22 年 9 月 30 日

（イ） 京都国立近代美術館

［学会等発表］

タイトル	学会等名	発表者職名・氏名	日付	場所	聴講者数
関西の近代美術事情　京都	明治美術学会	学芸課長・山野英嗣	7月24日	京都国立近代美術館	50名

［雑誌等論文掲載］

タイトル	執筆者職名・氏名	掲載誌名（発行者）	発行年月日
＜建築＞が＜現代美術＞になるとき	主任研究員・池田祐子	DOCOMOMO Japan News Letter (DOCOMOMO Japan)	No.11　2010年春号
「デザイン」前夜―第一次世界大戦前後のドイツにおけるKunstgewerbe―	主任研究員・池田祐子	「デザインの力」永井隆則編著（晃洋書房）	2010年11月

（ウ）国立西洋美術館

［学会等発表］

タイトル	学会等名	発表者職名・氏名	日付	場所	聴講者数
フランク・ブラングィン，美術館のデザインと壁面装飾	ジャポニスム学会シンポジウム「ブラングィンとその時代　ジャポニスムの視点から」	主任研究員・大屋　美那	平成22年4月24日（土）	国立西洋美術館講堂	80名
ミュージアムとプライベート・セクターのポリティクス：ジョージ・ワシントン像を事例に	全日本博物館学会第36回研究大会	研究員・横山　佐紀	平成22年6月13日（日）	明治大学	123名
ネガティブな自己の像	美術史学会東支部大会シンポジウム「自画像を考え，自画像から語る」パネラー報告	学芸課長・村上　博哉	平成22年10月23日	損保ジャパン本社ビル大会議室	85名
ミロ研究　近年の動向	スペイン・ラテンアメリカ美術史研究会	学芸課長・村上　博哉	平成23年1月8日	慶應義塾大学日吉キャンパス	30名
書物芸術としてのデューラーの『聖母伝』－その物語構造と修道院人文主義の影響をめぐって―	美術史学会東支部例会	学芸課研究員新藤　淳	平成23年3月26日	東京大学本郷キャンパス	約50名

［雑誌等論文掲載］

タイトル	執筆者職名・氏名	掲載誌名（発行者）	発行年月日
フランク・ブラングィン，美術館のデザインと壁面装飾	主任研究員・大屋美那	『ジャポニスム研究』（ジャポニスム学会）	平成22年12月3日
19 世紀フランスの複製版画 ： 紙の手ざわり	主任研究員・陳岡めぐみ	『青淵』第742号(渋沢栄一記念財団)	平成23年1月
歴史ミュージアムとプライベート・セクターのポリティクス―ジョージ・ワシントン像《ランズダウン》収蔵の経緯から	主任研究員・横山佐紀	『アメリカ学会』（アメリカ学会）	平成23年3月25日
美術館図書室と一過性資料：国立西洋美術館研究資料センターのアーティスト・ファイル公開について	主任研究員・川口雅子	『アート・ドキュメンテーション通信』（アート・ドキュメンテーション学会）	平成22年（85号）
件名付与の新たな試み：カタログ・レゾネと美術館図書室	主任研究員・川口雅子	『アート・ドキュメンテーション通信』（アート・ドキュメンテーション学会）	平成22年（87号）

（エ）国立国際美術館

［学会等発表］

タイトル	学会等名	発表者職名･氏名	日付	場所	聴講者数
感性と鑑賞	こども環境学会	研究員・藤吉祐子	平成 22 年 4 月 25 日	広島	―
あいちトリエンナーレ 2010 を取り繕う	あいちトリエンナーレ勉強会	主任研究員・中井康之	平成 23 年 3 月 22 日	名古屋	30 名
キュレーターになったきっかけと美術との出会い	キュレーターミーティング	主任研究員・植松由佳	平成 22 年 10 月 1 日 ～ 10 月 3 日	北九州	20 名

［雑誌等論文掲載］

タイトル	執筆者職名・氏名	掲載誌名（発行者）	発行年月日
制作することの大義について	主任研究員・中井康之	「美術の地上戦」展図録（OVER TONE Ⅱ 実行委員会）	平成 22 年 12 月 7 日

（オ）国立新美術館

［学会等発表］

タイトル	学会等名	発表者職名・氏名	日付	場所	聴講者数
総合芸術への志向と 20 世紀美術－ナビ派からカンディンスキーへ―	国立新美術館、日仏美術学会、日本経済新聞社シンポジウム「ポスト印象派とその時代―1880～90 年代のフランス絵画―」	主任研究員・長屋光枝	平成 22 年 7 月 24 日	国立新美術館	―
作品情報のアクセスと発信	全国美術館会議情報・資料研究部会企画　セミナーⅡ　美術情報・資料の活用	主任研究員・室屋泰三	平成 22 年 9 月 10 日	愛知県美術館	―
具体美術協会の活動とその意義	日仏美術学会国際シンポジウム「戦後抽象美術における国際交流」	主任研究員・平井章一	平成 22 年 11 月 21 日	日仏会館	―
私の経験から―美術館での研究，キュレーションとオーラルヒストリー	日本オーラル・ヒストリー・アーカイヴ第 2 回シンポジウム「オーラル・アート・ヒストリーの実践」	主任研究員・平井章一	平成 22 年 11 月 27 日	東京藝術大学	―
戦後日本の現代美術　その国際性をめぐって	米国学芸員招聘プログラム	学芸課長・南　雄介	平成 23 年 3 月 8 日	国際交流基金	―

［雑誌等論文掲載］

タイトル	執筆者職名・氏名	掲載誌名（発行者）	
作品情報のアクセスと発信	主任研究員・室屋泰三	全国美術館会議情報・資料研究部会企画　セミナーⅡ　美術情報・資料の活用―展覧会カタログから Web まで―（全国美術館会議情報・資料研究部会）	平成 22 年 9 月

「日本創作版画運動」関連年表 1904-1945	特任研究員・三木哲夫	「日本近代の青春　創作版画の名品」展覧会カタログ（和歌山県立近代美術館、宇都宮美術館）	平成22年9月
La rivista “Gutai”	主任研究員・平井　章一	GUTAI: DIPINGERE CON IL TEMPO E LO SPAZIO (Museo Cantonale d’Arte Lugano, Silvana Editoriale)	平成22年10月
恩地孝四郎年譜	特任研究員・三木哲夫	新装普及版　恩地孝四郎　装本の業（三省堂）	平成23年1月
美術館の情報発信―参加する、つながる、共有する、ウェブの新時代	主任研究員・室屋泰三	全国美術館会議平成21年度第25回学芸員研修会報告書　美術館の情報発信―参加する、つながる、共有する、ウェブの新時代―（全国美術館会議情報・資料研究部会）	平成23年3月

ウ　インターネットによる調査研究成果の発信

（ア）東京国立近代美術館

『研究紀要』の収録論文をホームページ上に掲載した。

フィルムセンターでは，主任研究員の講演が修正のうえ「つなぐことはまぜること　『リオ40度』を巡って――ネルソン・ペレイラ・ドス・サントス　講演と上映シリーズ」アテネ・フランセ文化センターウェブページに採録された。

（イ）京都国立近代美術館

コレクション・ギャラリーの展示替えごとに，出品目録および企画する小企画やテーマ展示に関する開催意図を掲載し，情報発信の充実に努めた。さらに，美術館ニュースや研究論集など，刊行物の発行に際して掲載内容を更新した。

（ウ）国立国際美術館

『artscape』（URL：http://www.dnp.co.jp/artscape/）「学芸員レポート」に4回，現代美術及び展覧会に関する研究を紹介するとともに，『ARTiT』（URL：http://www.art-it.asia/top）「展覧会レーティング」に8回レヴュアーとして参加した。

エ　その他

（ア）東京国立近代美術館

（本館・工芸館）

本館では，読売新聞，朝日新聞，日本経済新聞，『美術手帖』『すばる』他に多数の執筆を行った。工芸館では，これまで連載してきた工芸館所蔵作品の解説を一冊にまとめるとともに，研究員が新規に執筆した論文を合わせて『工芸の見かた・感じかた：感動を呼ぶ，近現代の作家と作品』（東京国立近代美術館工芸課編）を淡交社より，刊行した。

（フィルムセンター）

①「第63回国際フィルム・アーカイブ連盟東京会議」の記録集の編集を行った。

②所蔵資料の研究に基づき，新しい常設展「NFCコレクションでみる 日本映画の歴史」にかかわる「ジュニア・セルフガイド」を発行した。

③前年度に実施したアンケートに基づいて「全国映画資料館録」を刊行した。

（イ）国立国際美術館

産経新聞「審美のアングル」にて，1年を通じて毎月1回，展覧会評を執筆するとともに，京都新聞「アート解剖学　現代美術再入門」にて，1年を通じて毎月1回作品評を執筆した。

② 所蔵作品等に関するセミナー・シンポジウムの開催

ア　東京国立近代美術館

（本館・工芸館）

ｾﾐﾅｰ･ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ名	東京都図画工作研究会・美術館連携鑑賞研究研修会	開催日	平成 22 年 9 月 21 日
場所	東京国立近代美術館　講堂，所蔵品ギャラリー	聴講者数	146 人
講師・パネリスト等の氏名（職名）	司会進行：一條彰子（東京国立近代美術館企画課主任研究員），進行補佐：藤田百合（同研究補佐員），ギャラリートーク指導：今井陽子・北村仁美（東京国立近代美術館工芸課主任研究員），斉藤佳代（同研究補佐員），他。講師：秋田喜代美（東京大学大学院教授）		
内容	東京国立近代美術館の所蔵作品について小学校教員にギャラリートークを指導，その後実際に小学生に実施したものをビデオ撮影し，教育学上から分析した。		
ｾﾐﾅｰ･ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ名	東京都中学校美術教育研究会　平成 22 年度美術館研修	開催日	平成 22 年 8 月 23 日
場所	東京国立近代美術館　講堂，所蔵品ギャラリー	聴講者数	42 人
講師・パネリスト等の氏名（職名）	司会進行：一條彰子（東京国立近代美術館企画課主任研究員），進行補佐：藤田百合（同研究補佐員），グループワーク進行：北村仁美（東京国立近代美術館工芸課主任研究員），斉藤佳代（同研究補佐員），講師：寺島洋子（国立西洋美術館主任研究員），他		
内容	鑑賞の実践手法のひとつＶＴＳを使って東京国立近代美術館の所蔵品を鑑賞する研修。		
ｾﾐﾅｰ･ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ名	「建築はどこにあるの？」展連続講演会	開催日	平成 22 年 5 月 29 日，6 月 5 日，12 日，7 月 3 日，17 日，24 日，31 日
場所	東京国立近代美術館講堂	聴講者数	各回約 120 人
講師・パネリスト等の氏名（職名）	菊地宏，中山英之，アトリエ･ワン，伊東豊雄，鈴木了二，中村竜治，内藤廣		
内容	本展に参加した建築家 7 名が，本展のテーマに即して自身の建築観を語る。		
ｾﾐﾅｰ･ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ名	「所蔵作品展　こども工芸館／おとな工芸館　イロ×イロ」工芸鑑賞研修会	開催日	平成 22 年 6 月 12 日
場所	東京国立近代美術館工芸館	聴講者数	18 人
講師・パネリスト等の氏名（職名）	講師：今井陽子（工芸課主任研究員），齊藤佳代（工芸課研究補佐員）		
内容	「所蔵作品展　こども工芸館／おとな工芸館　イロ×イロ」の事前研修として実施，児童・生徒を対象とする工芸鑑賞の可能性について検証した。		
ｾﾐﾅｰ･ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ名	石川支部無形文化財事業「現代工芸への視点」	開催日	平成 22 年 2 月 20 日
場所	金沢市文化ホール	聴講者数	50 人
講師・パネリスト等の氏名（職名）	今井陽子		
内容	当館所蔵作品を中心に，工芸の今日的動向を考察した。		
ｾﾐﾅｰ･ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ名	講演会「日本工芸の現在（いま）」	開催日	平成 22 年 7 月 25 日
場所	香川県立ミュージアム　講堂	聴講者数	70 人
講師・パネリスト等の氏名（職名）	唐澤昌宏		
内容	工芸館巡回展に伴う講演会。当館所蔵作品を中心に日本の工芸の現状と今後の動向について考察した。		
ｾﾐﾅｰ･ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ名	講演会「日展の工芸について」	開催日	平成 22 年 11 月 6 日
場所	国立新美術館　講堂	聴講者数	120 人
講師・パネリスト等の氏名（職名）	唐澤昌宏		
内容	日本の工芸の現状を紹介しつつ，これからの工芸について考察した。		

ｾﾐﾅｰ･ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ名	陶芸館開館記念シンポジウム「陶による造形表現の可能性」	開催日	平成 22 年 10 月 16 日
場所	山口県立萩美術館・浦上記念館　講堂	聴講者数	60 人
講師・パネリスト等の氏名（職名）	基調講演：金子賢治（茨城県陶芸美術館長），発表 1：徳丸鏡子（陶芸家），発表 2：北川宏人（陶芸家），発表 3：唐澤昌宏（東京国立近代美術館工芸課長）		
内容	現代陶芸における造形表現の可能性について，研究者および陶芸家の立場から考察した。		
ｾﾐﾅｰ･ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ名	講演会「辻清明の陶芸とコレクション」	開催日	平成 23 年 1 月 16 日
場所	愛知県陶磁資料館　講堂	聴講者数	85 人
講師・パネリスト等の氏名（職名）	唐澤昌宏		
内容	辻清明の陶芸作品とコレクションを紹介した展覧会に伴う講演会。辻清明のコレクションと自身の作品との関係を紹介しながら，何をヒントに制作に取り組み，そして独自性を見つけていったかを明らかにした。		

（フィルムセンター）

ｾﾐﾅｰ･ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ名	ユネスコ「世界視聴覚文化遺産の日」記念特別イベント「講演と上映　３Ｄ映画の歴史」※詳細は②に記載	開催日	平成 22 年 11 月 6 日(1 日間)
場所	東京国立近代美術館フィルムセンター大ホール	聴講者数	357 人
講師・パネリスト等の氏名（職名）	講師:シュテファン･ドレスラー(ミュンヘン映画博物館ディレクター)		
内容	ユネスコ「世界視聴覚遺産の日」（10 月 27 日）を記念するイベント事業の第 3 回目として，ミュンヘン映画博物館ディレクターのシュテファン・ドレスラー氏を講師に招き，世界映画史に現れた 3D 映画の抜粋映像を，最新のデジタル 3D 技術でスクリーン上に再現しながら，それぞれの技術や背景を解説する講演会を開催した。		

イ　国立西洋美術館

ｾﾐﾅｰ･ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ名	シンポジウム「デューラー受容の 500 年」	開催日	平成 22 年 11 月 13 日
場所	明治学院大学	聴講者数	100 人
講師・パネリスト等の氏名（職名）	パネリスト：大原まゆみ（明治学院大学教授），勝國興（同志社大学名誉教授），秋山聰（東京大学准教授），下村耕史（九州産業大学教授），尾関幸（東京学芸大学准教授），平川佳世（京都大学准教授），田中淳（東京国立文化財研究所企画情報部長），新藤淳（国立西洋美術館研究員），佐藤直樹（東京藝術大学准教授）		
内容	ドイツ語圏美術研究連絡網，明治学院大学，国立西洋美術館により，デューラー受容に関して，16 世紀から 20 世紀までの 500 年にわたり具体的な作例をあげつつ，発表および討議を行った。		
ｾﾐﾅｰ･ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ名	シンポジウム「レンブラント　光の探求／闇の誘惑」	開催日	平成 23 年 3 月 13 日
場所	国立西洋美術館	聴講者数	―
講師・パネリスト等の氏名（職名）	パネリスト:マーティン･ロイヤルトン＝キッシュ(前大英博物館)，エリク･ヒンテルディング(ニュー･ホルシュタイン･レンブラント版画カタログ編纂者)，ボブ･ ファン･デン･ボーヘルト(レンブラントハイス)，尾崎彰宏(東北大学教授)，熊澤弘(国立西洋美術館客員研究員)，幸福輝(国立西洋美術館上席主任研究員)，保井亜弓(金沢美術工芸大学教授)		
内容	＊地震の影響により中止。		

ウ　国立国際美術館

ｾﾐﾅｰ･ｼﾝﾎﾟｼﾞ	荒川修作初期作品をめぐって	開催日	平成 22 年 5 月 29 日

ｳﾑ名			
場所	国立国際美術館地下１階講堂	聴講者数	78 人
講師・パネリスト等の氏名（職名）	馬場駿吉（名古屋ボストン美術館館長），建畠晳（当館館長），司会：平芳幸浩（当館客員研究員）		
内容	馬場駿吉氏と建畠晳前館長による対談の形式をとりつつ，当館所蔵の荒川修作初期作品に関するセミナーを実施した。		

（２）国内外の美術館等との連携

① シンポジウムの開催等による国内外の優れた研究者等との人的ネットワークの構築

ア 東京国立近代美術館

（本館・工芸館）

ｾﾐﾅｰ･ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ名	東洋陶磁学会平成 22 年度第 4 回研究会	開催日	平成 23 年 1 月 30 日
場所	東京国立近代美術館　講堂	聴講者数	約 60 人
講師・パネリスト等の氏名（職名）	五味良子（名古屋市立博物館），花井久穂（茨城県陶芸美術館），栄木正敏（陶磁器デザイナー），前田正博（陶芸家）		

（フィルムセンター）

ｾﾐﾅｰ･ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ名	ユネスコ世界視聴覚文化遺産の日記念特別イベント「講演と上映　３Ｄ映画の歴史」	開催日	平成 22 年 11 月 6 日（1 日間）
場所	東京国立近代美術館フィルムセンター大ホール	聴講者数	357 人
講師・パネリスト等の氏名（職名）	講師:シュテファン･ドレスラー(ミュンヘン映画博物館ディレクター)		

イ 京都国立近代美術館

ｾﾐﾅｰ･ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ名	国際シンポジウム「Creative Engagement/生存のエシックス」Part１：生命・環境・芸術	開催日	平成 22 年 7 月 10 日
場所	京都国立近代美術館　講堂	聴講者数	101 人
講師・パネリスト等の氏名（職名）	森本幸裕（京都大学大学院地球環境学堂教授） デヴィッド・ダン（環境音楽家，アメリカ合衆国） スサーナ･ソアーズ（美術家，イギリス） スティーヴン・カーツ（クリティカル・アート・アンサンブル，メディア・アクティヴィズム，アメリカ合衆国） 京都市立芸術大学「生存のエシックス」プロジェクトチーム（高橋悟，井上明彦，中ハシ克シゲ，松井紫朗，加須屋明子）		
ｾﾐﾅｰ･ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ名	国際シンポジウム「Creative Engagement/生存のエシックス」Part２：宇宙・医療・芸術	開催日	平成 22 年 7 月 31 日
場所	京都国立近代美術館　講堂	聴講者数	100 人
講師・パネリスト等の氏名（職名）	テンプル・グランディン（動物行動学・自閉症，コロラド州立大学教授） 岩城見一（哲学，京都大学名誉教授） ミロスワフ・バウカ（美術家，ポーランド） 十一元三（認知神経科学・児童精神医学，京都大学大学院医学研究科教授） 京都市立芸術大学「生存のエシックス」プロジェクトチーム（石原友明，中原浩大，井上明彦，高橋 悟，松井紫朗，森公一，加須屋明子）		
ｾﾐﾅｰ･ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ名	国際シンポジウム「東西文化の磁場」	開催日	平成 22 年 11 月 18 日
場所	パリ日本文化会館	聴講者数	71 人
講師・パネリスト等の氏名（職名）	発表１・尾崎正明（京都国立近代美術館長）「レオナール藤田（藤田嗣治）と日本画壇」 発表 2・松原龍一（京都国立近代美術館主任研究員）「パリで開催されたふたつの万国博覧会と近代日本工芸　1900-1930 年」 発表 3・稲賀繁美（国際日本文化研究センター教授）「工藝的思考と触覚的契機」 発表 4・出川哲朗（大阪市立東洋陶磁美術館長）「明治，大正期の陶芸作家による，伝統		

	と革新のはざまでの中国古陶磁器の倣製品の制作について」 発表５・加藤哲弘（関西学院大学教授）「装飾における日本的なもの」 発表 6・クリストフ・マルケ（ソルボンヌ・パリ・シテ研究高等教育拠点フランス国立東洋言語文化研究学院 日本語・日本文化学部長）「東京－パリ－京都：２０世紀初頭の浅井忠における『装飾』芸術再発見への道程」		
ｾﾐﾅｰ･ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ名	クレーと自然	開催日	平成 23 年 3 月 14 日
場所	立命館大学アートリサーチセンター	聴講者数	10 人
講師・パネリスト等の氏名（職名）	ヴォルフガング・ケルステン（チューリヒ大学美術史研究所） ベッティーナ・ゴッケル（チューリヒ大学美術史研究所）		

ウ　国立西洋美術館

ｾﾐﾅｰ･ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ名	全国美術館会議　情報･資料研究部会企画セミナーII「美術情報･資料の活用」	開催日	平成 22 年 9 月 10、11 日
場所	愛知芸術文化センター	聴講者数	約 20 人
講師・パネリスト等の氏名（職名）	講師:水谷長志(東京国立近代美術館主任研究員), 住広昭子(東京国立博物館学芸企画部博物館情報課図書･映像サービス室), 中村節子(石橋財団ブリヂストン美術館司書), 室屋泰三(国立新美術館主任研究員), 川口雅子(国立西洋美術館主任研究員)		
ｾﾐﾅｰ･ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ名	人文社会科学系若手研究者セミナー	開催日	平成 23 年 1 月 29 日
場所	日仏会館	聴講者数	約 15 人
講師・パネリスト等の氏名（職名）	発表者:互盛央(雑誌編集者, 思想史研究者), 陳岡めぐみ(国立西洋美術館研究員), 田口卓臣(宇都宮大学講師)		

エ　国立国際美術館

ｾﾐﾅｰ･ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ名	オーストラリアのメディアアート	開催日	平成 22 年 6 月 6 日
場所	国立国際美術館地下１階講堂	聴講者数	－
講師・パネリスト等の氏名（職名）	アレッシオ・カヴァレロ(オーストラリア動画センターシニアキュレーター), トロイ・イノセント(モナッシュ大学マルチメディア・デジタルアート科教員), 久保田晃弘(多摩美術大学情報デザイン学科教授), グレッグ・モア(RMIT ロイヤルメルボルン工科大学空間情報建築研究室教員), マリ・ヴェロナキ(シドニー大学ソーシャルロボティクスセンター共同所長)		
ｾﾐﾅｰ･ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ名	自画像の美術史ールネサンスから現代まで	開催日	平成 22 年 12 月 11 日
場所	国立国際美術館地下１階講堂	聴講者数	126 人
講師・パネリスト等の氏名（職名）	小佐野重利（東京大学文学部教授），圀府寺司（大阪大学文学部教授），中井康之（当館主任研究員）		

オ　国立新美術館

ｾﾐﾅｰ･ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ名	シリーズ　美術雑誌と戦後美術―創り手たちの証言　第２回　伝統を引き継いで	開催日	平成 22 年 4 月 24 日
場所	国立新美術館 講堂	聴講者数	44 人
講師・パネリスト等の氏名（職名）	生尾慶太郎氏（元『みづゑ』編集長）		
ｾﾐﾅｰ･ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ名	森から始まるリレートーク―暮らし，環境，デザイン，そしてアートと「木」	開催日	平成 22 年 5 月 21 日，22 日，23 日
場所	国立新美術館　講堂	聴講者数	602 人
講師・パネリスト等の氏名（職名）	隈研吾（建築家／東京大学教授），宮本茂紀（モデラー），田中裕人（エリアデザイナー，文筆家／多摩川アートラインプロジェクト事務局長），喜多俊之（プロダクトデザイナー／大阪芸術大学教授），島崎信（北欧デザイン研究家，デザイナー／武蔵野美術大学		

	名誉教授），速水亨（速水林業代表／(社)日本林業経営者協会会長），國安孝昌（美術作家／筑波大学大学院准教授），窪寺茂（建築装飾技術史，文化財修復（建造物）／文化財建造物保存技術協会 技術・研修センター長代理），槇島みどり（植物生態学，景観デザイナー／目白大学教授，東京農業大学客員教授）		
ｾﾐﾅｰ･ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ名	シリーズ　美術雑誌と戦後美術―創り手たちの証言 第３回　企業文化の発信地として	開催日	平成 22 年 6 月 20 日
場所	国立新美術館 講堂	聴講者数	52 人
講師・パネリスト等の 氏名（職名）	芦野公昭（元『アールヴィヴァン』編集者）		
ｾﾐﾅｰ･ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ名	『オルセー美術館展 2010「ポスト印象派」』関連シンポジウム「ポスト印象派とその時代―1880～90 年代のフランス絵画―」	開催日	平成 22 年 7 月 24 日
場所	国立新美術館 講堂	聴講者数	250 人
講師・パネリスト等の 氏名（職名）	三浦篤（東京大学教授），六人部昭典（実践女子大学教授），坂上佳子（早稲田大学教授），廣田治子（美術史家／多摩美術大学他講師），喜多崎親（一橋大学教授），長屋光枝（国立新美術館主任研究員）		
ｾﾐﾅｰ･ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ名	シリーズ　美術雑誌と戦後美術―創り手たちの証言　第４回　関西のアートシーン制作と批評の交差点	開催日	平成 22 年 8 月 1 日
場所	国立新美術館 講堂	聴講者数	28 人
講師・パネリスト等の 氏名（職名）	原久子（元『A&C』編集者）		
ｾﾐﾅｰ･ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ名	シリーズ　美術雑誌と戦後美術―創り手たちの証言　第５回　美の荒廃から復興へ	開催日	平成 22 年 10 月 17 日
場所	国立新美術館 講堂	聴講者数	49 人
講師・パネリスト等の 氏名（職名）	小川熙（元『藝術新潮』編集者）		
ｾﾐﾅｰ･ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ名	シリーズ　美術雑誌と戦後美術―創り手たちの証言　第６回　グローバリゼーション時代のアートメディア	開催日	平成 22 年 12 月 12 日
場所	国立新美術館 講堂	聴講者数	25 人
講師・パネリスト等の 氏名（職名）	小崎哲哉（元『ART iT』編集長）		
ｾﾐﾅｰ･ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ名	第５回アジア美術館長会議	開催日	平成 22 年 9 月 27 日～28 日
場所	江蘇省美術館	聴講者数	―　人
講師・パネリスト等の 氏名（職名）	［参加者］林田英樹（館長），加茂川幸夫（東京国立近代美館長），李梦迪　（学芸課事務補佐員）		
ｾﾐﾅｰ･ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ名	ＩＣＯＭ第２２回代表大会	開催日	平成 22 年 11 月 7 日～12 日
場所	ワールド・エクスポ・センター	聴講者数	―　人
講師・パネリスト等の 氏名（職名）	［参加者］林田英樹（館長），南雄介（学芸課長），矢島絢（庶務課一般職員）		

② 我が国の作家，美術作品による展覧会開催のための海外の美術館との連携・協力

ア　東京国立近代美術館

本館では，「草間彌生展」（2011 年 5 月～2012 年 9 月，レイナ・ソフィア美術館，ポンピドー・センター，テート・モダン，ホイットニー美術館），「李禹煥展」（2011 年 6 月-9 月，グッゲンハイム美術館），「田中敦子展」（2011 年 7 月-2012 年 5 月，アイコン・ギャラリー，カステージョ現代美術センター，東京都現代美術館）開催のための作品調査（作品実見，資料教示，意見交換など）に協力した。

（フィルムセンター）

・韓国映像資料院（韓国・ソウル，FIAF加盟機関）と共同主催した「フィルムセンターの至宝―アニメの源へ：日本のアニメーション映画（1924～1952）」は，平成 19 度に開催した番組を基に，草創期から戦後直後までの日本アニメーション映画の動向を俯瞰するとともに，初期アニメーション映画のパイオニアの一人，大藤信郎の業績を顕彰するために，先方の学芸員との協議のうえ，21作品，4番組に再編成した番組で上映を行った（会期：平成 22 年 6 月 2 日～5 日）。あわせて，研究員が上映に立会い，韓国人のアニメーション映画専門家との間で，日本における初期アニメーション映画の製作と受容，諸外国からの影響などについて討論を行うとともに，観客との間で質疑応答を行った。その内容は後日，韓国映像資料院のホームページにも掲載され（韓国語のみ），韓国における日本アニメーション映画の源流についての理解促進に寄与した。

・チネテカ・デル・フリウリ（イタリア・ウディネ，FIAF 加盟機関）と共同主催した「ポルデノーネ無声映画 2010　松竹の三巨匠―島津保次郎，清水宏，牛原虚彦」は，松竹の草創期を牽引した 3 人の映画監督の業績を顕彰すべく，2 名の外国人日本映画研究者による企画に，フィルムセンター研究員が協力して，14 作品による番組を編成（会期：平成 22 年 10 月 2 日～9 日）。そのうち，13 作品について，新たに英語字幕付35ミリプリントを作成・提供した。会期中は，フィルムセンター研究員 2 名がすべての上映に立会うとともに，今回の特集をテーマとしてシンポジウムに研究員が参加し，映画史的な背景や無声映画の保存状況について解説するとともに，参加者との間で質の高い質疑応答を行った。

イ　京都国立近代美術館

イタリア・モデナのジュゼッペ・パニーニ写真美術館の写真コレクションを紹介した「ローマ追想―19 世紀写真と旅」展の交換展として，当館の写真コレクションの軸となる野島康三の写真作品を紹介する展覧会「野島康三展」が，本年度末よりジュゼッペ・パニーニ写真美術館に巡回している。

（３）国内外の美術館及びフィルム・アーカイブ等との保存・修復に関する情報交換

ア　東京国立近代美術館

フィルムセンターでは，ドイツ・キネマテーク（FIAF 加盟機関）における所蔵日本映画の調査，福岡市総合図書館（FIAF 加盟機関）所蔵の日本文化・記録映画，神戸映画資料館所蔵の日本劇映画，文化・記録映画，アニメーション映画の調査，記録映画保存センター，IMAGICA 等を通じて日本劇映画，文化・記録映画の所在情報を得た。

「近代歴史資料調査」で明らかになった『日本南極探検』（1912 年）の残存フィルムについて，先行調査の整理を行った。また，ライオン株式会社による回答資料に基き，所蔵フィルムの現地調査を行った。

チネテカ・ディ・ボローニャ，ドイツ・キネマテーク，韓国映像資料院，チネテカ・デル・フリウリ，福岡市総合図書館（以上，FIAF 加盟機関），広島市映像文化ライブラリー，記録映画保存センター等との間で，映画フィルムの保存・復元に関する調査や情報交換を行った。また，香港電影

資料館(FIAF 加盟機関)，国立民族学博物館，東京文化財研究所，京都府京都文化博物館等が主催するシンポジウムやワークショップに参加することで，参加者との情報交換に務めた。

イ　国立西洋美術館

分析依頼として，J.P.ゲッティ美術館（ロサンゼルス）保存修復センターに，カミーユ・ピサロ作《収穫》（西美所蔵作品）のメディウム分析を依頼するとともに，分析法についてのトレーニングを受けた。

共同研究として共立女子大学と，「LED ランプの美術館照明としての適正―演色性の評価―」，歴史民俗博物館と，「江戸から明治初期にかけての絵画材料および製作・流通に関する調査研究」をそれぞれ行った。

（4）所蔵作品の貸与等

①　作品の貸与

館　　名	貸出件数	貸出点数	特別観覧件数	特別観覧点数
東京国立近代美術館(本館)	70	277	128	337
東京国立近代美術館(工芸館)	28	249	34	126
京都国立近代美術館	60	540	81	155
国立西洋美術館	10	31	66	141
国立国際美術館	21	221	11	13
計	189	1,318	320	772

東京国立近代美術館本館では，「橋本平八・北園克衛」（2010 年 8 月～12 月，三重県立美術館，世田谷美術館　6 点），「牧野虎雄展」（2011 年 2 月～3 月，新潟県立近代美術館　7 点）など，開催館の長年の調査研究に基づく企画に，核となる代表作を含む複数点を貸与した。また，作品の貸与のほか引き続き写真閲覧制度（プリントスタディ）を実施した（利用件数 8 件，閲覧者数 129 人，閲覧作品数 286 点）。

「『日本画』の前衛　1938-1949」（2010 年 9 月～2011 年 3 月，京都国立近代美術館，広島県立美術館　13 点），「国立美術館コレクションによる　陰影礼賛」（2010 年 9 月～10 月　51 点）など，法人内の企画への出品を積極的に推進した。

京都国立近代美術館では，島根県立美術館「生誕 120 年記念　河井寛次郎展　―すべてのものは自分の表現」および富山県水墨美術館「生誕 120 年記念　河井寛次郎展　ゆかりの作家　濱田庄司・芹澤銈介・棟方志功など」に 121 点の作品貸出を行った。また，当館主任研究員が企画・監修を務めたパリ日本文化会館「近代日本工芸 1900-1930　―伝統と変革のはざまに」展に 21 点，平成 21 年度に当館で「ローマ追想―19 世紀写真と旅」展を共催したジュゼッペ・パニーニ写真美術館の「野島康三展」に 112 点の作品貸出を行った。

国立西洋美術館では，所蔵作品の貸出は前年度に比べ 1 件・15 点増加した。公私立美術館への貸出は，三菱一号館美術館の開館記念展「マネとモダン・パリ」，ブリヂストン美術館・ひろしま美術館の「セーヌの流れに沿って」展など，8 件・12 点である。

国立国際美術館では，「アメリカ抽象絵画の巨匠　バーネット・ニューマン」展（川村記念美術館），「プライマリー・フィールドⅡ 絵画の現在―七つの〈場〉との対話」（神奈川県立近代美術館　葉山館），「田窪恭治展　風景芸術」（東京都現代美術館）などからの貸与依頼に対し，積極的に貸し出しを行った。

②　映画フィルム等の貸与

種別	貸出		特別映写観覧		複製利用	
	件数	点数	件数	点数	件数	点数
映画フィルム	71	181	93	351	38	74

種別	貸出		特別観覧	
	件数	点数	件数	点数
映画関連資料	0	0	28	167

海外への貸与のうち，共同主催事業では，韓国映像資料院（FIAF 加盟機関）との間で開催した「フィルムセンターの至宝―アニメの源へ：日本の初期アニメーション映画（1923～1952）に対し日本アニメーション映画 21 本，チネテカ・デル・フリウリ（イタリア，FIAF 加盟機関）との間で開催した「ポルデノーネ無声映画祭 2010　松竹の三巨匠―島津保次郎，清水宏，牛原虚彦」に対し日本劇映画 14 本を提供した。また，韓国映像資料院，国家電影資料館（台湾），シネマテーク・フランセーズ等 FIAF 加盟機関及びベルリン国際映画祭，パリ・シネマ国際映画祭，韓国シネマテーク協議会等が主催する日本人監督や俳優の特集上映に貸与を通じて協力するとともに，チネテカ・ディ・ボローニャや英国映画協会（ともに FIAF 加盟機関）が主催する映画祭には，世界でも貴重な外国劇映画のフィルムを貸与した。

国内への貸与のうち，共同主催事業では，前年度に引き続き京都国立近代美術館との間で開催した「NFC 所蔵作品選集 MoMAK Films@home」の上映会に対し，『月よりの使者』（1934 年）等日本映画 15 本，『ベリッシマ』（1951 年）等外国映画 13 本を提供した。また，一般社団法人コミュニティシネマセンターとの間で前年度に引き続き開催した「生誕百年　映画監督　山中貞雄」では福岡市総合図書館（FIAF 加盟機関）を含む全 3 会場に日本劇映画 3 本のフィルムを提供した。また，川崎市市民ミュージアム，アテネ・フランセ文化センター等のシネマテーク，東京国際映画祭，京都映画祭，東京フィルメックス等の映画祭，新文芸坐，神保町シアター，ラピュタ阿佐ヶ谷等の名画座における特集上映に際し欠くことのできない作品の映画フィルムの貸与を行った。

映画関連資料については，本年度は貸与の要請が寄せられなかった。

（5）美術教育の一翼を担うナショナルセンターとしての活動

①　美術館を活用した鑑賞教育の充実のための指導者研修の実施

平成 22 年度「美術館を活用した鑑賞教育の充実のための指導者研修」を実施し，その後本研修の記録集を作成，過去 4 年の研修参加者及び全国の美術館教育普及関係者に配布した（参加人数：112 名（小中学校教諭 74 名，指導主事 11 名，学芸員 27 名），会期：7 月 26 日～28 日（3 日間），会場：東京国立近代美術館（7 月 26 日），国立新美術館（7 月 27 日・28 日）。

また，本研修において平成 22 年度「教員免許状更新講習」を実施した（教員免許状更新講習：受講者 12 名（全員に履修証明書を授与））。

東京国立近代美術館及び国立西洋美術館では，東京都図画工作研究会，東京都現代美術館（8 月 20 日，9 月 2 日，9 月 21 日，於いて東京国立近代美術館）及び東京都中学校美術教育研究会との共催の教員研修（8 月 23 日，於いて東京国立近代美術館）を実施した。

②　先駆的・実験的な教材やプログラムの開発

ア　国立美術館

鑑賞教材「アートカード」を各館から学校へ貸し出しを行ったほか，教員の研修などの機会をとらえて積極的に紹介した。

イ　東京国立近代美術館

本館では，コレクションこどもセルフガイド（Ａ５カード型）に１０種類加えて全３０種類とし，展示替ごとに６枚程度を組み合わせて小中学生の来館者に無料配布した。また，「岡本太郎展こどもセルフガイド」を作成し，都内および近郊の小中学校に事前配布，館内配布を行った。

工芸館では，「所蔵作品展　こども工芸館／おとな工芸館　イロ×イロ」開催にあわせて，小学生を対象としたセルフガイドを作成し，都内及び近郊の小学校に事前配布するとともに，館内で来館者に配布した。同時に，より詳細な情報を記載したセルフガイドを作成・配布し，各成長段階あわせた自発的かつ高度な鑑賞を促すとともに，教職員向けの指導案としても提示した。また，中学生以上を対象として，染織を題材とするワークシートを作成・配布した。

ウ　国立西洋美術館

「音」と美術作品を関連させた新規の「びじゅつーる」の開発と運用及び画像（含動画）と音声による常設展の鑑賞ガイド「Touch the Museum」の開発と運用を行った。

（６）美術館活動を担う中核的人材の育成

館　　名		インターンシップ受入数	博物館実習受入数
東京国立近代美術館	本館	6	－
	工芸館	4	2
	ﾌｨﾙﾑｾﾝﾀｰ	1	15
京都国立近代美術館		0	－
国立西洋美術館		5	－
国立国際美術館		7	－
国立新美術館		6	－
計		29	17

（７）全国の美術館等との連携・人的ネットワークの構築

①　企画展・上映会等の共同主催と共同研究

館　　名	共同主催件数	共同研究件数
東京国立近代美術館(本館・工芸館)	3	5
東京国立近代美術館(ﾌｨﾙﾑｾﾝﾀｰ)	5	4
京都国立近代美術館	5	6
国立西洋美術館	2	2
国立国際美術館	5	5
国立新美術館	7	7
計	27	29

特記事項（共同研究によって特に得られた成果等）

（ア）東京国立近代美術館

（本館）

「小野竹喬展」では大阪市立美術館、笠岡市立竹喬美術館と、「上村松園展」では京都国立近代美術館と共同研究を行った、また、「麻生三郎展」では愛知県美術館、京都

国立近代美術館と、「岡本太郎展」では川崎市岡本太郎美術館とそれぞれ共同研究を行い、さらに展覧会を共催した。

（工芸館）

「ルーシー・リー展」において国立新美術館と共同主催、共同研究を行った。とりわけ、東京国立近代美術館工芸課が企画・立案を行い、国立新美術館からの助言を参考に、会場の広さを十分に生かした展示構成を考えた。

（フィルムセンター）

・「発掘された映画たち 2010」：フィルムセンターの他，国内各地のフィルム・アーカイブ機関・団体 7 つの参加を得て，近年の復元作品や貴重コレクションの上映，トーク・イベント等を開催した。

・「EU フィルムデーズ 2010」：駐日欧州連合代表部，EU 加盟国大使館・文化機関と協議し，近年の EU 加盟各国の映画動向や作品の評価を踏まえながら作品選定を行った。

・「ぴあフィルムフェスティバルの軌跡 vol．3」：ぴあ株式会社と協議しながら作品選定を行った。

・「第 32 回ぴあフィルムフェスティバル」： PFF パートナーズと協議し，招待作品部門の作品選定を行った。

・「ポルトガル映画祭 2010 マノエル・ド・オリヴェイラとポルトガル映画の巨匠たち」：コミュニティシネマセンター，ポルトガル大使館と協議しながら作品選定を行った。

・「シネマアフリカ 2010」：シネマアフリカ 2010 実行委員会と協議しながら作品選定を行った。

・「アニメーションの先駆者 大藤信郎」展：アニメーション史研究家の協力を得て，展覧会の実現に至るまでの資料整理や展示品の選定を行った。また，ヤマムラアニメーションとの共同により，大藤が遺した未完成作品『竹取物語』のセル画を用いて動画製作を行い，35㎜ 版プリントを作成した。

・「生誕百年 映画監督 黒澤明」展：黒澤プロダクションや龍谷大学の黒澤明デジタルアーカイブなどの協力を得て，監督自身の遺した多数の貴重な資料を積極的に活用する形で展示品の選定を行った。

（イ）京都国立近代美術館

「稲垣仲静・稔次郎兄弟展」では練馬区立美術館，笠岡市立竹喬美術館と共同研究・共同開催を行い、「パウル・クレー―終わらないアトリエ」展では東京国立近代美術館と共同研究・共同開催を行い，パウル・クレー・センター（ベルン），チューリヒ大学美術史研究所と共同研究を行った。

東京国立近代美術館フィルムセンター（NFC）との共同主催により，NFC 所蔵フィルムを用いた上映会「NFC 所蔵作品選集　MoMAK　Films@home」を定期的に開催した。

（ウ）国立西洋美術館

「ナポリ・宮廷の美―カポディモンテ美術館展」については京都文化博物館と，「レンブラント　光の探求／闇の誘惑展」では名古屋市立美術館と共同企画により展覧会を開催した。

（エ）国立国際美術館

「ルノワールー伝統と革新展」ではポーラ美術館，国立新美術館と，「束芋：断面の世代」では横浜美術館と，「マン・レイ展」では国立新美術館と，「ウフィツィ美術館 自画像コレクション　巨匠たちの「秘めた素顔」1664-2010」では損保ジャパン東郷青児美術館，東京大学と共同研究を行った。

とりわけ，「ウフィツィ美術館 自画像コレクション　巨匠たちの「秘めた素顔」1664-2010」に関連し，現代作家の草間彌生，杉本博司，横尾忠則の3者に自画像を制作してもらい，その3作品がウフィツィ美術館にコレクションに加わることとなった。このことは，損保ジャパン東郷青児美術館，東京大学，国立国際美術館とウフィツィ美術館による共同研究の成果を示すものである。

（オ）国立新美術館

「ルノワール―伝統と革新」では国立国際美術館，ポーラ美術館と，「ルーシー・リー展」では東京国立近代美術館と，「オルセー美術館展 2010「ポスト印象派」」ではオルセー美術館，オーストラリア国立美術館と，「マン・レイ展」ではマン・レイ財団，国立国際美術館と共同企画及び共同研究を行った。「没後 120 年　ゴッホ展」では国立ゴッホ美術館，クレラー＝ミュラー美術館，名古屋市美術館と，「シュルレアリスム展」ではポンピドゥーセンターと共同企画及び共同研究を行った。このうち、「ルーシー・リー展」は東京国立近代美術館と，「オルセー美術館展 2010「ポスト印象派」」はオルセー美術館と，「シュルレアリスム展」はポンピドゥセンターと共同主催で開催した。

また，「陰影礼讃」展は，東京国立近代美術館，京都国立近代美術館，国立西洋美術館，国立国際美術館との共同企画，共同開催であり，独立行政法人国立美術館の５館が，法人設立以来始めて連携して企画した展覧会で，「陰」・「影」の表現に焦点を当てた企画は高い評価を得た。

②　キュレーター研修

館　　名	受入人数
東京国立近代美術館(本館･工芸館)	1
京都国立近代美術館	－
国立西洋美術館	－
国立国際美術館	－
国立新美術館	1
計	2

（８）我が国の映画文化振興の中核的機関としてのフィルムセンターの活動

①　国際フィルム・アーカイブ連盟（FIAF）の正会員としての活動

・フィルムセンター主幹が，平成 21 年 5 月 30 日に FIAF 会長に就任した。

・ノルウェー・オスロで 4 月 30 日から 5 月 8 日まで開催された第 66 回国際フィルム・アーカイブ連盟（FIAF）会議に，主幹及び研究員が出席し，シンポジウム等で発表を行った。

・ユネスコ世界視聴覚文化遺産の日記念特別イベントとして「講演と上映 3D 映画の歴史」を開催した。

②　日本映画情報システムの運営

文化庁が実施する「日本映画情報システム」に対して，本年度も資料提供，当館公開データベースへの接続に関する協力を行った。

また，「日本映画情報システム」に関連し，所蔵映画フィルムの調査カードおよびコマ抜き情報の閲覧を許可し，データベース作りへの協力を行った。

③　所蔵映画フィルム検索システムの拡充

「所蔵映画フィルム検索システム」については，本年度中に日本劇映画のレコード481件を新たに公開し，公開件数は5，627件となった。

④　映画関係団体等との連携

・国内では，福岡市総合図書館（FIAF加盟機関），京都府京都文化博物館，川崎市市民ミュージアム，鎌倉市川喜多映画記念館，早稲田大学演劇博物館，山口情報芸術センター，東京都写真美術館，神戸映画資料館等へ，映画フィルムの貸与を通じて協力を行った。海外では，韓国映像資料院及びチネテカ・デル・フリウリ（ともにFIAF加盟機関）との共催事業において，フィルムセンター研究員が上映会に参加し，ディスカッションへの参加や質疑応答を行った。また，オーストラリア国立映画音響アーカイブ，韓国映像資料院，国家電影資料館（台湾），シネマテーク･フランセーズ，オーストリア映画博物館，チネテカ・ディ・ボローニャ（イタリア），英国映画協会（以上FIAF加盟機関）等へ，映画フィルムの貸与を通じて協力を行った。加えて，香港電影資料館，早稲田大学演劇博物館，東京大学総合研究博物館，東京文化財研究所等フィルム･アーカイブや博物館，研究機関，立命館大学映像学部等教育機関，日本映像学会等関連学会，映画産業団体連合会に「映画の保存と復元に関するワークショップ」等が主催するシンポジウム，講演会，授業等に研究員が参加し，研究成果の発表やディスカッションを通じて協力した。

・前年度に実施したアンケートに基づいて「全国映画資料館録」を刊行し，映画関連資料を所蔵する全国各地の機関にかかわる情報集積と公開に取り組んだ。

⑤　フィルムセンターの東京国立近代美術館からの独立の検討

独立の可能性を探る内部打合せを2回実施した。

第1回：平成23年1月20日（木）

第2回：平成23年1月21日（金）

Ⅱ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

1　業務の効率化のための取り組み

（1）各美術館の共通的な事務の一元化

引き続き，事務局長のトップマネージメントの下，各館の事務組織が有機的に連携し，効果的・効率的な業務を遂行するとともに，各館で行っていた出版物のうち年報について法人本部において一元的に実施した。また，法人内で採用しているVPN（Virtual Private Network：暗号化された通信網）を用いたグループウェア及びテレビ会議システム、特にテレビ会議システムについては，定期的な会議等に本格的な利用を開始し，東日本大震災後は，本システムを利用し本震災に伴う節電対策等の臨時会議を実施している。

（2）使用資源の削減

①　省エネルギー（５年計画中１年に1.03%の減少）

●使用量，使用料金の削減割合（対前年度比（下段括弧書きは対平成17年度比））

館　　名	使用量			使用料金		
	電気	ガス	合計	電気	ガス	合計
東京国立近代美術館本館	86.2% (76.9%)	87.9% (66.2%)	87.2% (70.0%)	94.7% (85.7%)	96.8% (92.9%)	95.4% (87.9%)
東京国立近代美術館工芸館	100.3% (98.1%)	－ (－)	100.3% (98.1%)	105.8% (91.9%)	－ (－)	105.8% (91.9%)
東京国立近代美術館ﾌｨﾙﾑｾﾝﾀｰ	100.8% (115.6%)	－ (－)	100.8% (115.6%)	107.6% (110.4%)	－ (－)	107.6% (110.4%)
京都国立近代美術館	115.4% (92.6%)	168.2% (98.6%)	141.7% (96.0%)	110.0% (92.7%)	155.9% (124.3%)	120.6% (100.3%)
国立西洋美術館	100.2% (97.6%)	103.3% (100.0%)	102.0% (99.0%)	101.6% (96.8%)	114.7% (125.3%)	105.9% (105.3%)
国立国際美術館	97.3% (86.8%)	－ (－)	97.3% (86.8%)	97.6% (93.6%)	－ (－)	97.6% (93.6%)
国立新美術館	91.5% (83.8%)	92.6% (88.9%)	92.1% (86.3%)	98.4% (83.8%)	99.0% (82.1%)	98.6% (83.3%)
法　人　全　体	95.1% (88.9%)	97.9% (88.7%)	96.4% (88.8%)	100.2% (90.0%)	105.6% (95.7%)	101.5% (91.4%)

※東京国立近代美術館工芸館･フィルムセンター及び国立国際美術館は，ガス設備を設置していない。

※使用量の合計は，電気1kwhあたり3.6MJ，ガス1㎥あたり44.8MJ（資源エネルギー庁「エネルギー源別標準発熱量表」による。）に換算して合計したものである。

※国立新美術館の下段括弧書きは，平成19年度がフルオープンであるため，対平成19年度比で計上している。

●特記事項（増減の理由等）

国立美術館については，業務の特殊性から，展覧会場における空調や美術作品収蔵庫における一定温湿度維持等が必要とされ削減が難しいものの，引き続き，美術作品のない区画におけるの設定温度の適格化（夏季２８℃，冬季２０℃），夏季における服装の軽装化，不使用設備機器類のこまめな停止等，職員等の意識の啓発によりエネルギーの削減に努めた。

また，本年度は，エネルギーの使用の合理化に関する法律に基づき，エネルギー管理統括者を選任し，省エネルギー計画策定等に向けた体制整備を行うとともに，各館において可能な箇所から，蛍光灯のＬＥＤ照明への交換，ガラス面への断熱加工を行い，省エネルギー効果を高めた。特に，国立新美術館においては，エネルギー効率の高い空調制御機器への更新工事を行い，エネルギー使用量を削減するとともに，引き続き，BEMS（Building and Energy Management System）により，詳細なエネルギーの使用量と室内環境の把握を行い，その情報を定例的に開催する省エネルギー推進会議へ報告し，省エネルギー対策に生かすなどの取り組みを行っている。

本年度における使用量の主な増減理由は，京都国立近代美術館が，前年度に収蔵ラック増設等工事に伴う休館により，平年と比較して大幅にエネルギー使用量が減少したことから，本年度は前年度と比較すると大幅に増加している。また，東京国立近代美術館工芸館・同フィルムセンター及び国立西洋美術館本館は，空調設備設置年が古いことからエネルギーの使用効率が低く，猛暑の影響で前年度より増加している。

なお，対平成 17 年度（国立新美術館においてはフルオープンが平成 19 年度のため，対平成 19 年度）と比較すると，国立美術館全体で，使用量は△11.3%，使用料金は△8.6%の削減を図っている。

② 廃棄物減量化（排出量を５年期間中５％減少）

●排出量，廃棄料金の削減割合（対前年度比（下段括弧書きは対平成 17 年度比））

館　　名	排出量			廃棄料金	
	一般廃棄物	産業廃棄物	合計	一般廃棄物	産業廃棄物
東京国立近代美術館本館	61.7% (31.3%)	75.0% (63.0%)	66.5% (39.3%)	61.7% (43.8%)	81.3% (99.3%)
東京国立近代美術館工芸館	91.7% (89.7%)	102.3% (80.7%)	93.1% (88.3%)	91.7% (125.5%)	110.9% (127.2%)
東京国立近代美術館ﾌｨﾙﾑｾﾝﾀｰ	152.6% (49.3%)	122.8% (31.9%)	136.9% (39.2%)	89.4% (27.0%)	122.8% (18.6%)
京都国立近代美術館	12.7% (15.2%)	6.0% (4.1%)	10.0% (9.2%)	－ (－)	74.7% (47.9%)
国立西洋美術館	100.5% (115.1%)	116.3% (148.6%)	106.6% (127.3%)	81.8% (62.6%)	75.6% (58.4%)
国立国際美術館・国立新美術館を除く法人全体	65.6% (56.0%)	68.7% (47.5%)	66.8% (49.4%)	82.6% (58.4%)	81.4% (48.8%)

※京都国立近代美術館は，一般廃棄物の処理を清掃業者に一括して委託しているため，廃棄料金が算出できない。

※国立国際美術館の産業廃棄物は、平成 19 年度に数量の計上方法が変更となった（業者が変わり、測定単位が kg から㎥になった）ため，平成 17 年度と平成 22 年度の比較ができず，合計から除外している。

※国立新美術館は，平成 19 年度に開館しており，平成 17 年度と比較できないため，合計から除外している。

【参考】

国立国際美術館	99.3% (101.7%)	－ (－)	99.3% (101.7%)	100.0% (100.0%)	203.8% (6.5%)
国立新美術館	102.5% (87.1%)	92.3% (49.4%)	100.2% (75.4%)	157.5% (108.1%)	75.0% (136.5%)

※平成 17 年度の国立国際美術館は，平成 16 年度の移転後の整理のため，産業廃棄物が大量に発生したことから，平成 22 年度と比較して廃棄料金が大幅に差が出ている。

※国立新美術館の下段括弧書きは，平成 19 年度に開館しており，平成 17 年度と比較できないため，対平成 19 年度比で計上している。

● 特記事項（増減の理由等）

国立美術館においては，開館日数や来館者数の増減による影響など，業務の性質上，廃棄物の計画的な削減が難しいものの，引き続き，事務・研究部門における電子メール，グループウェアの活用による通知文書の発信やサーバ保存文書の共同利用によるペーパーレス化，両面印刷の促進や裏紙の再利用等による用紙の節減に努めるととに，古紙の分別回収による再資源化を進めることにより，廃棄物の削減を図った。

一般廃棄物は，国立新美術館における来館者数の増加，東京国立近代美術館フィルムセンター及び国立西洋美術館における館内整理等により，前年度と比べ増加した。産業廃棄物については，不要となった展示ケースや展示パネル等の廃棄により増加しているものの，京都国立近代美術館の排出量が大幅に減少したため，法人全体では前年度と比べ減少した。一方で，京都国立近代美術館の産業廃棄物廃棄料金については，汚泥処理の委託経費を含んでいるため，排出量の減少と比較して料金は減少していない。

なお，対平成 17 年度（国立新美術館においてはフルオープンが平成 19 年度のため，対平成 19 年度）と比較すると，国立美術館全体では対排出量は△37.6%，廃棄料金は△31.6%と削減が図られている。

③ リサイクルの推進

前年度に引き続き，古紙含有率１００％のコピー用紙の利用，古紙の裏面利用による再利用，廃棄物の分別，ＯＡ機器等トナーカートリッジのリサイクルによる再生使用を行い，リサイクルの推進に努めた。

（３）美術館施設の利用推進

外部への施設の貸出

各館の貸出施設名	貸出日数
東京国立近代美術館本館（講堂）	26日
東近美フィルムセンター（小ホール）	15日
東近美フィルムセンター（会議室）	10日
京都国立近代美術館（講堂）	8日
京都国立近代美術館（会議室）	5日
国立西洋美術館（講堂）	19日
国立西洋美術館（会議室）	11日
国立国際美術館（講堂）	65日
国立国際美術館（会議室）	20日
国立新美術館（講堂）	60日

国立新美術館（研修室Ａ）	81日
国立新美術館（研修室Ｂ）	56日
国立新美術館（研修室Ｃ）	34日
計	410日

●特記事項

当該施設については，展覧会事業にあわせた講演会やシンポジウム等に使用するものであるが，事業に差し支えない範囲で，外部への貸出を行った。

講堂については，引き続き利用促進ＰＲのための利用案内をホームページに掲載し利用の促進を図った。フィルムセンターでは，小ホールについても，可能な限り外部への貸出を行った。

（４）民間委託の推進

①　一般管理部門を含めた組織・業務の見直しと民間委託の推進

次のとおり民間委託を行い業務の効率化を図った。

（ア）会場管理業務，（イ）設備管理業務，（ウ）清掃業務，（エ）保安警備業務，（オ）機械警備業務，（カ）収入金等集配業務，（キ）レストラン運営業務，（ク）アートライブラリ運営業務，（ケ）ミュージアムショップ運営業務，（コ）美術情報システム等運営支援業務，（サ）ホームページサーバ運用管理業務，（シ）電話交換業務，（ス）展覧会アンケート実施業務，（セ）省エネルギー対策支援業務，（ソ）展覧会情報収集業務

東京国立近代美術館本館及び工芸館の管理運営業務（展示事業の企画等を除く。）については，引き続き，「競争の導入による公共サービスの改革に関する法律」に則り実施した。

また，平成 22 年度は新たに次の業務について民間委託を行い，業務の効率化を図った。国立西洋美術館では，省エネルギー対策に関する支援業務を委託した。国立新美術館では，展覧会情報収集業務を委託した。京都国立近代美術館では平成 23 年度から実施する建物維持管理に関する業務並びに常駐警備及び出札・集札・看視等業務をそれぞれ一括して契約した。

②　広報・普及業務の民間委託の推進

次のとおり民間委託を行い業務の効率化を図った。

（ア）情報案内業務，（イ）広報物等発送業務，（ウ）交通広告等掲載，（エ）ホームページ改訂・更新業務，（オ）インターネット検索サイト，（カ）ラジオＣＭ等を利用した総合的な広報宣伝業務，（キ）雑誌「ぴあ」広告掲載年間契約及びチケット販売委託，（ク）講堂音響設備オペレーティング業務

（５）競争入札の推進

①　一般競争入札の実績

ア　契約件数及び契約金額（少額随契を除く）　263 件，13,363,683,103 円

イ　契約種別毎の年間契約数

①競争契約　100 件（38.0%），4,781,340,409 円（35.8%）

【内訳】

・一般競争入札　100 件，4,781,340,409 円

②随意契約　163 件（62.0%），8,582,342,694 円（64.2%）

【内訳】

・同一所管公益法人等　3 件，5,993,505,637 円

・同一所管公益法人等以外の法人等　160 件，2,588,837,057 円

（うち美術作品の購入に関する随意契約　88 件，1,638,254,182 円）

ウ　公益調達の適正化（財計第 2017 号）等に即した実施状況

別紙１を参照

●特記事項

本年度において，随意契約の占める割合は，件数では全体の 62.0%，金額では全体の 64.2%となっている。このうち，同一所管公益法人等の契約（3 件，5,993,505,637 円）については，国立新美術館における土地購入及び土地借料が主なものである。また，同一所管公益法人等以外の法人等の契約（160 件，2,558,837,057 円）の中には，本法人特有の業務である美術作品の購入に関する随意契約（88 件，1,638,254,182 円）が含まれている。これらの理由により，本法人の随意契約の割合は高くなっているが，これらの特殊な事由を除く比率で比較すると，随意契約の割合は件数で全体の 27.4%，金額は全体の 7.1%となる。

また，随意契約見直し計画で競争性のある契約に移行することとしていた案件は，本年度において全て競争契約へ移行済みとなっており，本年度において新規に発生した案件に関しても，真にやむを得ない場合を除き，全て一般競争契約や公募，企画競争等の競争性のある契約を行っている。

2　事業評価及び職員の研修等

①　外部有識者による事業評価

ア　本部

独立行政法人国立美術館運営委員会を 2 回（平成 22 年 7 月 14 日及び平成 23 年 3 月 1 日）開催し，平成 21 年度事業実績並びに，平成 22 年度事業の実施状況及び 23 年度事業計画（案）について説明聴取の上，意見交換を行った。

また，独立行政法人国立美術館外部評価委員会を 3 回（平成 22 年 4 月 21 日，5 月 12 日及び 6 月 9 日）開催し，平成 21 年度事業実績について説明聴取の上，審議し評価報告書を取りまとめた。

イ　東京国立近代美術館

評議員会（美術・工芸部会）を 2 回（平成 22 年 7 月 6 日及び平成 23 年 2 月 16 日），評議員会（映画部会）を 2 回（平成 22 年 6 月 29 日及び平成 23 年 2 月 24 日）開催し，平成 21 年度事業実績，平成 22 年度事業の実施状況及び平成 23 年度事業計画（案）について説明聴取の上，意見交換を行った。

ウ　京都国立近代美術館

評議員会を 1 回（平成 22 年 7 月 21 日）開催し，平成 21 年度事業実績，平成 22 年度年度計画及び事業実施状況について説明聴取の上，意見交換を行った。

エ　国立西洋美術館

評議員会を１回（平成 22 年 9 月 13 日）開催し，平成 21 年度事業報告及び平成 22 年度事業計画について説明聴取の上，意見交換を行った。

オ　国立国際美術館

評議員会を１回（平成 23 年 3 月 24 日）開催し，平成 22 年度事業報告及び平成 23 年度事業計画について説明聴取の上，意見交換を行った。

カ　国立新美術館

評議員会を１回（平成 22 年 8 月 16 日）開催し，平成 21 年度事業実績，平成 22 年度事業実施状況及び平成 24 年度以降及び平成 29 年度以降の公募展事業について説明聴取の上，意見交換を行った。

３　管理情報の安全性向上

個人情報の保護については，引き続き，個人情報保護に関する説明会への参加や情報漏えいの事例等の通知を行うとともに，個人情報ファイルの保有状況調査の実施等にあわせ，重要書類は鍵のかかる保管庫に納めること，個人情報を取り扱う業務中に離席する際は，当該書類やパソコン画面を他の職員等から見られないような措置を講じること，廃棄する際はシュレッダーにかけることなど，厳格に書類管理を行った。また，あわせてウィルス対応ソフトウェアの導入の徹底や最新のプログラムへの更新を随時行うなど，電子メール等による外部からのウィルス進入を回避する安全策を講じた。

なお，独立行政法人国立美術館保有個人情報管理規則第５０条に基づき，当法人の保有個人情報の管理状況について，平成 22 年 6 月 21 日に監事による監査を実施した。

４　人件費の抑制，給与体系の見直し

①　人件費決算

決算額　922,677 千円（対平成 21 年度比較　95.4%）

・人件費は常勤職員を対象とし，退職金，福利厚生費を含まない。

●特記事項

退職者の後任不補充，新規採用や人事交流による職員の若返り等により，前年度と比較して 4.6%減少した。なお、「行政改革の重要方針」（平成 17 年 12 月 24 日閣議決定）による人件費の削減への取り組みについては、平成２２年度は、基準年度に比べ△9.2%（純減率）を達成している。

②　給与体系の見直し

国家公務員の給与等を考慮して，平成 18 年 4 月から俸給表の水準を全体として平均 4.8%引下げるとともに，級の構成の見直し，きめ細かい勤務実績の反映を行うため号俸の 4 分割を行ったほか，調整手当を廃止し，地域手当を新設するなど，国家公務員の給与構造改革を踏まえた給与体系の見直しを行った。

また，国立美術館の職員が行う職務は，国の行政職俸給表（一）又は研究職俸給表の適用を受けるものと同等の職務であるとみなし，給与についても一般職給与法に準拠した給与制度で支給してきていることを前提に，これらとの比較を行った（「独立行政法人の役職員の給与等の水準（平成 21 年度）」平成 22 年 8 月 10 日総務省公表資料を参照。）。

ア　一般職俸給表の適用を受ける職員の給与水準

＜国との比較＞

項　　目	国	国立美術館
平均年齢	４１．９歳	３９．０歳

学歴（大学卒の割合）	５１．６％	７２．１％
調整手当支給率　※１	５３．７％	１００％

※１　１級地，２級地及び４級地の支給地の割合

＜他の独立行政法人との比較＞２１年度年間給与額

項　　目	全独立行政法人	国立美術館
給与総額	７，１０５千円	６，１７１千円
平均年齢	４３．５歳	３９．０歳
ラスパイレス指数　※２	１０６．２	１０５．１

※２　国の行政職俸給表（一）適用者の給与を１００としたときの給与水準の指数

イ　研究職俸給表の適用を受ける職員の給与水準

＜国との比較＞

項　　目	国	国立美術館
平均年齢	４４．６歳	４３．９歳
学歴（大学卒の割合）	９６．７％	１００％
調整手当支給率　※３	９０．５％	１００％

※３　１級地，２級地及び４級地の支給地の割合

＜他の独立行政法人との比較＞２１年度年間給与額

項　　目	全独立行政法人	国立美術館
給与総額	８，８２３千円	８，１８５千円
平均年齢	４５．２歳	４３．９歳
ラスパイレス指数　※４	１００．３	９５．８

※４　国の研究職俸給表適用者の給与を１００としたときの給与水準の指数

ウ　常勤役員の年間報酬

項　　目	全独立行政法人	国立美術館
法人の長	１８，１８３千円	１８，８１９千円
理事	１５，０７８千円	１７，０６９千円

③　平成２２年度の役職員の報酬・給与等について

別紙２「独立行政法人国立美術館の役職員の報酬・給与等について」を参照。

Ⅲ　予算（人件費の見積もりを含む），収支計画及び資金計画等

１　予算（単位：千円）

区　　分	計画額	実績額	増△減額
収入			
運営費交付金	5,858,966	5,856,966	0
展示事業等収入（注1）	994,584	1,431,824	437,240
寄附金収入	－	12,748	12,748
施設整備費補助金（注2）	6,699,018	7,835,968	1,136,950
計	13,552,568	15,139,507	1,586,939
支出			
運営事業費	6,853,555	7,345,837	△492,287
管理部門経費	1,730,807	1,600,165	130,641
うち人件費（注3）	304,561	284,826	19,734
うち一般管理費（注3）	1,426,246	1,315,339	110,906
事業部門経費	5,122,743	5,745,672	△622,929
うち人件費（注3）	791,011	752,902	38,108
うち展覧事業費（注4）	3,307,557	3,642,021	△334,464
うち調査研究事業費（注5）	167,276	172,262	△4,986
うち教育普及事業費（注5）	856,899	1,178,485	△321,586
施設整備費補助金（注2）	6,699,018	7,891,828	△1,192,810
計	13,552,568	15,237,666	△1,685,098
収支差引	－	△98,159	△98,159

主な増減理由
（注１）入場料収入等の増加による。
（注２）前年度繰越工事の完了及びに本年度工事未完により次期へ繰越したことによる。
（注３）業務運営の効率化による。
（注４）前年度より繰越した運営費交付金の支出による。
（注５）支出経費の見直しによる。
※金額は切り捨てのため，合計等が合致しない場合がある。

●特記事項

運営費交付金を充当して行う業務では，人員の削減等の効率化により，人件費が予算に比べて 57,843 千円の支出減となった。物件費は，前年度より繰越した運営費交付金による支出等の要因により，予算に比べ 492,154 千円の支出増となった。

展示事業等収入は，展覧会の入館者数が目標入館者数を大幅に上回ったことから，予算に比べて 437,240 千円の収入増となった。

施設整備費補助金は工事が未完となっていた東京国立近代美術館フィルムセンター相模原分館増築工事，東京国立近代美術館フィルムセンター外壁他改修工事，東京国立近代美術館工芸館外壁等補修工事，東京国立近代美術館工芸館石垣補修等工事及び京都国立近代美術館建物等改修工事について本年度に竣工したが，東京国立近代美術館フィルムセンター相模原分館映画フィルム等収納設備工事については，東日本大震災の影響で本年度に竣工予定だったものが平成 23 年度に延期となった。このことにより，収入が 1,136,950 千円増加し，支出が 1,192,810 千円増加した。寄附金については，19 件，12,748 千円を獲得した。うち 6,632 千円を本年度の収益（うち 3,000 千円は美術作品購入）とし，残りの 6,116 千円を次年度以降に繰り越して執行する予定である。

2　収支計画（単位：千円）

区　　分		計画額	実績額	増△減額
費用の部				
経常経費		5,534,541	5,791,468	256,927
管理部門経費		1,695,203	1,809,660	114,457
うち人件費	（注１）	304,561	366,034	61,473
うち一般管理費	（注２）	1,390,642	1,443,626	52,984
事業部門経費		3,691,616	3,816,247	124,631
うち人件費	（注１）	791,011	670,980	△120,031
うち展示事業費	（注３）	1,883,710	1,847,480	△36,230
うち調査研究事業費	（注３）	165,737	170,241	4,504
うち教育普及事業費	（注３）	851,158	1,127,545	276,387
減価償却費		147,722	165,561	17,839
収益の部				
経常費用		5,534,541	6,333,014	798,473
運営費交付金収益	（注４）	4,392,235	4,553,934	161,699
展示事業等の収入	（注５）	994,584	1,431,824	437,240
資産見返運営費交付金戻入		131,908	147,478	15,570
資産見返寄附金戻入		－	2,930	2,930
資産見返物品受贈額戻入		15,814	13,901	△1,913
寄附金収益		－	7,632	7,632
施設費収益	（注６）	－	175,312	175,312
経常利益			541,545	
臨時損失			3,681	
臨時利益			386	
当期純利益			538,250	
前中期目標期間繰越積立金取崩額			250	
当期総利益			538,501	

主な増減理由

（注１）業務配分の見直しによる。

（注２）施設整備費補助金による費用への計上が増加したことによる。

（注３）支出経費の見直しを行ったことによる。

（注４）前年度より繰越した運営費交付金債務の収益化による。

（注５）入場料収入等の増加による。

（注６）前年度からの継続工事の完了による。

※金額は切り捨てのため，合計等が合致しない場合がある。

３　資金計画（単位：千円）

区分	計画額	実績額	増△減額
資金支出	13,552,568	14,550,530	△997,962
業務活動による支出（注１）	6,781,890	7,940,240	△1,158,350
投資活動による支出（注２）	6,770,678	6,610,289	△160,389
財務活動による支出	－	－	－
資金収入	13,552,568	14,873,250	1,320,682
業務活動による収入	6,853,550	8,185,014	1,331,464
運営費交付金による収入	5,858,966	5,858,966	－
展示事業等による収入（注３）	994,584	2,326,048	1,331,464
投資活動による収入	6,699,018	6,688,236	△10,782
施設整備補助金による収入（注２）	6,699,018	6,687,643	△11,375
有形固定資産の売却による収入		592	592
資金に係る換算差額		△3,335	
資金増加額		319,384	
資金期首残高		2,435,453	
資金期末残高		2,754,838	

主な増減理由
（注１）前年度未払金の支出を行ったことによる。
（注２）前期繰越工事の完了及び当期工事の未完による。
（注３）入場料収入等の増加及び補助金の収入による。
※金額は切り捨てのため，合計等が合致しない場合がある。

４　貸借対照表（単位：千円）

資産の部		負債及び純資産の部	
資産の部		負債の部	
Ⅰ　流動資産	4,260,706	Ⅰ　流動負債	2,637,566
Ⅱ　固定資産		Ⅱ　固定負債	1,102,125
１．有形固定資産	149,743,847		
２．無形固定資産	21,485	負債合計	3,739,692
固定資産合計	149,765,332		
		純資産の部	
		Ⅰ　資本金	81,019,148
		Ⅱ　資本剰余金	67,267,707
		Ⅲ　利益剰余金	1,999,491
		純資産合計	150,286,346
資産の部合計	154,026,038	負債及び純資産の部合計	154,026,038

※金額は切り捨てのため，合計等が合致しない場合がある。

５　短期借入金

実績なし

６　重要な財産の処分等

実績なし

７　剰余金

（１）当期未処分利益の処分計画

区分	金額（円）
当期未処分利益	538,501,029
当期総利益	538,501,029

（２）利益の生じた主な理由

予算額を上回った自己収入があったことによる。

●特記事項

国立新美術館及び国立国際美術館の両館で開催された「ルノワール－伝統と革新」において両館を合わせた目標入館者数 151,000 人に対して 356,341 人，国立新美術館で開催した「オルセー美術館展 2010『ポスト印象派』」及び「没後 120 年　ゴッホ展」において両展を合わせた目標入館者 550,000 人に対して 1,372,897 人の入館者数があったことなどにより，収入予算額を上回る収入を得ることができた。

（３）目的積立金の使用状況

今中期期間における目的積立金の承認がないため，実績はない。

（４）積立金（通則法第 44 条第 1 項）の状況（単位：円）

使途の内訳	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高
積立金	882,567,679	202,787,866	0	1,085,355,545
前中期目標期間繰越積立金	375,885,425	0	250,992	375,634,433

本年度は，中期目標期間の最終年度であるため，通則法 44 条第 3 項による目的積立金の申請を行わなかった。

また，前中期目標期間繰越積立金の当期減少額はファイナンスリース損益に係る影響額である。

８　人事に関する計画

職種別人員の増減状況（過去５年分）

（単位：人）

職種※	１８年度	１９年度	２０年度	２１年度	２２年度
定年制研究系職員	60	61	61	61	61
定年制事務系職員	70	70	70	70	70

①　「公務員の給与改定に関する取扱について（平成 18 年 10 月 17 日閣議決定）」に基づき，公務員の例に準じて措置，対処している。

②　人事交流の推進

事務系職員については，文化庁，国立大学法人及び他の独立行政法人との間で定期的な人事交流を行い,組織の効率化と個々の職員の能力の発揮とその向上を考慮して人事配置を行った。

③　職員の研修等

ア　東京国立近代美術館

・文部科学省主催「平成 22 年度博物館長研修」（１名）
・法務省主催「平成 22 年度人権に関する国家公務員等研修会」（１名）
・総務省主催評価・監査中央セミナー（１名）
・国立大学協会主催「平成 22 年度関東・甲信越地区国立大学法人等係長研修」（１名）
・国立大学協会主催「平成 22 年度関東・甲信越地区及び東京地区実践セミナー（人事・労務の部）」（１名）
・第５９回全国美術館会議総会（１名）
・アジア美術館館長会議（１名）
・第６回アジアキュレーター会議（１名）
・第６６回ＦＩＡＦ総会（１名）
・ブリティッシュ・カウンシル主催「日英キュレーター交流プログラム」（１名）
・デジタルアーカイブを核とするコンテンツ情報基盤に関する研究集会（１名）
・ボルデノーネ無声映画祭（２名）
・東京大学主催「係員研修（７年経験者）」（１名）
・国立美術館「平成 22 年度接遇・クレーム研修」（８名）
・国立美術館「平成 22 年度メンタルヘルス研修」（５名）
・消防訓練（平成 23 年 1 月 24 日）

イ 京都国立近代美術館

・人事院主催「第 63 回近畿地区中堅係員研修」（１名）
・人事院主催「平成 22 年度近畿地区女性職員セミナー（キャリアアップ研修）」（１名）
・人事院主催「第１回近畿地区接遇研修指導者養成コース」（１名）
・京都府主催「平成 22 年度新型インフルエンザ対策訓練」（１名）
・全国美術館会議「第 59 回全国美術館会議総会」（４名）
・国立美術館「平成 22 年度メンタルヘルス研修」（３名）
・国立美術館「平成 22 年度接遇・クレーム研修」（２名）
・米国国務省主催のインターナショナル・ビジター・リーダーシッププログラム（IVLP）として派遣（１名）
・避難誘導訓練・消火訓練（平成 22 年 9 月 13 日）

ウ 国立西洋美術館

・独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所主催「平成 22 年度博物館・美術館等の保存担当学芸員研修」（１名）
・社団法人国立大学協会支部主催「平成 22 年度関東・甲信越地区及び東京地区実践セミナー（財務の部）（１名）
・大学共同利用機関法人人間文化研究機構国文学研究資料館主催「平成 22 年度アーカイブズ・カレッジ史料管理学研修会」（１名）
・東京都主催「総量削減義務と排出量取引制度」管理者講習会（２名）
・財団法人日本産業廃棄物処理振興センター主催「平成 22 年度特別管理産業廃棄物管理責任者に関する講習会」（１名）

・第５９回全国美術館会議総会（１名）
・全国美術館会議　情報・資料研究部会　企画セミナー（１名）
・国立美術館「平成 22 年度接遇・クレーム研修」（１名）
・国立美術館「平成 22 年度メンタルヘルス研修」（２名）
・文部科学省学芸員等在外派遣研修生として海外へ派遣（１名）
・消防訓練（平成 22 年 12 月 6 日）

エ 国立国際美術館
・大阪大学主催「平成 22 年度大阪大学係長研修（新任）」（１名）
・第５９回全国美術館会議総会（５名）
・第６回アジア次世代美術館キュレーター会議（１名）
・国立美術館主催「平成 22 年度新任職員接遇・クレーム研修」（２名）
・大阪市主催「特定建築物の衛生管理に関する講習会」（１名）
・大阪市主催「飲料衛生管理講習会」（１名）
・防災訓練（平成 22 年 5 月 31 日）

オ 国立新美術館
・人事院関東事務局主催「第 35 回関東地区課長研修」（１名）
・人事院関東事務局主催「平成 22 年度関東地区メンター養成研修」（１名）
・財務省会計センター主催「第 48 回政府関係法人会計事務職員研修」（１名）
・独立行政法人工業所有権情報・研修館主催「平成 22 年度第 3 回知的財産研修（初級）」（１名）
・独立行政法人国立公文書館主催「平成 22 年度公文書保存管理講習会」（１名）
・公益財団法人文化財虫害研究所主催「第 32 回文化財虫菌害防除作業に関する講習会と作業主任者能力認定試験」（１名）
・公益財団法人東京防災指導協会主催「平成 22 年度防火管理技能講習」（１名）
・東京都環境局主催「総量削減義務と排出量取引制度」（１名）
・日本博物館協会「第 58 回全国博物館大会」（２名）
・全国美術館会議「第 59 回全国美術館会議総会」（３名）
・国立美術館「メンタルヘルス研修」（６名）
・国立美術館「平成 22 年度接遇・クレーム研修」（４名）
・自衛消防訓練（業者含む。22 年 5 月 18 日、23 年 2 月 15 日）

９　施設整備に関する計画

東京国立近代美術館フィルムセンター相模原分館増築工事，東京国立近代美術館フィルムセンター外壁他改修工事，東京国立近代美術館工芸館外壁等補修工事，東京国立近代美術館工芸館石垣補修等工事及び京都国立近代美術館建物等改修工事については，本年度に工事が竣工した。東京国立近代美術館フィルムセンター相模原分館映画フィルム等収納設備工事については,東日本大震災の影響で本年度に竣工予定だったものが平成 23 年度に延期となった。また，国立新美術館の土地購入については平成 19 年度から，京都国立近代美術館空気調和設備改修については平成 22 年度からの継続事業として，平成 23 年度予算において施設整備費補助金が計上された。

１０　関連公益法人

該当なし。

（別紙１）

「公共調達の適正化について」（財計第 2017 号）等に即した独立行政法人における実施状況調書
（独立行政法人名　国立美術館）

１．　公共調達の適正化についての実施状況

（１）再委託の適正化を図るための措置
　・措置済み　　・一部未措置（　　）　・未措置（　　）

（２）契約に係る情報の公表
　・措置済み　　・一部未措置（　　）　・未措置（　　）

〇各支店・支社等で公表を行っている場合に、法人のメインの公表ページへの直接リンクを行っているか
　・措置済み　　・未措置（　　）　　・支店等がない

（３）公共調達に関する問合せの総合窓口の設置
　・措置済み　・未措置　（　　）
〇措置済みと回答した場合
　・連絡先等（本部事務局財務担当）
　・ＵＲＬ（http://www.artmuseums.go.jp/）

（４）内部監査の実施
（イ）監査計画等に随意契約の重点的監査を記載
　・措置済み　　・未措置（平成 23 年度から）
（ロ）監査マニュアル等の整備
　・措置済み　　・未措置（　　）
（ハ）内部監査の実施状況をデータベース化している。
　・措置済み　　・未措置（　　）

（５）決裁体制の強化
　・措置済み　・未措置　（　　）
　・具体的な措置内容（複数の係による監査を行っている）

２．　随意契約の適正化の一層の推進についての実施状況

（１）随意契約見直し計画の厳正な実施の徹底
　・措置済み　　・一部未措置（　　）　・未措置（　　）

（２）監事の入札・契約の適正な実施についての徹底的なチェック
　・措置済み　　・未措置（　　）

（３）府省の独立行政法人評価委員会による、入札・契約事務の適正執行についての厳正な評価

・措置済み　　・未措置（　　）

３．平成 21 年度各独立行政法人が行う随意契約の見直し状況フォローアップについての公表状況

・公表済み　・未措置　（　　）

○　公表済みと回答した場合

・ＵＲＬ（http://www.artmuseums.go.jp/06/0601.html）

４．平成 21 年度に締結した「競争性のない随意契約」に係る契約情報の公表状況

【上半期分】

・公表済み　・未措置　（　　）

○　公表済みと回答した場合

・ＵＲＬ（1 年間のみ公表しているため既に削除）

【下半期分】

・公表済み　・未措置　（　　）

○　公表済みと回答した場合

・ＵＲＬ（1 年間のみ公表しているため既に削除）

５．平成 22 年度に締結した「競争性のない随意契約」に係る契約情報の公表状況

【第１・四半期分】

・公表済み　・未措置　（　　）

○　公表済みと回答した場合

・ＵＲＬ（http://www.artmuseums.go.jp/06/0601.html）

【第２・四半期分】

・公表済み　・未措置　（　　）

○　公表済みと回答した場合

・ＵＲＬ（http://www.artmuseums.go.jp/06/0601.html）

【第３・四半期分】

・公表済み　・未措置　（　　）

○　公表済みと回答した場合

・ＵＲＬ（http://www.artmuseums.go.jp/06/0601.html）

【第４・四半期分】

・公表済み　・未措置　（　　）

○　公表済みと回答した場合

・ＵＲＬ（http://www.artmuseums.go.jp/06/0601.html）

６．「１者応札・１者応募」に係る改善方策の公表状況

○・公表済み　・未措置　（　　）

○　公表済みと回答した場合

・ＵＲＬ（http://www.artmuseums.go.jp/06/issya.pdf）

【記載要領】

・いずれかを○で囲むこと

・一部未措置又は未措置である場合は、実施予定時期を記載すること

（別紙2）

独立行政法人国立美術館の役職員の報酬・給与等について

Ⅰ 役員報酬等について

1 役員報酬についての基本方針に関する事項

① 平成22年度における役員報酬についての業績反映のさせ方

平成22年度においては，平成21年度の評価結果を基に検討の結果，業績に反映するほどの特に顕著な業績や失態がなかったと判断し，役員報酬の増減は行わなかった。

② 役員報酬基準の改定内容

法人の長

国家公務員の給与を考慮して，報酬月額の引き下げ及び期末特別手当の支給率の引き下げを行った。
（報酬月額：991,000円→989,000円）
（期末特別手当支給率：（6月期）100分の145，（12月期）100分の165
→（6月期）100分の140，（12月期）100分の155）

理事

国家公務員の給与を考慮して，報酬月額の引き下げ及び期末特別手当の支給率の引き下げを行った。
（報酬月額：726,000円から991,000円までの範囲内で理事長が決定する額
→724,000円から989,000円までの範囲内で理事長が決定する額）
（期末特別手当支給率：（6月期）100分の145，（12月期）100分の165
→（6月期）100分の140，（12月期）100分の155）

監事（非常勤）

改定なし

2 役員の報酬等の支給状況

役名	平成22年度年間報酬等の総額				就任・退任の状況		前職
		報酬（給与）	賞与	その他（内容）	就任	退任	
法人の長	千円 18,808	千円 11,884	千円 4,830	千円 2,020（地域手当） 74（通勤手当）			
A理事	千円 14,606	千円 9,376	千円 3,617	千円 938（地域手当） 183（通勤手当） 492（単身赴任手当）			※
B理事	千円 13,871	千円 8,269	千円 4,382	千円 1,157（地域手当） 63（通勤手当）		H22.12.31	
A監事（非常勤）	千円 960	千円 960	千円 0	千円 0			
B監事（非常勤）	千円 960	千円 960	千円 0	千円 0			

注1：「地域手当」とは，当該地域における民間の賃金水準を基礎とし，当該地域における物価等を考慮して規則に定める地域に在勤する役員に支給されているものである。
注2：「前職」欄には，役員の前職の種類別に以下の記号を付している。
退職公務員「*」，役員出向者「◇」，独立行政法人等の退職者「※」，退職公務員でその後独立行政法人等の退職者「＊※」，該当がない場合は空欄。

3　役員の退職手当の支給状況（平成２２年度中に退職手当を支給された退職者の状況）

区分	支給額（総額）	法人での在職期間		退職年月日	業績勘案率	摘　　要	前職
法人の長	千円	年	月			該当者なし	
理事	千円	年	月			該当者なし	
監事（非常勤）	千円	年	月			該当者なし	

注１：「摘要」欄には，独立行政法人評価委員会による業績の評価等，退職手当支給額の決定に至った事由を記入している。

注２：「前職」欄には，退職者の役員時の前職の種類別に以下の記号を付している。
退職公務員「*」，役員出向者「◇」，独立行政法人等の退職者「※」，退職公務員でその後独立行政法人等の退職者「＊※」，該当がない場合は空欄。

Ⅱ 職員給与について

1 職員給与についての基本方針に関する事項

① 人件費管理の基本方針

（人員数及び効率化等を勘案した人件費を算出し，その範囲内で執行した。）

② 職員給与決定の基本方針

ア 給与水準の決定に際しての考慮事項とその考え方

（学歴，試験，経験及び職務の責任の度合いを基に給与決定を行っている。）

イ 職員の発揮した能率又は職員の勤務成績の給与への反映方法についての考え方

（勤務評定等の結果を踏まえた勤務成績を考慮し，昇格，昇給の実施及び勤勉手当の成績率の決定を行っている。）

〔能率，勤務成績が反映される給与の内容〕

給与種目	制度の内容
俸給月額（昇格）	従事する職務に応じ，かつ，総合的な能力の評価により1級上位の級に昇格させることができる。
俸給月額（昇給）	昇給期間における勤務成績等に応じて，上位の号俸に昇給させることができる。
賞与：勤勉手当（査定分）	基準日以前6箇月以内の期間における，勤務成績に応じて決定される支給割合（成績率）に基づき支給される。

ウ 平成22年度における給与制度の主な改正点

（国家公務員の給与を考慮して，次の改正を行った。
・地域手当の引上げ（東京特別区17%→18%，相模原市9%→10%，大阪市14%→15%）
・俸給表の改正（国家公務員に準じた引き下げ）
・期末手当・勤勉手当の支給率の改正（国家公務員に準じた引き下げ））

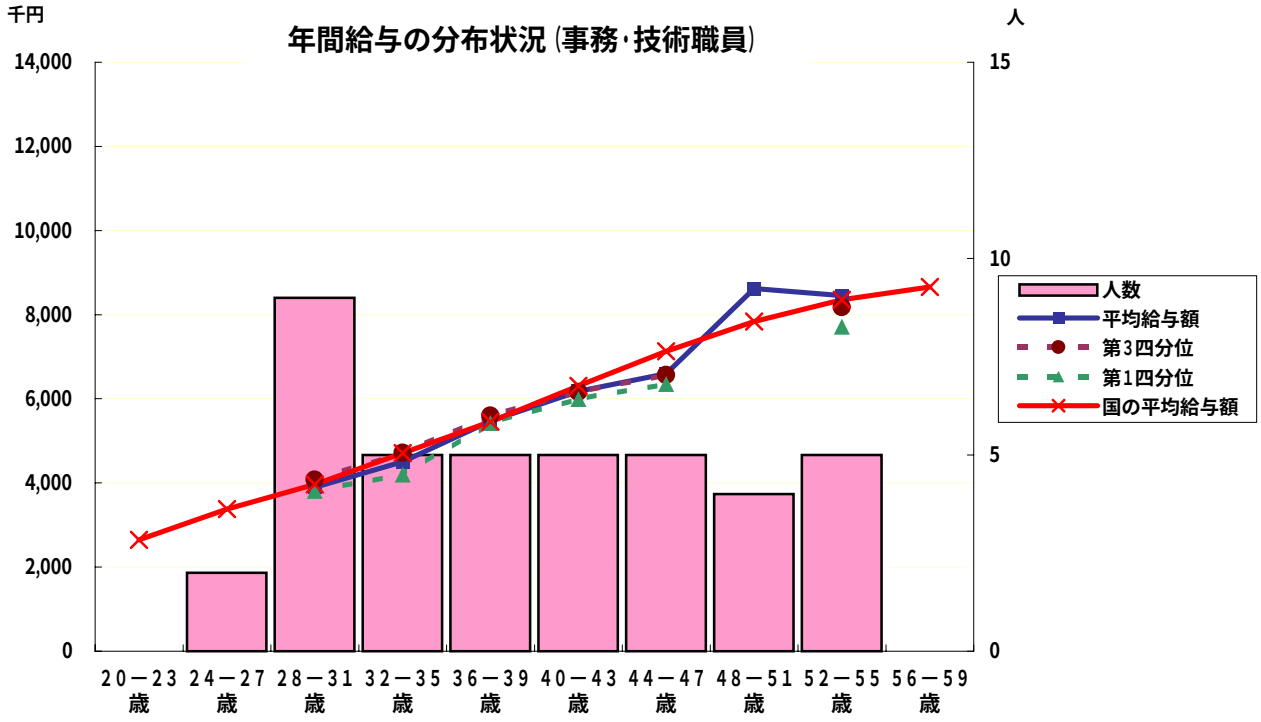
2 職員給与の支給状況

① 職種別支給状況

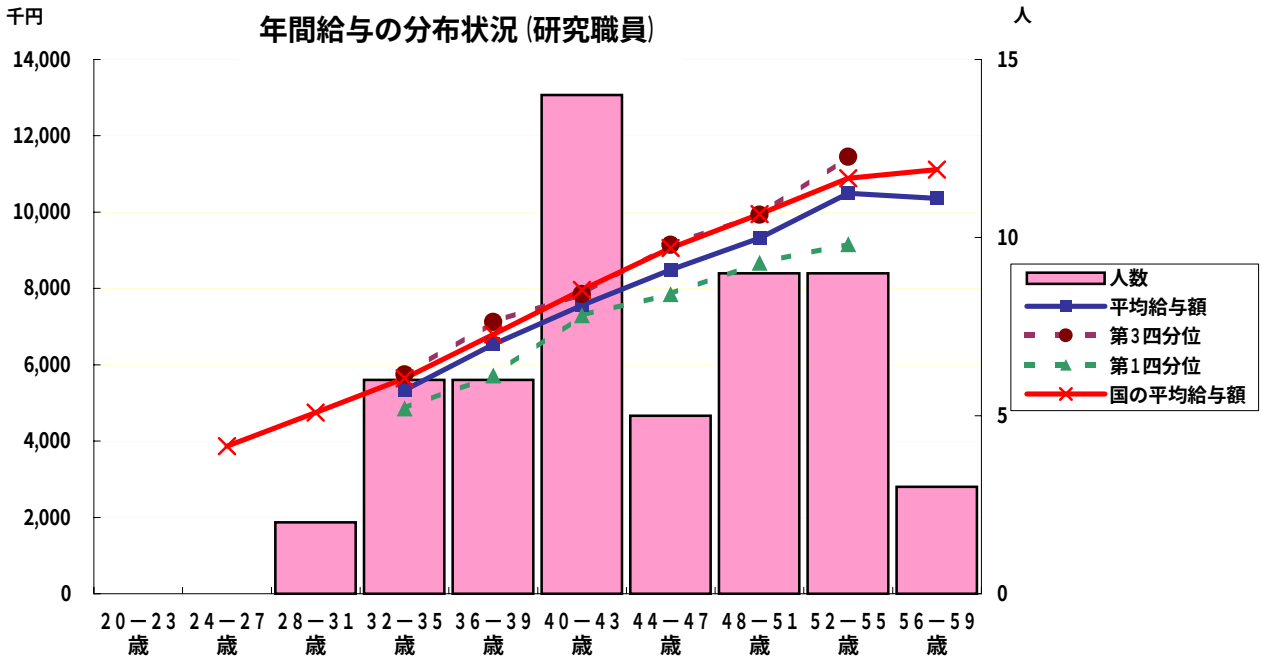
区分	人員	平均年齢	平成22年度の年間給与額（平均） 総額	うち所定内	うち通勤手当	うち賞与
	人	歳	千円	千円	千円	千円
常勤職員	99	43.5	7,433	5,669	162	1,764
事務・技術	40	39.8	5,986	4,548	163	1,438
研究職種	54	44.9	8,265	6,327	160	1,938
技能・労務職種	3	53.2	5,517	4,219	174	1,298
指定職種	2	-	-	-	-	-
非常勤職員	1	-	-	-	-	-
事務・技術	1	-	-	-	-	-

注1：常勤職員については，在外職員，任期付職員及び再任用職員を除く。
注2：技能・労務職種とは，守衛の業務，又は映写技術に関する業務に従事する職種をいう。
注3：指定職種とは，特に指定された高度な業務に従事する職種をいう。
注4：常勤職員のうち指定職種及び非常勤職員に該当する者は2人以下のため，当該個人に関する情報が特定されるおそれのあることから，「平均年齢」以下の項目を記載していない。
注5：常勤職員のうち医療職種（病院医師），医療職種（病院看護師）及び教育職種（高等専門学校教員），在外職員，任期付職員，再任用職員並びに非常勤職員のうち事務・技術を除く各職種については，該当する者がないため欄を省略した。

② 年間給与の分布状況（事務･技術職員／研究職員）〔在外職員，任期付職員及び再任用職員を除く。以下，⑤まで同じ。〕



注1：①の年間給与額から通勤手当を除いた状況である。以下，⑤まで同じ。
注2：年齢24-27歳及び48－51歳の該当者については4人以下のため，当該個人に関する情報が特定されるおそれのあることから，第1･第3分位を表示していない。
注3：年齢24-27歳の該当者については2人以下のため，当該個人に関する情報が特定されるおそれのあることから，平均給与額を表示していない。



注1：年齢56-59歳の該当者については4人以下のため，当該個人に関する情報が特定されるおそれのあることから，第1･第3分位を表示していない。
注2：年齢28-31歳の該当者については2人以下のため，当該個人に関する情報が特定されるおそれのあることから，第1･第3分位及び平均給与額を表示していない。

（事務･技術職員）

分布状況を示すグループ	人員	平均年齢	四分位 第1分位	平均	四分位 第3分位
	人	歳	千円	千円	千円
代表的職位					
本部次長	1	-	-	-	-
課長	4	51.3	-	8,881	-
本部室長	1	-	-	-	-
室長	4	50.3	-	7,481	-
本部係長	3	41.8	-	6,036	-
係長	11	41.1	5,600	5,916	6,354
本部係主任	1	-	-	-	-
係主任	2	-	-	-	-
本部一般職員	4	29.8	-	3,914	-
一般職員	9	30.3	3,794	3,951	4,089

注1：課長，室長，本部係長，本部一般職員の該当者は4人以下のため，当該個人に関する情報が特定されるおそれのあることから，第1･第3分位を記載していない。

注2：本部次長，本部室長，本部係主任，係主任の該当者は2人以下のため，当該個人に関する情報が特定されるおそれのあることから，平均年齢以下の項目を記載していない。

（研究職員）

分布状況を示すグループ	人員	平均年齢	四分位 第1分位	平均	四分位 第3分位
	人	歳	千円	千円	千円
代表的職位					
副館長	2	-	-	-	-
課長	9	52.3	9,929	10,466	11,216
本部主任研究員	1	-	-	-	-
主任研究員	33	45.0	7,295	7,947	8,618
研究員	9	33.6	4,828	5,102	5,663

注：副館長及び本部主任研究員の該当者は2人以下のため，当該個人に関する情報が特定されるおそれのあることから，平均年齢以下の項目を記載していない。

③ 職級別在職状況等（平成２３年４月１日現在）（事務・技術職員／研究職員）

（事務・技術職員）

区分	計	１０級	９級	８級	７級	６級	５級	４級	３級	２級	１級
標準的な職位		施設の長	局長 副館長	局長 次長 副館長	次長 部長	部長 課長	課長 室長	室長 係長	係長 係主任	係主任 一般職員	一般職員
人員 （割合）	人 40	人 0 (0.0%)	人 0 (0.0%)	人 0 (0.0%)	人 1 (2.5%)	人 3 (7.5%)	人 0 (0.0%)	人 6 (15.0%)	人 15 (37.5%)	人 11 (27.5%)	人 4 (10.0%)
年齢（最高～最低）		歳	歳	歳	歳 -	歳 51～48	歳	歳 54～47	歳 47～35	歳 35～28	歳 29～26
所定内給与年額（最高～最低）		千円	千円	千円	千円 -	千円 7,342～6,541	千円	千円 6,068～5,258	千円 4,963～3,606	千円 3,880～2,640	千円 3,017～2,693
年間給与額（最高～最低）		千円	千円	千円	千円 -	千円 9,612～8,689	千円	千円 8,182～7,130	千円 6,692～4,715	千円 5,025～3,488	千円 3,904～3,580

注：7級については該当者が2人以下であるため，当該個人に関する情報が特定されるおそれのあることから，
「年齢（最高～最低）」以下の事項について記載していない。

（研究職員）

区分	計	６級	５級	４級	３級	２級	１級
標準的な職位		施設の長	副館長 課長	課長 主任研究員	主任研究員	研究員	研究員
人員 （割合）	人 54	人 0 (0.0%)	人 9 (16.7%)	人 20 (37.0%)	人 16 (29.6%)	人 9 (16.7%)	人 0 (0.0%)
年齢（最高～最低）		歳	歳 59～49	歳 59～43	歳 44～36	歳 39～28	歳
所定内給与年額(最高～最低)		千円	千円 9,744～7,620	千円 8,092～5,911	千円 6,002～4,288	千円 4,462～3,123	千円
年間給与額（最高～最低）		千円	千円 13,269～9,929	千円 10,568～7,854	千円 7,803～5,724	千円 5,898～4,173	千円

④ 賞与（平成２２年度）における査定部分の比率（事務・技術職員／研究職員）

（事務・技術職員）

区分			夏季（６月）	冬季（１２月）	計
管理職員	一律支給分（期末相当）		% -	% -	% -
	査定支給分（勤勉相当）（平均）		% -	% -	% -
		最高～最低	% -	% -	% -
一般職員	一律支給分（期末相当）		% 65.7	% 67.4	% 66.6
	査定支給分（勤勉相当）（平均）		% 34.3	% 32.6	% 33.4
		最高～最低	% 34.9～32.6	% 37.5～29.3	% 36.3～30.9

注：事務・技術職員の管理職員は２人以下のため，記載していない。

（研究職員）

区分			夏季（６月）	冬季（１２月）	計
管理職員	一律支給分（期末相当）		% -	% -	% -
	査定支給分（勤勉相当）（平均）		% -	% -	% -
		最高～最低	% -	% -	% -
一般職員	一律支給分（期末相当）		% 65.5	% 67.3	% 66.4
	査定支給分（勤勉相当）（平均）		% 34.5	% 32.7	% 33.6
		最高～最低	% 34.9～32.9	% 37.5～29.6	% 36.3～31.3

注：研究職員の管理職員は２人以下のため，記載していない。

⑤ 職員と国家公務員及び他の独立行政法人との給与水準（年額）の比較指標（事務・技術職員／研究職員）

（事務・技術職員）

対国家公務員（行政職（一））	99.7
対他法人（事務・技術職員）	94.7

（研究職員）

対国家公務員（研究職）	94.8
対他法人（研究職員）	94.3

注： 当法人の年齢別人員構成をウエイトに用い，当法人の給与を国の給与水準（「対他法人」においては，すべての独立行政法人を一つの法人とみなした場合の給与水準）に置き換えた場合の給与水準を１００として，法人が現に支給している給与費から算出される指数をいい，人事院において算出

給与水準の比較指標について参考となる事項

○事務･技術職員

項目	内容
指数の状況	対国家公務員　99.7 参考 地域勘案　90.3 学歴勘案　98.8 地域･学歴勘案　90.7
国に比べて給与水準が高くなっている定量的な理由	【主務大臣の検証結果】 国家公務員に比べ低い給与水準であり、適正であると考える。
給与水準の適切性の検証	【国からの財政支出について】 支出予算の総額に占める国からの財政支出の割合　92.7% (国からの財政支出額　12,558百万円，支出予算の総額　13,553百万円：平成22年度予算) 支出総額に占める給与･報酬等支給額の割合　6.1% (支出総額(平成22年度決算ベース)　15,237,533千円，給与･報酬等支出総額922,677千円) 【検証結果】 国からの財政支出の割合が大きいが，平成22年度の事務･技術職員の給与水準は，対国家公務員の指数を下回っており，適切なものであると認識している。
	【累積欠損額について】 累積欠損額　0円(平成21年度決算) 【検証結果】 非該当
講ずる措置	平成22年12月に実施した俸給月額及び期末･勤勉手当の支給率の引き下げ等，人事院勧告を踏まえ国家公務員に準じた給与改正を行っている。平成23年度の対国家公務員指数は，年齢勘案で100程度，年齢･地域･学歴勘案で90程度になると見込まれる。今後も引き続き適正な給与水準となるよう努めるとともに，人員配置の見直し，職員の若返り等の方策の実施により，対国家公務員指数の抑制を図るよう努める。
その他	【管理職の割合】 9.3% 【大卒以上の高学歴者の割合】 72.1%

○研究職員

<table>
<tr><th>項目</th><th colspan="3">内容</th></tr>
<tr><td rowspan="2">指数の状況</td><td colspan="3">対国家公務員　94.8</td></tr>
<tr><td></td><td>参考</td><td>地域勘案　93.0
学歴勘案　94.0
地域･学歴勘案　92.5</td></tr>
<tr><td>国に比べて給与水準が高くなっている定量的な理由</td><td colspan="3">【主務大臣の検証結果】
国家公務員に比べ低い給与水準であり、適正であると考える。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">給与水準の適切性の検証</td><td colspan="3">【国からの財政支出について】
支出予算の総額に占める国からの財政支出の割合　92.7%
(国からの財政支出額　12,558百万円, 支出予算の総額　13,553百万円:平成22年度予算)
支出総額に占める給与･報酬等支給額の割合　6.1%
(支出総額(平成22年度決算ベース)　15,237,533千円, 給与･報酬等支出総額922,677千円)

【検証結果】
国からの財政支出の割合が大きいが, 平成22年度の研究職員の給与水準は, 対国家公務員の指数を下回っており, 適切なものであると認識している。</td></tr>
<tr><td colspan="3">【累積欠損額について】
累積欠損額　0円(平成21年度決算)

【検証結果】
非該当</td></tr>
<tr><td>講ずる措置</td><td colspan="3">平成22年12月に実施した俸給月額及び期末･勤勉手当の支給率の引き下げ等, 人事院勧告を踏まえ国家公務員に準じた給与改正を行っている。今後も引き続き適正な給与水準となるよう努めたい。</td></tr>
</table>

Ⅲ 総人件費について

区　分	当年度（平成22年度）	前年度（平成21年度）	比較増△減		中期目標期間開始時（平成18年度）からの増△減	
給与，報酬等支給総額 (A)	千円 922,677	千円 967,616	千円 △ 44,939	(%) (△ 4.6)	千円 △ 93,599	(%) (△ 9.2)
退職手当支給額 (B)	千円 627	千円 107,902	千円 △ 107,275	(%) (△ 99.4)	千円 △ 40,078	(%) (△ 98.5)
非常勤役職員等給与 (C)	千円 289,262	千円 280,025	千円 9,237	(%) (3.3)	千円 47,027	(%) (19.4)
福利厚生費 (D)	千円 142,234	千円 139,999	千円 2,235	(%) (1.6)	千円 △ 6,942	(%) (△ 4.7)
最広義人件費 (A＋B＋C＋D)	千円 1,354,800	千円 1,495,542	千円 △ 140,742	(%) (△ 9.4)	千円 △ 93,592	(%) (△ 6.5)

総人件費について参考となる事項

「給与･報酬等支給総額」については，役職員の俸給月額及び期末･勤勉手当の支給率の引き下げ，退職者の後任不補充，新規採用による職員の若返り等により，前年度と比較して4.6%減少した。
また，「最広義人件費」については，今年度は定年退職者がいなかったため，退職手当支給額が前年度と比較して約1.5%の額となったこと等により，6.5%減少した。

･簡素で効率的な政府を実現するための行政改革の推進に関する法律（平成18年法律第47号），「行政改革の重要方針」（平成17年12月24日閣議決定）による人件費削減の取組
①中期目標において，平成18年度から5年間，国家公務員に準じた人件費削減の取組を行うとともに，国家公務員の給与構造改革を踏まえた給与体系の見直しを進めることとしていた。
②中期計画において，人件費については，退職手当，福利厚生費及び今後の人事院勧告を踏まえた給与改定分を除き，平成22年度において，平成17年度予算額（1,016,067千円）に比較して，5%以上の削減を達成した。

【主務大臣の検証結果】

5年間で5%以上削減を達成しており、問題ないと考える。

総人件費改革の取組状況

年　度	基準年度（平成17年度）	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
給与，報酬等支給総額（千円）	1,016,067	1,016,276	1,023,008	976,216	967,616	922,677
人件費削減率（%）		0.0	0.7	△ 3.9	△ 4.8	△ 9.2
人件費削減率（補正値）（%）		0.0	0.0	△ 4.6	△ 3.1	△ 6.0

注：「人件費削減率（補正値）」とは，「行政改革の重要方針」（平成17年12月24日閣議決定）による人事院勧告を踏まえた官民の給与較差に基づく給与改定分を除いた削減率である。
なお，平成18年，平成19年，平成20年，平成21年，平成22年の行政職（一）職員の年間平均給与の増減率は，それぞれ0%，0.7%，0%，△2.4%，△1.5%である。

Ⅳ 法人が必要と認める事項

特になし